

近年の豪雨災害記録集・2024

自然に学び、自然に備える

東海（恵南）豪雨から

25年

7.15梅雨前線豪雨から

15年



流域治水

近年の豪雨災害記録集・2024

自然に学び、自然に備える



①東海(恵南)豪雨 矢作川19km付近右岸の浸水状況

②③出典:国土交通省 中部地方整備局 ③提供:中日本航空株式会社

自然に学び、自然に備える

「災害は忘れたころにやって来る」という格言があります。
 しかし、情報手段が発達した近年では毎年のように、
 日本の各地で発生する大規模な自然災害の様子を
 リアルに見ることができるようになりました。
 その一方で、被災しなかった地域に住む人達の多くが、
 「もしも、自分たちの地域で起きたら」という真摯な目で
 自然災害を受けとめる気持ちが薄れてきているとしたら……。
 それもまた、憂うべき事態かもしれません。
 そのためには、歴史に残る様々な自然災害を見直すことで、
 困難に立ち向かった先人たちの思いや教訓を学び、
 自然災害を「我が身、我が事」として感じる心を持つ。
 それこそが「自然に学び、自然に備える」、人間の英知です。

特集1

- | | | |
|--|--|---|
| 03 東海(恵南)豪雨 災害から25年
愛知・岐阜 2000年(平成12年) | 23 秋雨前線・台風21号
三重 2004年(平成16年) | 33 台風12号
和歌山・奈良・三重・静岡・愛知・岐阜 2011年(平成23年) |
| 09 狩野川台風
静岡 1958年(昭和33年) | 24 平成16年台風23号
岐阜 2004年(平成16年) | 35 台風15号
岐阜・静岡・愛知・三重 2011年(平成23年) |
| 11 伊勢湾台風
愛知・岐阜・三重 1959年(昭和34年) | 26 平成18年7月豪雨
長野 2006年(平成18年) | 37 台風8号・梅雨前線
長野 2014年(平成26年) |
| 13 三六災害
長野・岐阜・愛知 1961年(昭和36年) | 27 平成20年8月末豪雨
愛知 2008年(平成20年) | 38 台風18号
静岡 2014年(平成26年) |
| 15 昭和47年7月豪雨
愛知・岐阜 1972年(昭和47年) | 28 西濃豪雨
岐阜・三重 2008年(平成20年) | 39 台風16号
三重 2016年(平成28年) |
| 17 七夕豪雨・水害
三重・静岡 1974年(昭和49年) | 29 台風18号
愛知・岐阜・三重・静岡 2009年(平成21年) | 40 台風21号
三重 2017年(平成29年) |
| 19 9.12豪雨災害(安八豪雨)
岐阜・愛知・三重 1976年(昭和51年) | 30 平成22年7.15梅雨前線豪雨 災害から15年
岐阜・長野 2010年(平成22年) | 41 平成30年7月豪雨
岐阜 2018年(平成30年) |
| 21 9.28豪雨災害
岐阜 1983年(昭和58年) | 32 平成22年台風9号
静岡 2010年(平成22年) | 43 令和元年東日本台風(台風19号)
静岡&日本全国 2019年(令和元年) |

SHONAI RYOKUCHI

YAHAGI DAM

庄内川左岸より赤とんぼ橋を望む

- | | | |
|--|--|---|
| 45 令和2年7月豪雨
岐阜&日本全国 2020年(令和2年) | 58 昭和東南海地震・三河地震
1944年(昭和19年)・1945年(昭和20年) | 67 災とSeeing
「災」を今に伝える場所を「Seeing」
特集2 昭和100年 |
| 47 令和3年7月1日からの大雨
静岡 2021年(令和3年) | 59 阪神・淡路大震災
1995年(平成7年) | 71 昭和の主な豪雨災害 |
| 48 令和3年8月11日からの大雨
長野・岐阜・愛知 2021年(令和3年) | 60 チリ地震による津波
2010年(平成22年) | 73 平成以降に起きた大規模災害 |
| 49 台風15号
静岡・愛知・三重・長野 2022年(令和4年) | 61 3.11東日本大震災
2011年(平成23年) | 77 たいせつな命を守るために |
| 51 梅雨前線と台風2号による大雨
静岡・愛知・三重・岐阜 2023年(令和5年) | 62 御嶽山噴火
2014年(平成26年) | 80 地域づくり技術研究所の取り組み |
| 53 台風10号
東海地方・九州南部 2024年(令和6年) | 63 熊本地震
2016年(平成28年) | 81 参考文献一覧 |
| 55 令和6年全国の主な水害 | 64 大阪北部地震・北海道胆振東部地震
2018年(平成30年) | 85 彩色でよみがえる災害の記録 |
| 57 濃尾地震
1891年(明治24年) | 65 令和6年能登半島地震
2024年(令和6年) | |



東海(恵南)豪雨 2000年(平成12年)9月11日～12日

マリアナ諸島で発生した台風14号は、9月12日3時には中心付近の気圧が935hPaと非常に大きな勢力を保ちながら、ゆっくりと西に進んでいきました。一方、本州では秋雨前線が停滞し、この前線に向かって台風からの暖かく湿った空気が流れ込み、東海地方では大気が非常に不安定な状態となりました。

東海(恵南)豪雨

災害の概要と被害状況

記録的な大雨が、200万都市名古屋およびその周辺に都市型水害を、矢作川流域では上流から下流まで広範囲にわたって甚大な被害をもたらした。

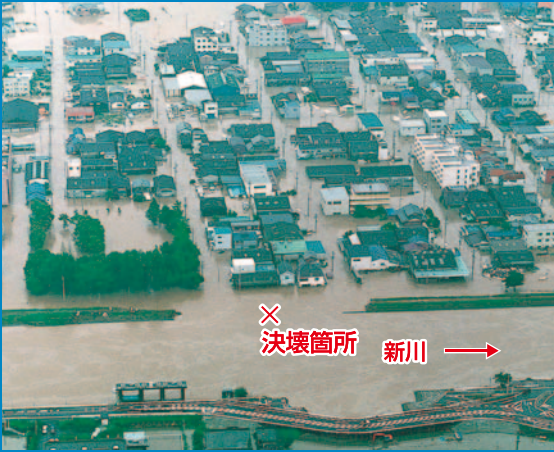
記録的な豪雨によって名古屋市及び周辺地域では、愛知県西部を流れる一級河川新川で堤防が100mに渡って決壊し、庄内・新川流域や天白川流域などに多数の深刻な浸水被害が発生しました。

庄内川・新川流域では、11日午後7時に時間最大雨量93mmとなり、2日間で愛知県の年間降水量の1/3にあたる567mmを記録しました。また、矢作川では矢作ダムに計画洪水流量を上回る大量の水が流れ込み、多くの観測所で日雨量が過去最高を記録するなど、上流域から下流域の幅広い地域で甚大な被害となりました。



新川の堤防決壊による西枇杷島町(清須市)の浸水状況

出典：国土交通省 中部地方整備局



決壊した新川と付近の浸水状況



名古屋市天白区平子橋付近の浸水状況



名古屋市天白区井の森町浸水状況



名古屋市天白区野並付近の浸水状況



提供：名古屋市

土石流により家屋が埋没した上矢作町竜原(岐阜県恵那市)



河川の氾濫により流出した幼稚園と浸水した小学校体育館(矢作川71km地点小渡地区)



豊田大橋付近の出水状況(矢作川39km付近)

●一般被害状況

人的被害は消防庁調べ、その他は水害統計

県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(人)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	全壊・流失(戸)	半壊(戸)
岐阜県	1	—	1	229	274	25	12
愛知県	7	—	107	27,606	41,154	14	113
三重県	1	—	1	252	1,654	—	2
静岡県	1	—	0	4	35	—	—
長野県	0	—	2	69	428	2	5
計	10	0	111	28,160	43,545	41	132

中部地方の被害総額

約6,608億円

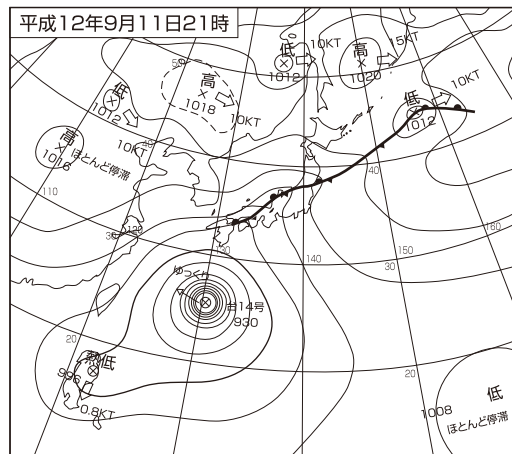
(現在の価値に換算)

※約7,177億円(当時)

※水害統計

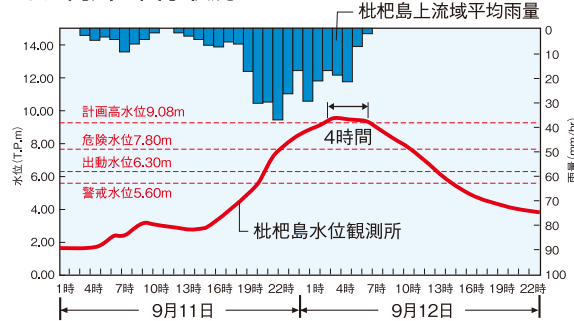
各所で大規模な被害、名古屋市周辺では内水により19km²が浸水。

●天気図



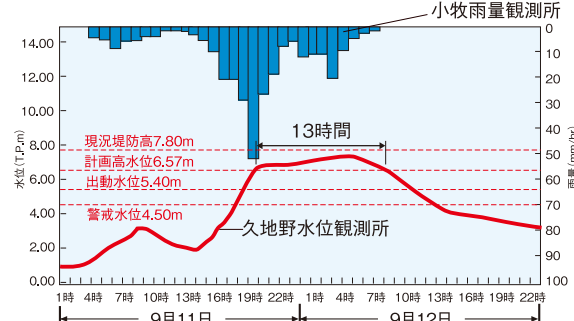
気象庁

●庄内川の出水状況

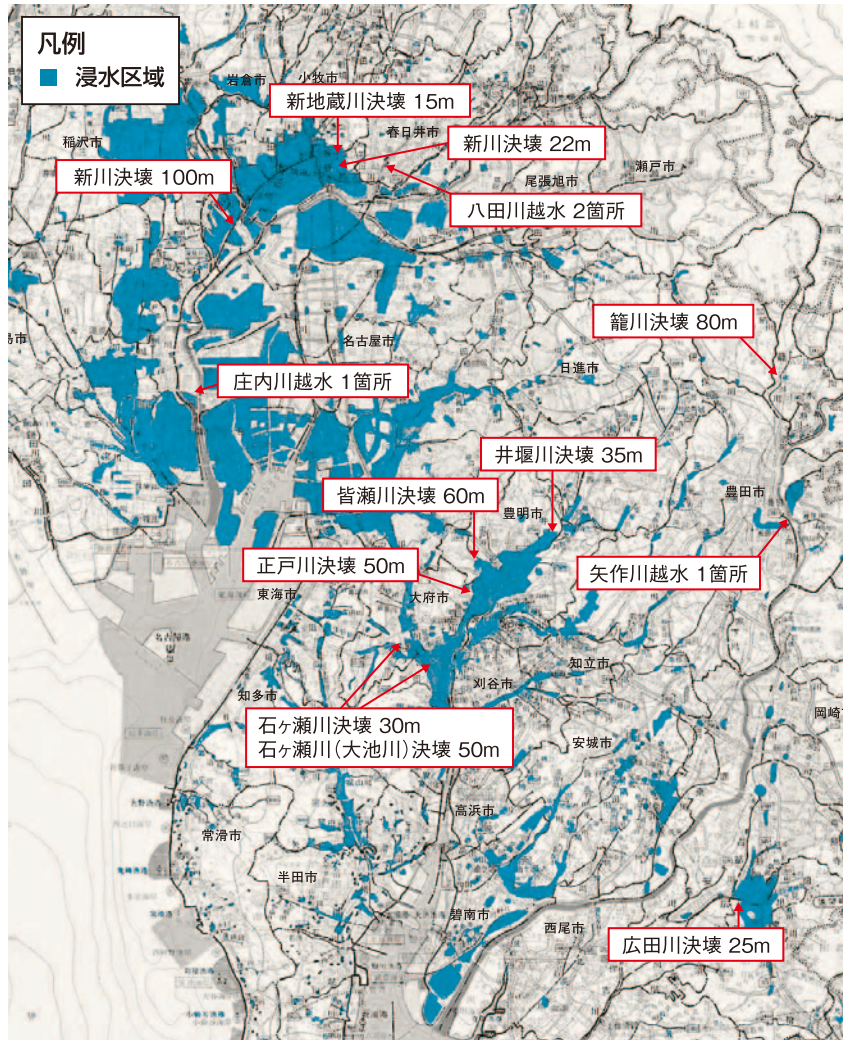


出典：国土交通省 中部地方整備局

●新川の出水状況

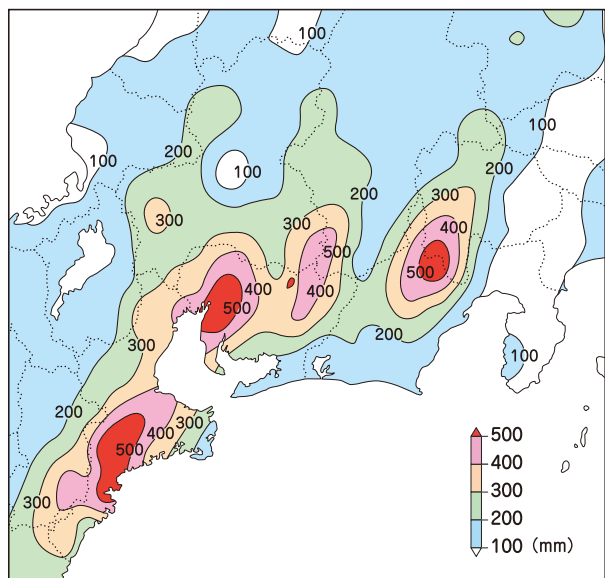


出典：国土交通省 中部地方整備局



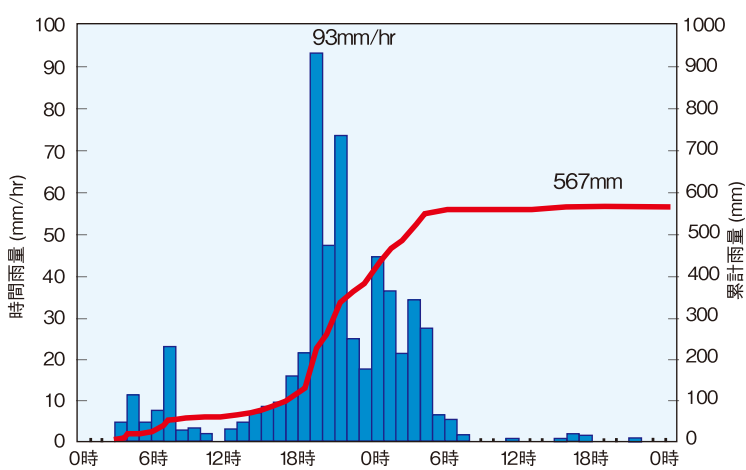
中部の水害 東海豪雨

●総降雨量分布



気象庁

●名古屋地方気象台雨量



(名古屋雨量観測所)

東海(恵南)豪雨

災害の概要と被害状況

公共交通機関が不通、道路も冠水により寸断。

名古屋市および周辺地域で、多数の深刻な浸水被害が発生し、新幹線や在来線を含めた公共交通機関が不通となり、道路も冠水によって寸断されるなど、名古屋市の都市機能は完全に麻痺しました。

こうした道路・鉄道のライフライン被害は、市民生活への影響だけではなく、災害復興にも大きな障害となりました。



冠水した国道22号(西枇杷島町)

出典：国土交通省 中部地方整備局



野並交差点の浸水状況

提供：天白区役所



水没したバス

提供：名古屋市交通局



名鉄須ヶ口駅の浸水状況

提供：名古屋鉄道㈱



浸水した地下鉄平安通駅コンコース

提供：名古屋市交通局



地下鉄大曽根駅7番出入口

提供：中日新聞社



名鉄名古屋本線鳴海駅付近の浸水状況

出典：国土交通省 中部地方整備局

【矢作川水系】

矢作ダムによる洪水調節機能は十全に発揮されたが、計画規模を超えた記録的な豪雨によって被害は拡大した。

一般的に「東海豪雨」として知られる豪雨災害ですが、岐阜県では「恵南豪雨^{けいなん}」と呼ばれています。その理由は、矢作川支流の上村川が氾濫するなど、特に岐阜県恵那郡の南部(恵南)での被害が多かったためです。

矢作ダム上流の山間部には9月11日未明から400mmを超す大量の雨が降り続き、流域の観測所の多くで過去最高となる日雨量が記録されました。矢作ダムには、基本高水の最大である2,300m³/sを大きく上回る3,218m³/sが流入し、管理を始めてから初めてとなる非常用ゲート进行操作して流入量を超えない範囲の下流放流を行いました。この様に、記録的な流入量を矢作ダムで貯めることで、下流河川の放流ピーク時間を遅らせることや水位の低下が図られたことから、洪水調節機能は十分に発揮されました。

洪水調節によって水位の低減は図れましたが、下流部では河川の氾濫や内水被害が発生し、上流部では土石流や道路の寸断によって各地域が孤立するなど、上流から下流まで広域にわたって甚大な被害となりました。



矢作ダム湖を覆う流木

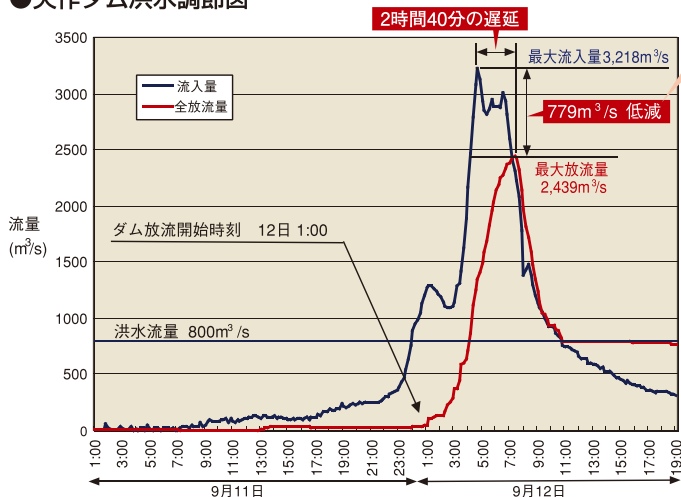


矢作ダム放流状況



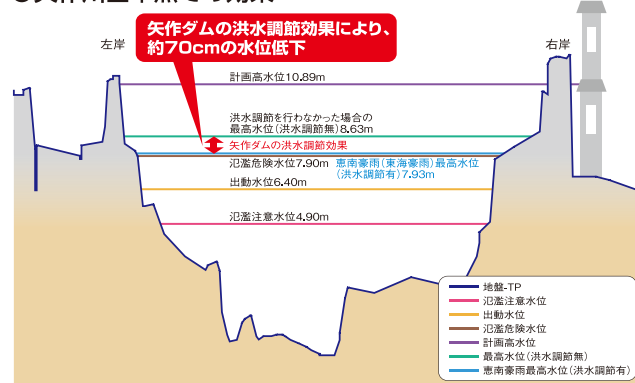
ダムの能力を超える出水により非常用ゲートで放流

●矢作ダム洪水調節図



最大流入量時には約779m³/sを低減し、約3,600万m³をダムに貯留しました。この量はナゴヤドーム29杯分に相当します。

●矢作川基準点での効果



【矢作川基準点岩津(河口より約29.2km地点)の水位観測】

出典：国土交通省 中部地方整備局

東海(恵南)豪雨

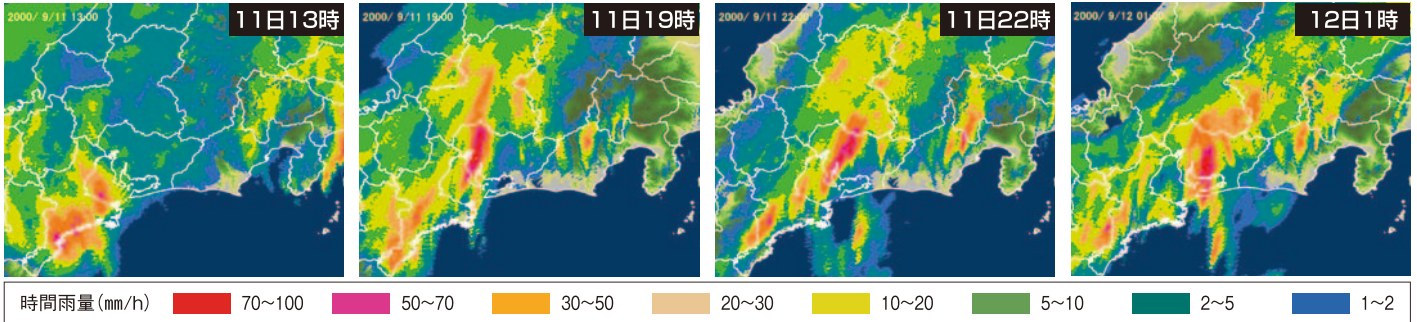
線状降水帯による大雨

25年前の東海豪雨でも、線状降水帯が発生していた。

線状降水帯とは、次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなし、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過あるいは停滞することで作り出される長さ50～300km、幅20～50km程度の線状に伸びる強い降水をともなう雨域のことです。

東海豪雨では三重県北中部から愛知県西部にかけて線状降水帯が発生し、特に17時頃から21時頃にかけて、愛知県西部を中心に1時間に80mmを超える猛烈な雨となりました。

●降雨状況



合成に使用したレーダ／御在所、蛇峠、大楠山、三つ峠、聖高原

東海豪雨で甚大な被害をもたらした線状降水帯は、令和6年には19回発生し、近年全国各地に豪雨をもたらしている。

近年、線状降水帯による大雨が頻発しており、平成26年8月豪雨や平成27年9月関東・東北豪雨、平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月豪雨(西日本豪雨)、令和2年7月豪雨、令和5年6月の梅雨前線と台風2号による大雨など、全国各地に甚大な被害をもたらしています。

気象庁では、線状降水帯による大雨の可能性が高いことが予測された場合、半日程度前から「線状降水帯」というキーワードを使って呼びかけています。令和6年5月からは府県単位での呼びかけを実施しており、呼びかけが実施されたときには、大雨となる可能性が高いことから、大雨災害への心構えを一段と高めることが重要です。

○線状降水帯の発生件数

令和5年 23回
令和6年 19回※

※線状降水帯の事例の数え方は、線状降水帯の雨域は複数の県にまたがる場合もあるため、令和5年度以前と同様に地方予報区(全国を11ブロックに分けた地域)単位としています。

近年全国で発生した線状降水帯による豪雨例

●平成30年7月豪雨(西日本豪雨)



岡山県倉敷市真備町の浸水状況
(平成30年7月8日(日):国土交通省撮影)
出典: 国土交通省 中国地方整備局 河川部

●令和2年7月豪雨



熊本県人吉市の浸水状況
出典: 国土交通省 九州地方整備局

決壊場所付近に残る石碑

新川では左岸堤防が決壊し、西区と旧西枇杷島町は最大2.8mの深さで浸水、全半壊88棟、床上浸水5,293棟(水場川越水を含む)などの甚大な被害が発生しました。

堤防が決壊した付近の「あし原公園」には、被災者らが建立した「東海豪雨水害之碑」があり、東海豪雨の教訓を今に伝えています。また、毎年、災害発生日の9月11日に犠牲者を追悼する集会が開かれ、当時被災した住民らが集まり、犠牲者に黙とうをささげています。



東海豪雨水害之碑



狩野川台風

1958年(昭和33年)9月26日

死者・行方不明853名という甚大な被害を狩野川流域に与えた台風22号は、後に気象庁が「狩野川台風」と命名し、被害の大きな台風を地名で表現する第一号となりました。戦後の復興期にあった静岡県に、忘れることのできない大きな爪跡を残した災害です。

狩野川台風

災害の概要と被害

上流域で土石流、中・下流域で氾濫、 伐採された山が引き起こした複合災害。

狩野川台風で注目されることは、被害が狩野川流域を中心とした狭い地域に集中していることです。これは、強雨域が長時間にわたってほとんど動かず、狩野川の上流域に大量の雨をもたらしたためです。上流域では土石流が多発していますが、この地域は戦争中には薪として、戦後は復興のために大量の木が切り出され、伐採跡地や植林されたばかりの林が目立つ山となっていました。こうした場所から、数多くの土砂崩れや土石流が発生しています。また、中流域では、上流から流れてきた土石や流木が修善寺橋に引っかかり流れを止める、「閉塞状態」を作りだしました。この修善寺橋が倒壊することで、溜まった大量の水が一気に流れ出し、下流域に大被害を及ぼしています。



修善寺橋が倒壊し、下流域の地区に大きな被害を及ぼした(静岡県田方郡修善寺町)

白黒写真提供：国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所



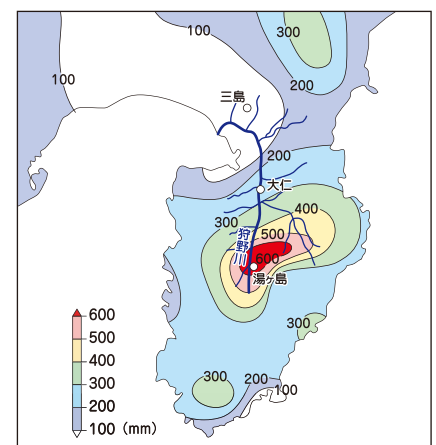
千歳橋に堆積した流木(静岡県田方郡菰山町南条)
白黒写真提供：国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所

●台風経路図



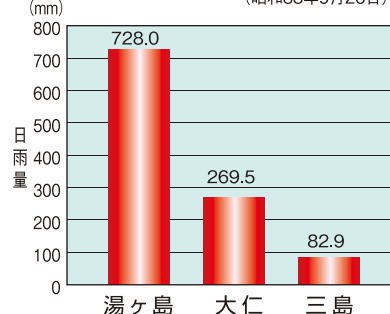
狩野川台風の記録と50年目の検証

●総降雨量分布

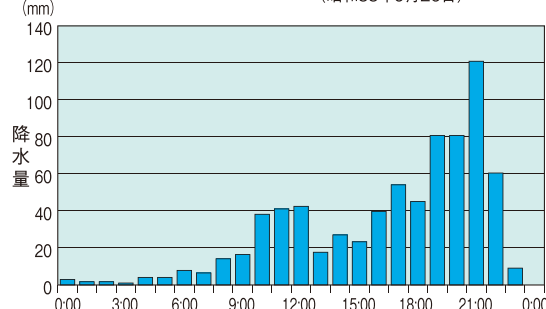


狩野川放水路工事誌

●旧建設省所管の各観測所の日雨量 (昭和33年9月26日)

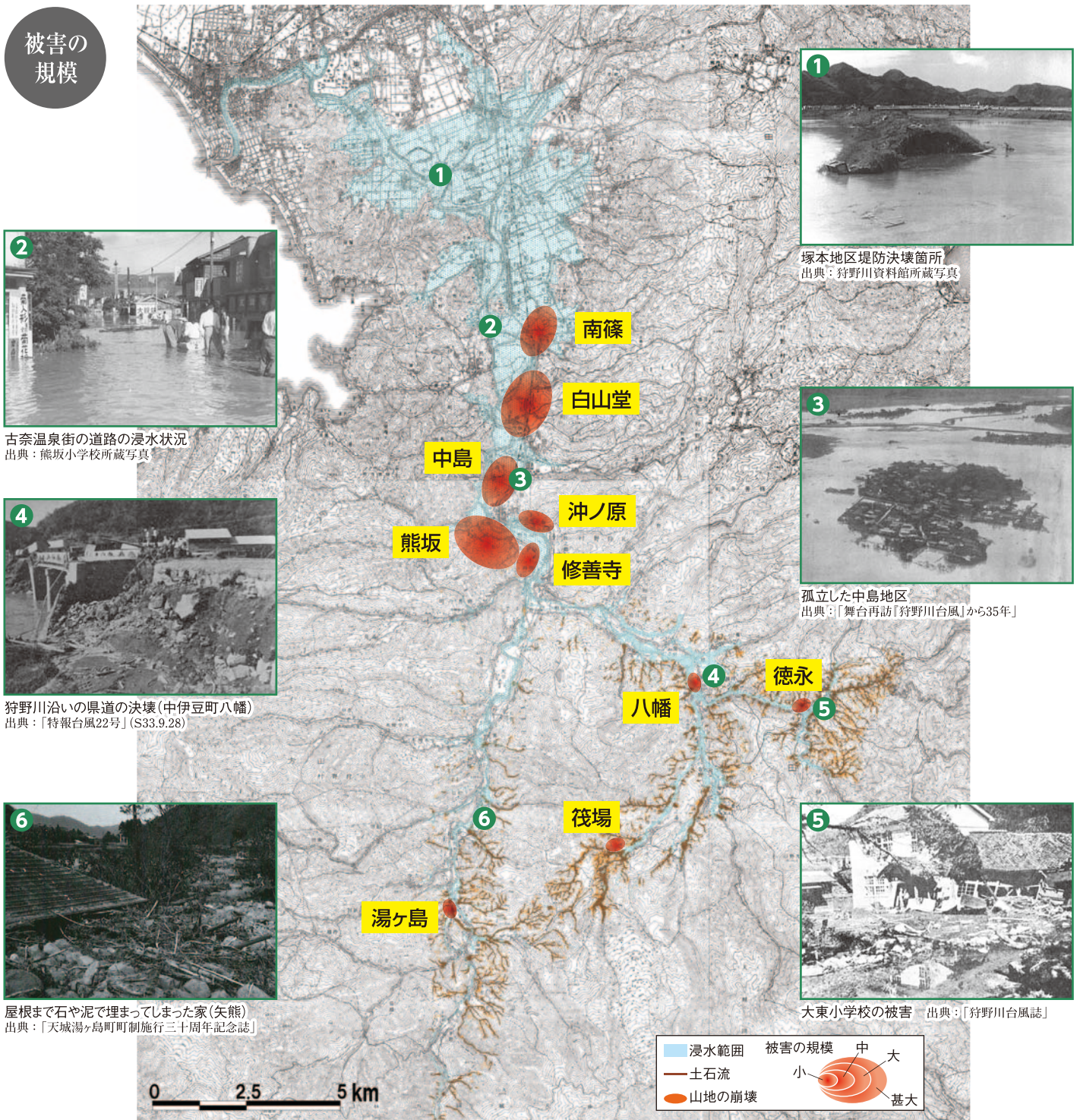


●湯ヶ島雨量観測所で観測された時間雨量 (昭和33年9月26日)



狩野川流域で発生した土石流と河川の氾濫による浸水状況

被害の規模



浸水範囲は、航空写真、既往資料調査、当時を知る方へのヒアリング結果より推定
土石流、崩壊箇所は、昭和33年10月3日撮影航空写真より読みとり（表示は航空写真撮影範囲のみ）

●一般被害状況

狩野川放水路工事誌

区 域	死 者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	全壊流失 (戸)	半 壊 (戸)
下流部	609	147	691	2,679	1,667	650	460
上流部	75	22	44	333	491	308	187
計	684	169	735	3,012	2,158	958	647

下流部：修善寺町、大仁町、伊豆長岡町、菰山町、函南町、清水町、沼津市
上流部：上狩野、中狩野、中伊豆町、北狩野

静岡県の被害総額

約428億円

(現在の価値に換算)

※約99億円(当時)

※狩野川放水路工事誌

提供：国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所



伊勢湾台風 1959年(昭和34年)9月26日

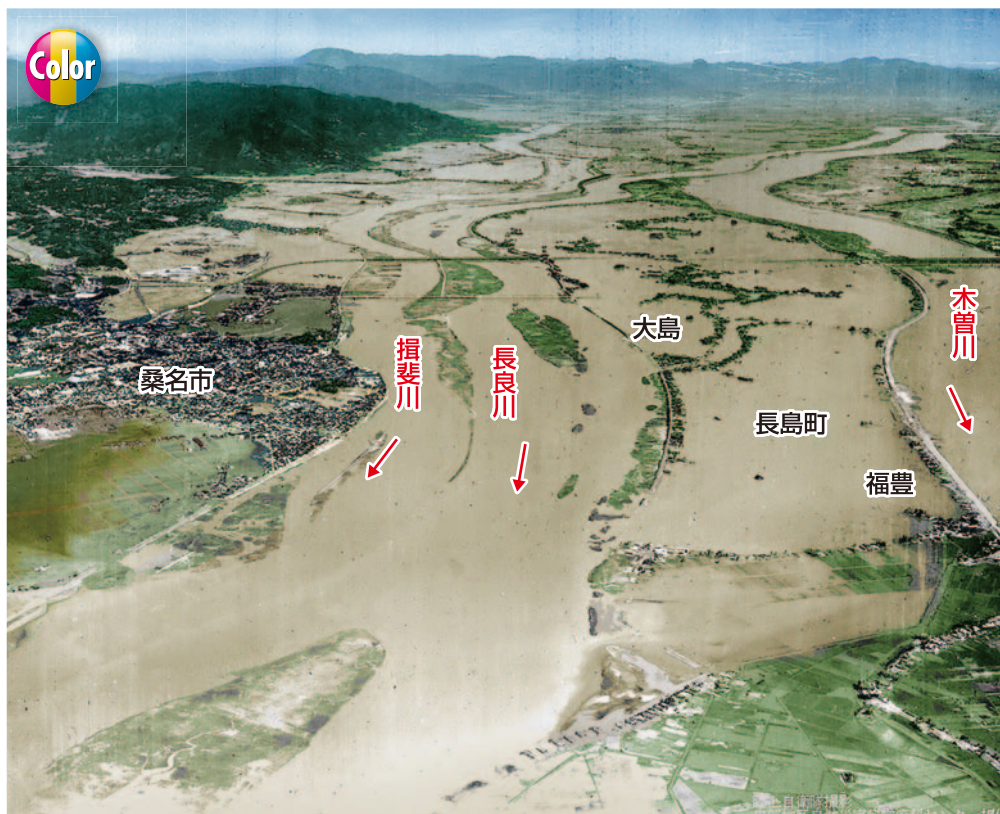
和歌山県潮岬付近に上陸、紀伊半島を縦断した伊勢湾台風は、東海地方を中心に“明治以来最大”といわれる深刻な被害を各地にもたらしました。これを契機として「災害対策基本法」が制定されるなど、日本の防災史にも大きな影響を与えた台風となっています。

伊勢湾台風

災害の概要と被害

堤防を破壊した高潮、 全国で5,000人以上の命が失われた超大型台風。

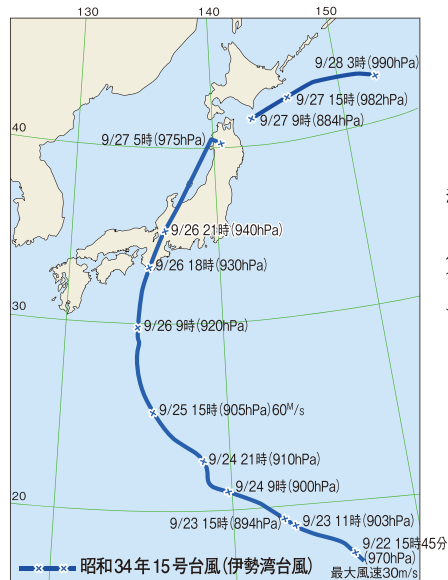
伊勢湾台風を語る上で、欠かすことができないのが「高潮の被害」です。強風による吹き寄せと低気圧による吸い上げ効果によって起こった高潮は、名古屋港において、観測史上最高となるN.P.5.31m(名古屋港基準面)の潮位を記録。伊勢湾沿岸の防波堤や海岸堤防に、猛烈な高潮が襲いかかりました。全国で死者・行方不明者は、5,000人以上になり、1995年の阪神・淡路大震災まで戦後の自然災害では、最大の被害となりました。復旧工事にあたっては、木曽川河口付近・海岸部での高潮堤防の高さを原則7.5mとするなど、伊勢湾台風の潮位、波高を踏まえて、高さや構造が決められました。



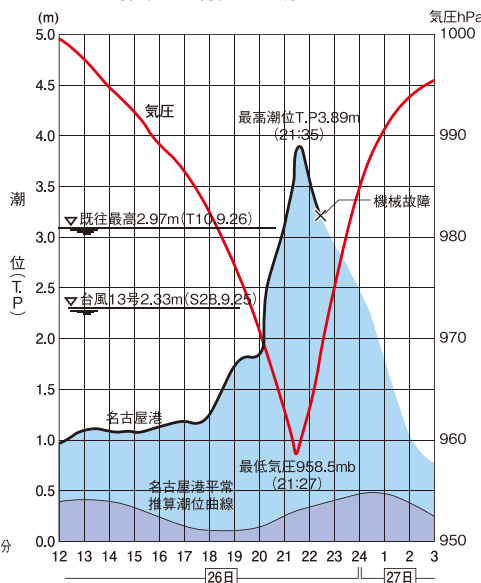
木曽三川下流域の浸水状況(長良川、揖斐川河口付近空から上流側を望む)

白黒写真提供：国土交通省 中部地方整備局 木曽川下流河川事務所
撮影者：陸上自衛隊

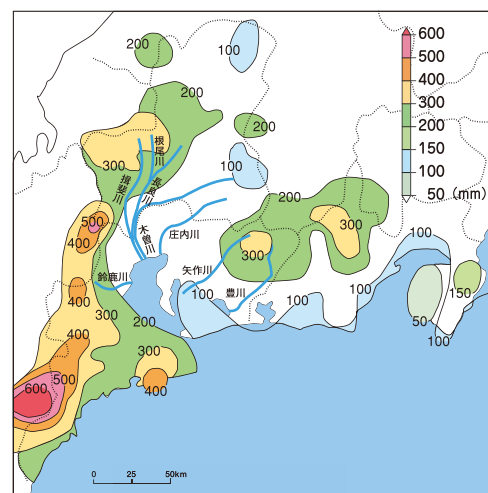
●台風経路図



●気圧の推移と潮位の変化



●台風の直接および間接の影響による 2日間の雨量 (9月25日9時~27日9時)

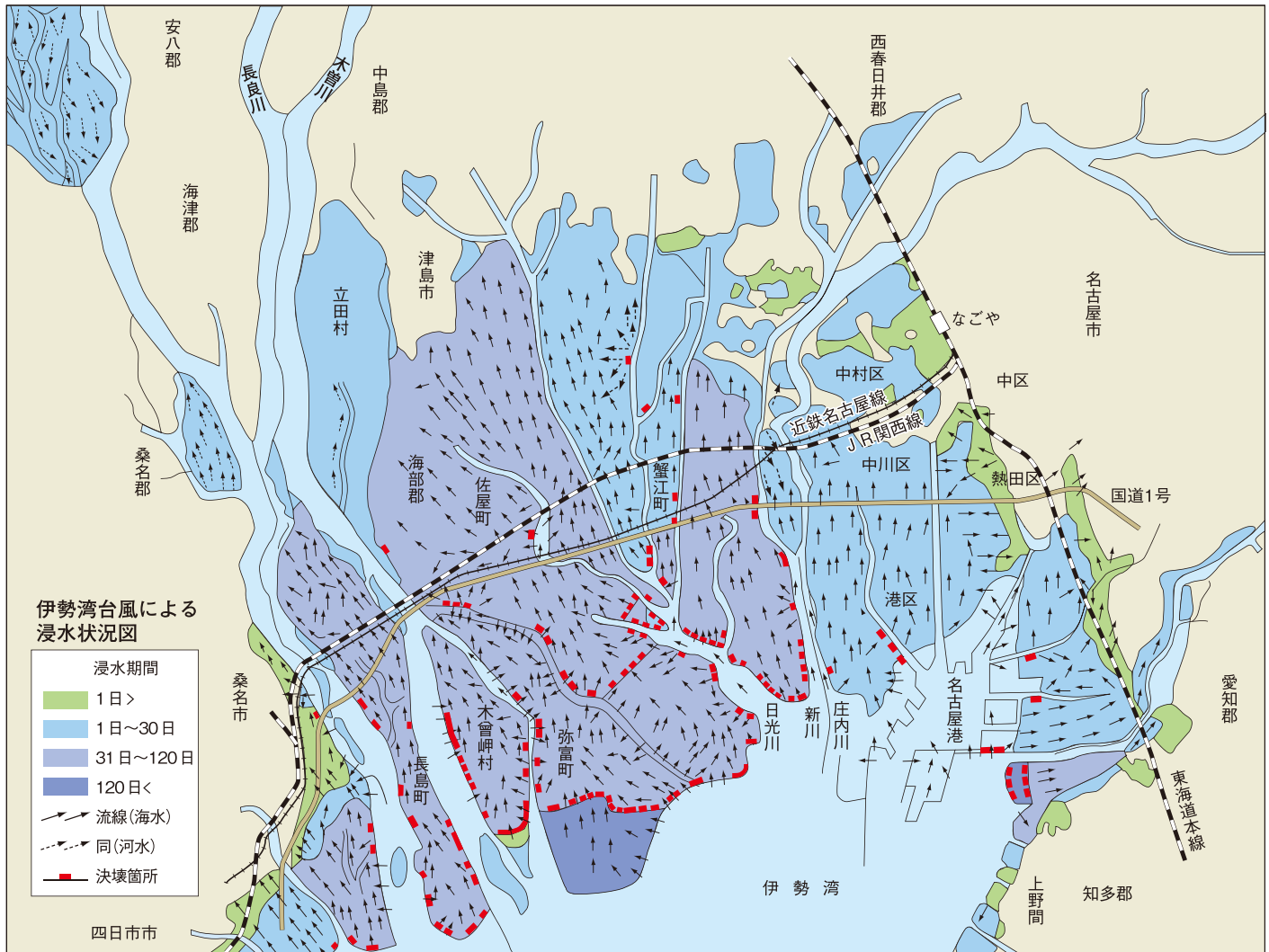


参考資料：伊勢湾台風復旧工事誌 上巻

被災者は全国で120万人 台風の猛威は想像を絶し、被害は広範囲・長期に及んだ。

海抜ゼロメートル地帯では、台風後も長い間浸水状態が続きました。海部郡南部周辺では、決壊した堤防が修復され排水が完了するまで、120日間以上にわたり浸水状態が続き、浸水区域の被害を一層大きくしました。

伊勢湾台風による決壊箇所と浸水状況図



参考資料：伊勢湾台風復旧工事誌 上巻

●一般被害状況

愛知県：伊勢湾台風災害復興誌、岐阜県：岐阜県を襲った伊勢湾台風、三重県：伊勢湾台風災害誌

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	全壊流失 (戸)	半壊 (戸)
岐阜県	86	18	1,708	2,400	8,875	4,022	12,337
愛知県	3,168	92	59,045	53,560	62,831	26,528	97,049
三重県	1,233	48	5,688	30,852	31,803	6,745	16,704

東海三県の被害総額

約2兆3,127億円

(現在の価値に換算)

※約5,512億円(当時)

※伊勢湾台風災害誌



三六災害 1961年(昭和36年)6月27日

「伊那谷災害」とも呼ばれる三六災害は、被害の規模と深刻さから長野県災害史上空前といわれています。土砂の流出もすさまじく、洪水とあわせて大規模災害をもたらしました。三六災害を引き起こした豪雨は、東海地方などでも多くの被害を出しています。

三六災害

災害の概要と被害

大崩壊によって流れを変えられた川、土砂の猛威を記した伊那谷の災害。

昭和36年6月、台風の接近と梅雨前線の停滞による激しい雨が伊那谷を襲い、江戸時代の大洪水である「未(ひつじ)の満水」以来の未曾有の大災害となりました。

標高3,000m級の山々が連なる2つの山脈にはさまれた谷の中央を天竜川が流れる地形、そして脆弱な地質を持つ伊那谷に一日に325mm(飯田測候所)の雨量を記録した集中豪雨が襲いました。このため、いたるところで崖崩れや地すべりなどの土砂災害が発生し、支川から流れ出した大量の土石は天竜川本川の堤防を決壊させ、下流部では溜まった土砂で河床が上がったため堤防を越えて水があふれ出しました。



川路駅周辺の浸水状況(飯田市)

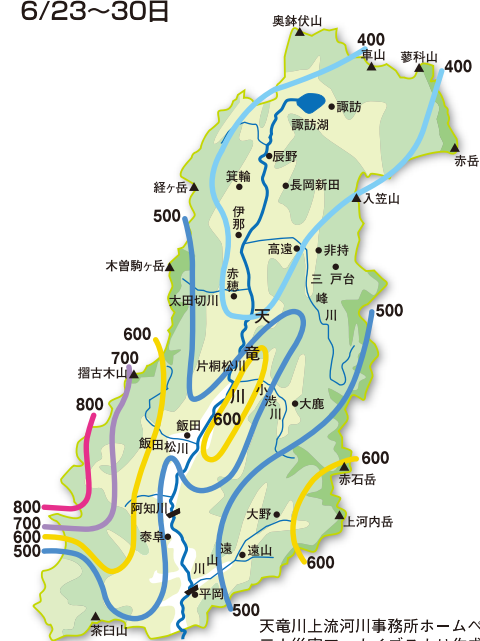
白黒写真提供：飯田市川路水害予防組合



川路地区の被災状況(飯田市)

白黒写真提供：国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所

●三六災害が発生した際の梅雨前線豪雨 連続降雨量分布図(単位/mm) 6/23~30日



天竜川上流河川事務所ホームページ
三六災害アーカイブスより作成

下伊那郡大鹿村の大西山は大崩壊を起こし、崩落した大量の土砂が小渋川をせき止めました。崩落から約1時間後にこの土砂が決壊、濁流は一瞬にして人、家屋、家財を飲み込み、家屋40戸が流される大災害となりました。



崩落土の広がりと流れを変えた小渋川(大鹿村)
提供：中日新聞社



小渋橋下流で多量の土砂により
家屋が埋没(大鹿村)

白黒写真提供：国土交通省 中部地方整備局
天竜川上流河川事務所

三六災害は、木曽三川流域にも 甚大な被害をもたらした。

三六災害を引き起こした豪雨は、東海地方でも木曽川流域で総雨量400～600mm、長良川流域で500～600mm、揖斐川流域で500～700mmに達しました。木曽川流域の愛知県尾西市(現在は一宮市)では全世帯の約8割が浸水し、長良川流域の岐阜県岐阜市では約二万戸以上が浸水するなどの深刻な被害をもたらしました。



一面水の海と化した尾西市

提供：中日新聞社



岐阜市内の浸水状況

提供：中日新聞社

●一般被害状況

わが国の災害誌1965

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	住家全壊 (戸)	半壊 (戸)
長野県	134	3	1,043	3,170	15,318	903	621

長野県の被害総額

約1,255億円

(現在の価値に換算)

※約341億円(当時)

※わが国の災害誌1965



昭和47年7月豪雨

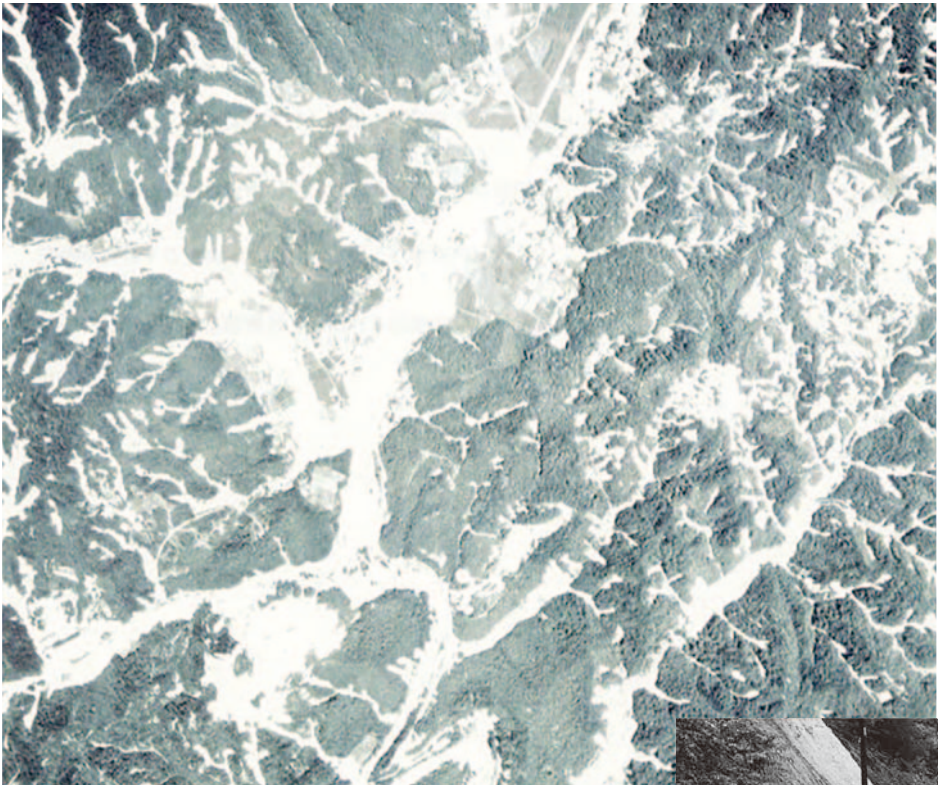
1972年(昭和47年)7月9日～13日

昭和47年7月12日から13日の未明にかけて、愛知県西三河地方や岐阜県東濃地方を中心とした地域に記録的な豪雨が集中、土砂災害や河川の氾濫を引き起こしました。この災害によって多くの人命が奪われるなど、甚大な被害をもたらしました。

昭和47年7月豪雨災害

災害の概要と被害

猿投雨量観測所では14日朝までに猛烈な降水量を記録、旧小原村、旧藤岡村は歴史に残る大災害に見舞われた。



豊田市木瀬町上空からの空中写真
(白く写っている部分が山崩れや土石流が発生した箇所)

愛知県ホームページより引用

愛知県では、7月9日から降り続いた雨が12日夜半より強くなり、特に西三河山間部において一日の降水量が309mm^{*1}を記録、14日朝までの総降水量が458mm^{*2}に達するほどの豪雨となりました。矢作川沿いの三河地方では中小の河川が決壊し、また7月9日から11日までの3日間に及ぶ先行降雨によって地盤が緩んでいた所に12日から13日の集中豪雨が加わったことや、この地域に広がる花崗岩が風化してできた砂状の土「まさ土」という地質であったことなどから、山崩れ、崖崩れが発生しました。

*1、*2とも猿投雨量観測所の記録



西部児童館付近の県道

提供：豊田市

●降水量観測記録

(昭和47年7月9日～13日、日界は当日09時～翌日09時)(単位:mm)

観測所	9日	10日	11日	12日	13日	合計
猿投(県)	29	99	10	309	11	458
小原(気)	38	77	18	284	11	428
大草(建)	39	75	19	281	11	425
安城(気)	12	132	12	183	11	350
豊田(県)		94	13	264		

(雨量観測所：(気)は気象台、(県)は愛知県、(建)は旧建設省の管理)
出典：気象庁

●期間降水量(ミリ)



出典：気象庁

岐阜県では、7月9日朝から雨が降り始め13日夜半まで断続的に降り続けました。特に、11日夜と12日夜半から13日未明にかけては集中的な豪雨となりました。12日から13日の集中豪雨の中心となったのが県の中部地域と東濃地方で、東濃地方では各地にわたって土砂崩れなどを誘発して多数の人命を奪うなど、大きな災害を引き起こしました。



決壊した干洗川

提供：豊田市



犬伏川氾濫の様子(御作の水勝橋付近) 撮影：愛知県豊田事務所林務課(1972年7月16日)



被害状況(明智町上田地区)

出典：災害アーカイブぎふ(岐阜県防災課所蔵)



被害状況(明智町大田大栗)

出典：災害アーカイブぎふ(岐阜県防災課所蔵)



被害状況(瑞浪市陶町水上)

出典：災害アーカイブぎふ(岐阜県防災課所蔵)



被害状況(瑞浪市陶町大川)

出典：災害アーカイブぎふ(岐阜県防災課所蔵)

●一般被害状況

愛知県:昭和47年7月豪雨復興誌、岐阜県:わが国の災害誌(続)1976

県 名		死 者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	全 壊 (棟)	半 壊 (棟)	一部破損 (棟)	床上浸水 (棟)	床下浸水 (棟)
愛知県	豊田市	9	-	19	37	45	99	1,492	2,821
	藤岡村	20	2	26	79	49	380	54	375
	小原村	31	1	64	127	145	159	169	419
	その他	4	1	3	28	48	156	360	8,462
岐阜県		23	2	67	49	37	11	438	1,948
合 計		87	6	179	320	324	805	2,513	14,025

愛知県・岐阜県の
被害総額

約826億円

(現在の価値に換算)

※約385億円(当時)

※わが国の災害誌(続)1976



七夕豪雨・水害

1974年(昭和49年)7月7日

7月7日の七夕に発生したところから、一般的に三重県で「七夕災害」、静岡県で「七夕豪雨」と呼ばれています。三重県では伊勢市の大半が水に浸かるなど、近年その対策が急がれている「都市型水害」を予感させる災害となっています。

七夕豪雨・水害

災害の概要と被害

激特事業第1号となった勢田川改修、静岡県では放水路建設の災害対策を実施。

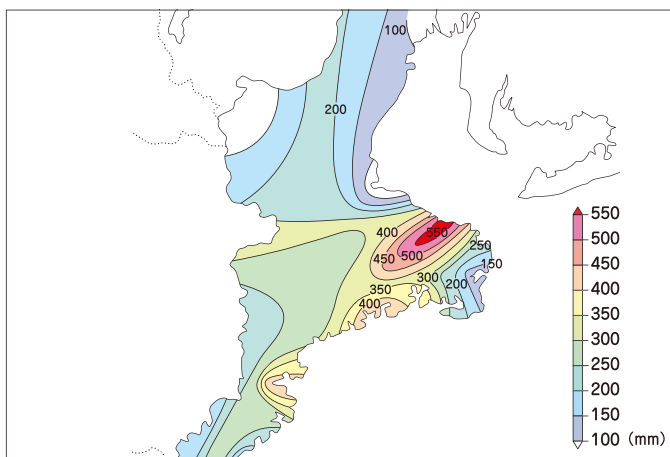
台風8号によって刺激された梅雨前線が、7月6日から8日にかけて太平洋側を中心とした各地に大雨を降らせました。特に被害が大きかったのは三重県と静岡県で、三重県では伊勢市内を流れる勢田川が氾濫、静岡県では静岡市内を流れる巴川などが決壊し、大規模な災害を引き起こしました。このため再度災害防止へ向けて、三重県では勢田川が「直轄河川激甚災害対策特別緊急事業（略称 激特事業）」の第1号として、河川改修が緊急に進められ、勢田川防潮水門が建設されています。また、静岡県では巴川の氾濫防止のため、すでに計画されていた大谷川放水路の建設が促進されることとなりました。



三重県伊勢市岩渕地先の浸水状況

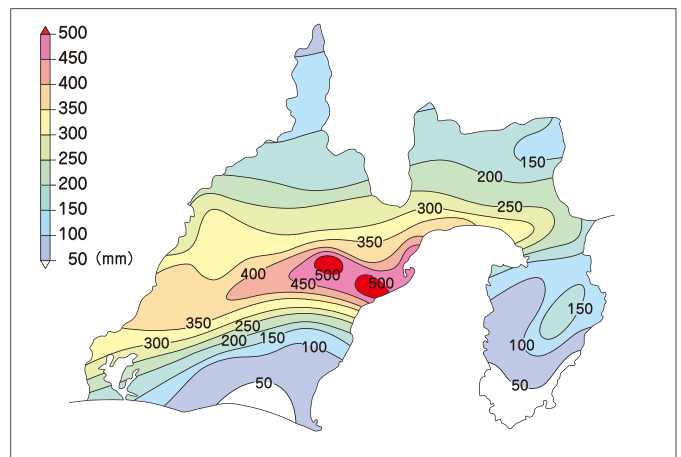
白黒写真提供：国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所

●総雨量分布図(三重県)



五十年のあゆみ

●総雨量分布図(静岡県)



わが国の災害誌第三編



勢田川姫之橋付近の被害状況(三重県伊勢市岡本)

白黒写真提供：国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所



災害の激しかった姫之橋付近(三重県伊勢市岡本)



巴川の決壊による静岡県清水市内の浸水状況

提供：静岡県



大谷川放水路(静岡市駿河区高松)

提供：静岡県

●一般被害状況

わが国の災害誌 第3編

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	全壊流失 (戸)	半壊 (戸)
静岡県	44	—	241	26,452	54,092	241	350
三重県	2	—	8	4,029	17,332	12	24
計	46	0	249	30,481	71,424	253	374

静岡県・三重県の
被害総額

約589億円

(現在の価値に換算)

※約373億円(当時)

※わが国の災害誌 第3編



彩色でよみがえる災害の記録
一般社団法人中部地域づくり協会が
白黒写真をカラー写真加工しました



9.12豪雨災害(安八豪雨) 1976年(昭和51年)9月12日

9月12日に岐阜県安八郡安八町の長良川堤防が決壊したことから、この日付で呼ばれ、また、決壊箇所の地名をとって「安八豪雨」ともいわれます。河川整備が進む中で、一級河川の堤防が決壊したことは、関係者に大きなショックを与えました。

9.12豪雨災害(安八豪雨) 災害の概要と被害

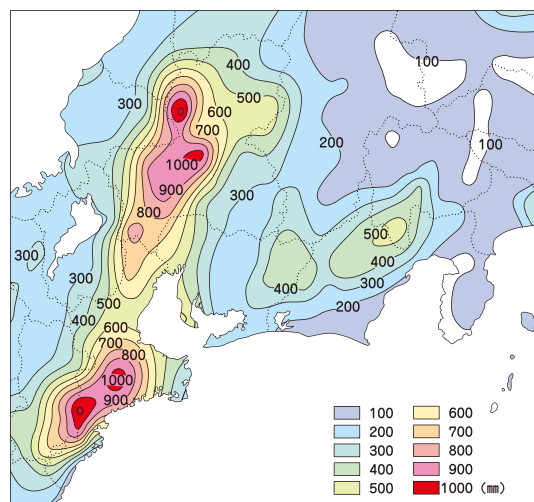
木曽三川と呼ばれる大河、 長良川の堤防が50mにわたって決壊。

昭和51年9月7日から岐阜県内で降り始めた雨は、台風17号の影響を受けて、翌9月8日から14日にかけて、1,250mmという記録的な豪雨を降らせました。岐阜県の長良川流域では、昭和34～36年の3年間連続して大規模な洪水・降雨を経験していますが、1日あるいは2日間の最大雨量や総雨量(忠節上流)など、いずれも過去の出水をはるかに超える記録となっています。水防活動は木曽三川の各所で活発に行われ、延べ1万3千人以上(直轄管理区間)が出動し懸命な水防活動が行われました。しかし、9月12日午前10時28分頃、安八町大森では未曾有の洪水に耐えきれず堤防が50mにわたって決壊しました。決壊した堤防から流れ込んだ水は瞬間に広がり、安八町と墨俣町の約3,500世帯に浸水被害を及ぼしました。



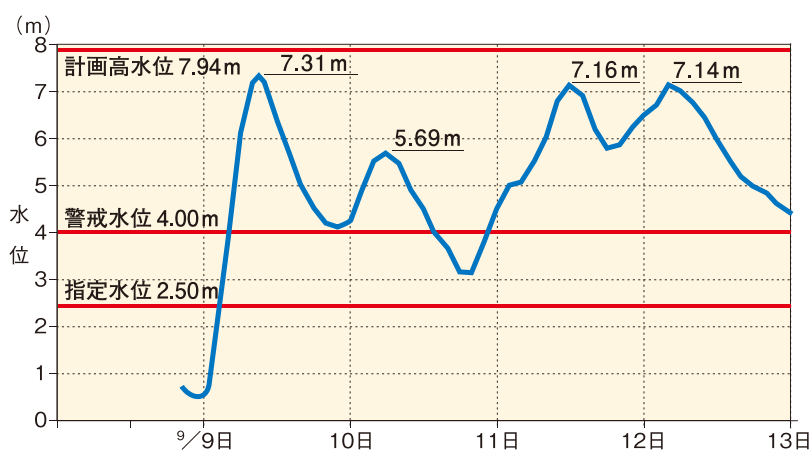
長良川右岸、大森地先の堤防決壊による浸水状況(岐阜県安八郡安八町・大垣市墨俣町)

●総降雨量分布(9月8日～14日)



出典: 気象庁

●長良川の出水状況



墨俣水位観測所 (国土交通省)

9.12豪雨災害(安八豪雨) 災害の概要と浸水・被害状況

7日間降り続いた記録的な豪雨により、東海地方の多くの河川は警戒水位を大幅に超え、各所で越水や堤防決壊、内水氾濫等がおこり、浸水被害が拡大しました。

Color 彩色でよみがえる災害の記録
一般社団法人中部地域づくり協会が
白黒写真をカラー写真加工しました



長良川を含む木曽三川および、名古屋周辺など広範囲にわたって浸水被害が発生(昭和51年台風17号と前線による災害)



9月12日早朝より懸命な水防活動(安八町大森)

提供：岐阜県



10時28分頃 堤防は未曾有の洪水に耐えきれず決壊(安八町大森) 白黒写真提供：岐阜県



自衛隊ヘリによる救助活動(安八町)

提供：岐阜県



日光川・目比川(愛西市)合流地点付近の堤防決壊による浸水状況

提供：愛西市



冠水により通行不能となった旧国道21号線(墨俣町)

提供：岐阜県

●一般被害状況

わが国の災害誌 第3編

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	全壊・流失 (戸)	半壊 (戸)
岐阜県	8	1	22	24,209	51,276	21	133
愛知県	1	0	37	461	13,488	14	435
三重県	1	0	3	1,258	12,988	10	8
計	10	1	62	25,928	77,752	45	576

東海三県の被害総額

約784億円

(現在の価値に換算)

※約575億円(当時)

※わが国の災害誌 第3編



9.28豪雨災害

1983年(昭和58年)9月28日

昭和58年9月27日から28日にかけて発生した豪雨は、観測史上最大の流量を記録した木曽川を始め、飛騨川沿いの市町村、名古屋市や瀬戸市にも甚大な被害をもたらしました。

9.28豪雨災害

災害の概要と被害

昭和58年9月28日、観測史上最大となる洪水は、中山道の宿場町として繁栄してきた中心街を一瞬のうちにのみ込んだ。

台風10号によってもたらされた木曽川の氾濫によって中流域の地域は軒下まで達するほどの浸水となり、岐阜県美濃加茂市では総世帯数の約15%、坂祝町では総世帯数の約12%が甚大な被害をこうむりました。浸水面積は両市町あわせて290ha、被害総額218億円(当時)という未曾有の災害となりました。洪水の被害は、この地域だけにとどまることなく木曽川・飛騨川上流部までに及び、岐阜県全体の被害額は約527億円(当時)にものぼっています。



美濃加茂市の浸水範囲

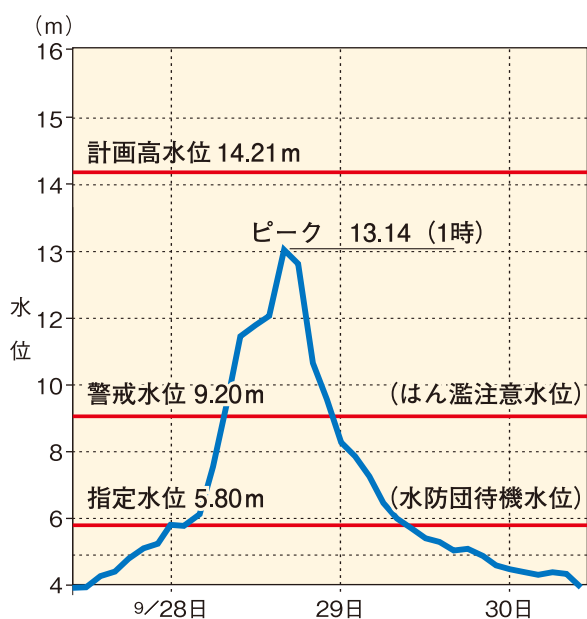


浸水状況(可見市内)



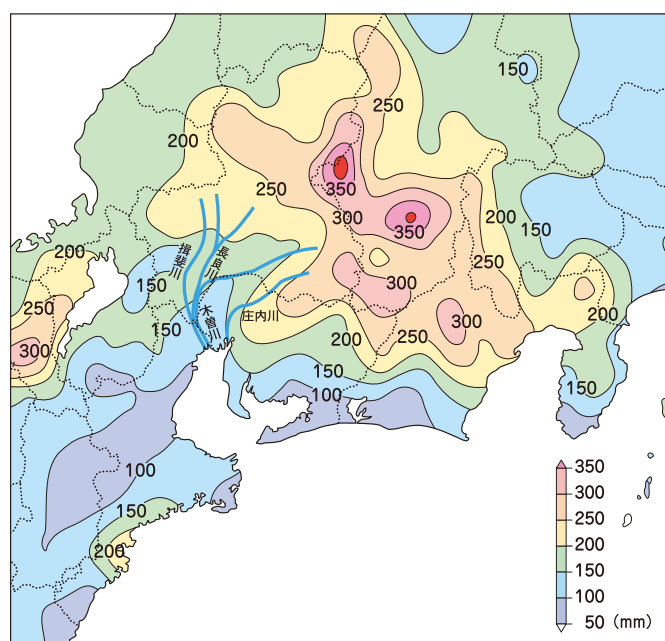
浸水状況(美濃加茂市内)

●木曽川の出水状況



※警戒水位等は、当時の対象水位を示す。
犬山水位観測所(国土交通省)

●総雨量分布



出典: 気象庁

夕方頃より浸水が始まり、河川水位の上昇にともなって拡大。
29日未明には最大となる。
夜間の災害は、避難を一層困難なものとした。



浸水状況(美濃加茂市内)



浸水状況(坂祝町内)



坂祝町の浸水範囲



消防団による救助活動(坂祝町内)



夜間は避難を困難に(美濃加茂市内)



可児市からの応援による救助活動



夜間は避難を困難に(坂祝町内)

木曽川の水位上昇とともに、28日19時過ぎには避難命令が発令され、広報車の呼びかけとともに地域住民の避難が始まりました。

避難にあたっては、各地で消防団による懸命な救出作業も見られました。

美濃加茂市では1,500名にも及ぶ市民の避難が行われる中、1名が逃げ遅れるという不幸な出来事がありました。

岐阜県の被害総額
約559億円

(現在の価値に換算)

※約527億円(当時)

※わが国の災害誌 第3編

●一般被害状況

わが国の災害誌 第3編

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	全壊・流失 (戸)	半壊 (戸)
岐阜県	4	1	4	2,803	1,742	9	19

提供：国土交通省 中部地方整備局 木曽川上流河川事務所
美濃加茂市、可児市、坂祝町



秋雨前線・台風21号 2004年(平成16年)9月28・29日

平成16年は、実に10個もの台風が日本に上陸し、災害が多発した年でした。その内、9月から10月にかけて立て続けに上陸した台風21号・22号・23号は、それぞれ三重・静岡・岐阜県を中心に被害を与えるなど、深刻な事態となりました。

秋雨前線・台風21号

災害の概要と被害

最大時間雨量119mmを記録、 三重県内の各地で豪雨被害が発生。

台風21号の接近にともなって、三重県南部を中心とした各地域では、9月の月間降雨量をはるかに超える観測史上最多の雨量となりました。宮川村(現・大台町)では、9月の1ヶ月平均値620mmを上回る753mmの雨が降るとともに、宮川観測史上最大となる時間最大雨量119mmを記録しました。6件の土石流を始めとして、地すべりや崖崩れの計10件の災害が発生し、6名の死亡者が出るなど最悪の事態となりました。

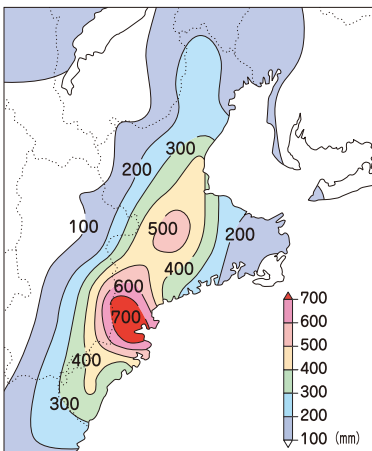
宮川の岩出水位観測所では、観測開始以来最高の水位となる10.16mを記録し、伊勢市内では、床上浸水や路面冠水などの浸水被害が広がりました。また、雲出川水系では床上浸水や床下浸水、櫛田川水系では2箇所にわたり越水し、道路においても、国道23号が各地で冠水、国道42号では道路が決壊するなど、三重県内の幅広い地域で雨による災害がもたらされました。



船津川(三重県紀北町)

提供：三重県

●総雨量分布



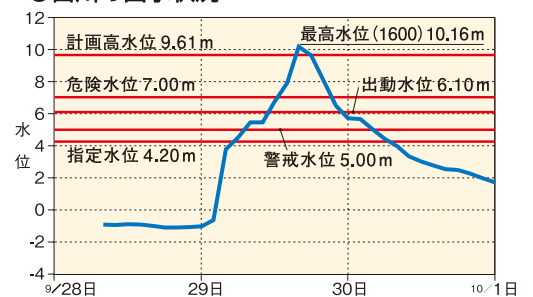
出典：気象庁

●台風経路図



(位置は3時間毎)

●宮川の出水状況



岩出水位観測所(国土交通省)

※警戒水位等は、当時の対象水位を示す。

●一般被害状況

消防庁調べ

県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(人)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	全壊・流失(戸)	住家半壊(戸)
三重県	9	1	2	2,532	3,316	46	23

三重県の被害総額

約692億円

(現在の価値に換算)

※約714億円(当時)

※水害統計



平成16年台風23号 2004年(平成16年)10月20日

秋雨前線を巻き込んで日本列島を北上して行った大型の台風23号は、南は沖縄・九州の西日本から北は福島県までを含む東日本の広い範囲に、大きな被害を与えました。死者・行方不明は98人にも上るなど、平成になって最悪の台風災害となっています。

平成16年台風23号 災害の概要と被害

長良川では過去最大となる出水を記録、 上流域・中流域の各所で深刻な浸水被害をもたらした。

岐阜県内では10月20日昼過ぎから雨が強くなり、17時から21時頃にかけて各地で1時間に40mm～60mmの非常に激しい雨が降り、総降水量は郡上市長滝で325mm、高山市六所で324mm、郡上市八幡で310mmに達しました。

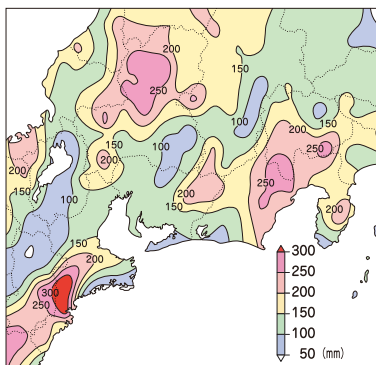
この記録的な豪雨によって、飛騨市・高山市・郡上市・美濃市・関市・岐阜市・大垣市などの広い地域で家屋の全壊や床上・床下浸水などの浸水被害が発生しました。鉄道への被害も深刻で、長良川鉄道越美南線において、路盤流出、土砂崩壊などの被害が発生したほか、JR高山本線の高山～猪谷駅間の橋が流されるなどして不通となり、全面復旧にほぼ3年を要するなど大きな打撃を与えています。また、高山市では災害救助法が適用され、避難所の設置や食品・飲料水の供与などが行われました。



岐阜市長良地区の出水状況

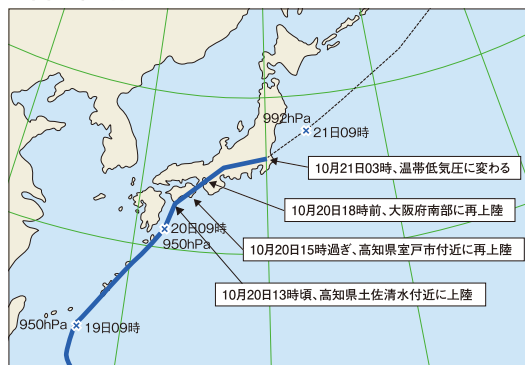
提供：国土交通省 中部地方整備局 木曽川上流河川事務所

●総雨量分布図



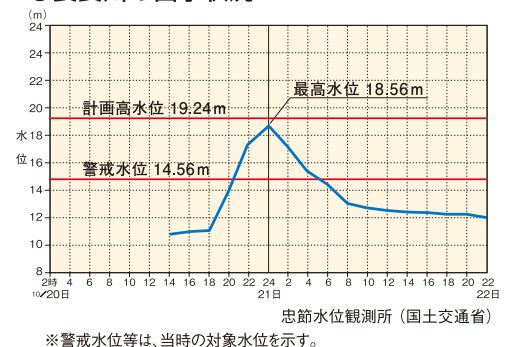
出典：気象庁

●台風経路図



出典：気象庁

●長良川の出水状況



※警戒水位等は、当時の対象水位を示す。

●一般被害状況

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	全壊・流失 (戸)	半壊 (戸)
岐阜県	6	2	18	946	2,176	10	58

岐阜防災局

岐阜県の被害総額

約568億円

(現在の価値に換算)

※約586億円(当時)

※水害統計

平成16年台風23号

出水と被害状況(岐阜市)

鵜飼で有名な岐阜市長良橋付近では、ここより少し下流の忠節観測所で戦後最大となる水位を記録するなど、深刻な出水状況となりました。このため、長良川の氾濫水が住宅街に流れ込むことを防止すべく長良橋右岸に設置された「長良陸閘」を閉鎖するとともに、水防15団体の約530名による懸命な水防活動が実施されました。



長良橋の出水状況

提供：国土交通省 中部地方整備局



長良陸閘閉鎖状況(長良橋右岸)
提供：国土交通省 中部地方整備局
長良橋付近(H16.10.21)



救助活動状況(岐阜市福富)

提供：国土交通省 中部地方整備局

平成16年台風23号

出水と被害状況(飛騨地区・郡上市)

台風23号の記録的な豪雨によって岐阜県内で最も大きな災害を被ったのが、飛騨地区です。飛騨市では、床上浸水164戸、床下浸水191戸の住宅への被害が発生し、避難者は1,736世帯5,989人(※古川町の避難指示数含む)にのぼりました。(10月23日現在判明分)

郡上市では、国道156号の通行止めや長良川鉄道の不通など、ライフラインへの影響がありました。また市内で行方不明者1名、傷病者2名、全壊9棟、半壊16棟、床上浸水188棟、床下浸水243棟(住家・非住家)の被害が発生しました。



JR高山線鉄橋の決壊(飛騨市宮川町岸奥)

提供：飛騨市



郡上市美並町 長良鉄道

出典：岐阜県



大きく削り取られた松坂線の道路
(飛騨市神岡町釜崎)

提供：飛騨市



農地のほとんどが流失
(飛騨市古川町上町、南成町)

提供：飛騨市



郡上市八幡町西之原

出典：岐阜県



浸水位標示板(郡上市八幡町)



平成18年7月豪雨

2006年(平成18年)7月17日～19日

7月15日以降、本州から九州にかけて停滞していた梅雨前線が台風4号の影響で活発化し、九州・山陰・北陸・長野県などで記録的な豪雨となりました。この豪雨によって各地で浸水被害が発生しましたが、長野県内では特に天竜川水系の被害が甚大でした。

平成18年7月豪雨

災害の概要と被害

諏訪湖周辺で土砂災害や浸水被害、箕輪町松島で天竜川堤防が決壊。

長野県では7月18日夕方から、強い雨雲が中部から南部地域にかかり、降り始め(15日6時)から19日10時までの総雨量が中部・南部で400mmを超えるところが出るなど、記録的な大雨になりました。諏訪湖周辺では約558haが浸水して、2,541棟が床上・床下浸水しました。また、JR中央本線や国道20号が約37時間にわたって全面通行止めとなりました。諏訪湖下流の天竜川では箕輪町松島地区の右岸堤防が決壊し、伊那市の殿島橋が落橋するなど、各地で被害が発生しています。

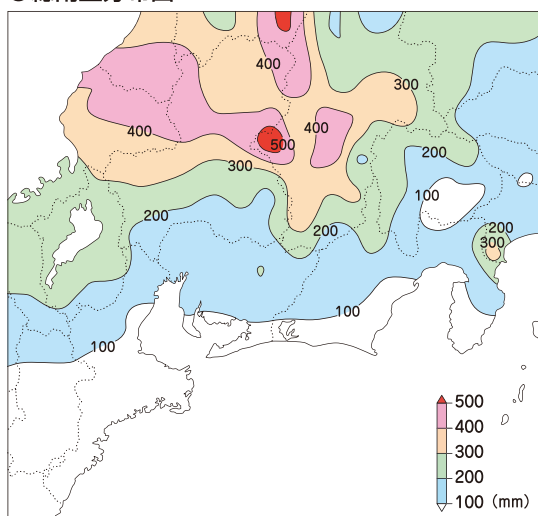


長野県箕輪町松島地区での堤防決壊



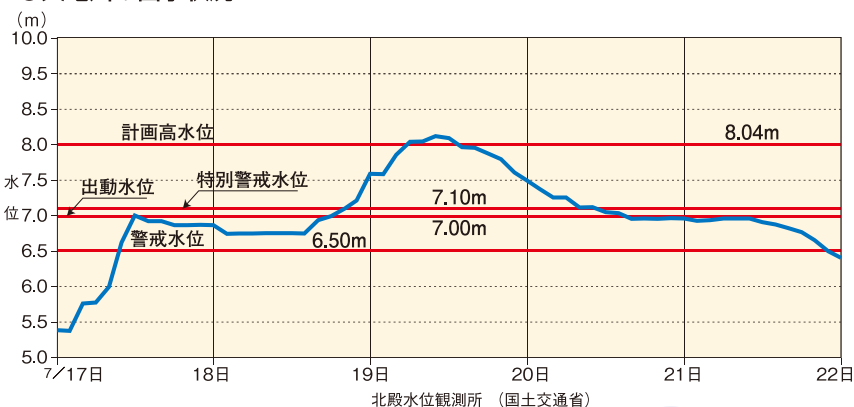
諏訪湖周辺の浸水状況

●総雨量分布図



出典：気象庁

●天竜川の出水状況



※警戒水位等は、当時の対象水位を示す。

●一般被害状況

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	全壊・流失 (戸)	半壊 (戸)
長野県※	12	1	20	805	2,416	22	18

※諏訪湖周辺・上伊那郡・下伊那郡地区の被害総計です。

消防庁調べ

長野県の被害総額

約211億円

(現在の価値に換算)

※約213億円(当時)

※水害統計

提供：国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所



平成20年8月末豪雨 2008年(平成20年)8月28・29日

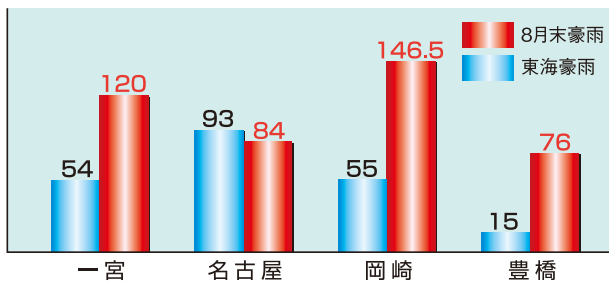
平成20年8月26日から31日にかけて、東海地方・関東地方を中心に大雨による災害が発生しました。短期間に局地的な豪雨となり、東海地方では愛知県に被害が集中し、約2,200世帯が床上浸水となりました。

平成20年8月末豪雨 災害の概要と被害

岡崎市で1時間雨量146.5mmを記録、 愛知県幸田町の広田川堤防が40mにわたって決壊。

8月28日夜、停滞していた前線に南から暖かく湿った空気が流れ込んだことで動きが活発となり、愛知県西部を中心に大雨を降らせました。岡崎市では、8月の月平年値の118.4mmを超える146.5mmの雨量が1時間に集中して降るなど、凄まじい豪雨が襲いました。岡崎市の矢作川水系では、乙川右岸の堤防が決壊、伊賀川右岸の護岸が崩壊しました。幸田町では、広田川左岸の堤防が40mにわたって決壊し、出水によって決壊箇所が80mにまで拡大するなど、大きな災害となりました。また、名古屋市でも床上・床下合わせて約11,000世帯が水に浸かるなどの被害がありました。

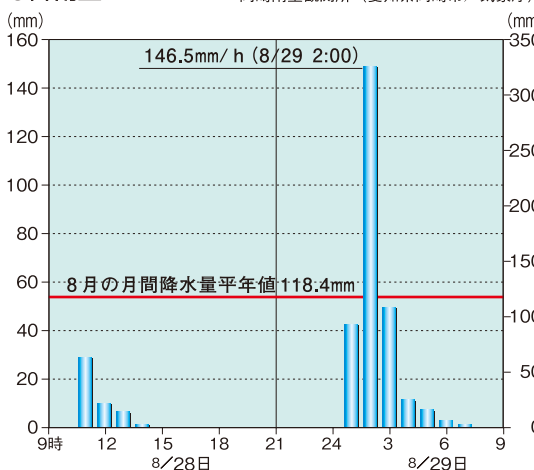
●60分最大雨量



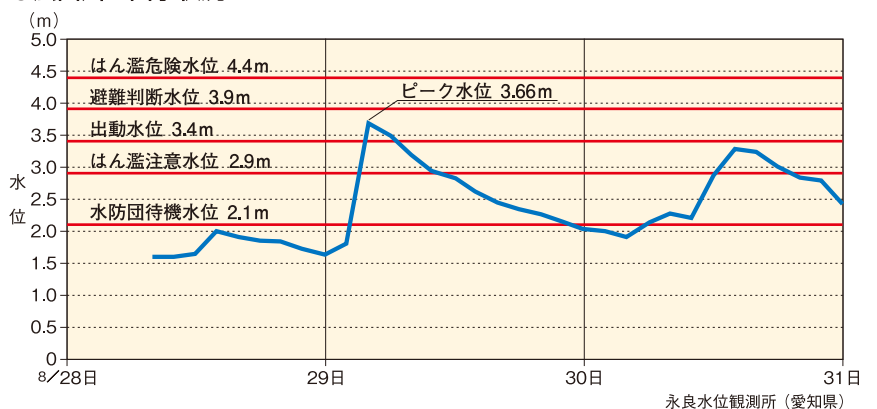
広田川堤防決壊（愛知県幸田町）

提供：愛知県

●降雨量



●広田川の出水状況



●一般被害状況

※愛知県：災害時気象速報（気象庁） ※名古屋市：名古屋市消防局防災室

地域	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	全壊・流失 (戸)	半壊 (戸)
愛知県	3	—	2	1,124	3,147	4	1
名古屋市	—	—	—	1,175	9,929	—	1
計	3	0	2	2,299	13,076	4	2

愛知県の被害総額

約497億円

（現在の価値に換算）

※約494億円（当時）

※水害統計



西濃豪雨

2008年(平成20年)9月2・3日

日本海と四国沖にあった低気圧の影響で、東海地方と近畿地方は記録的な大雨に見舞われました。岐阜県西濃地方の大垣市や揖斐川町で浸水や土砂災害が起きたことから「西濃豪雨」と呼ばれていますが、三重県北勢地域でも土砂災害が発生しています。

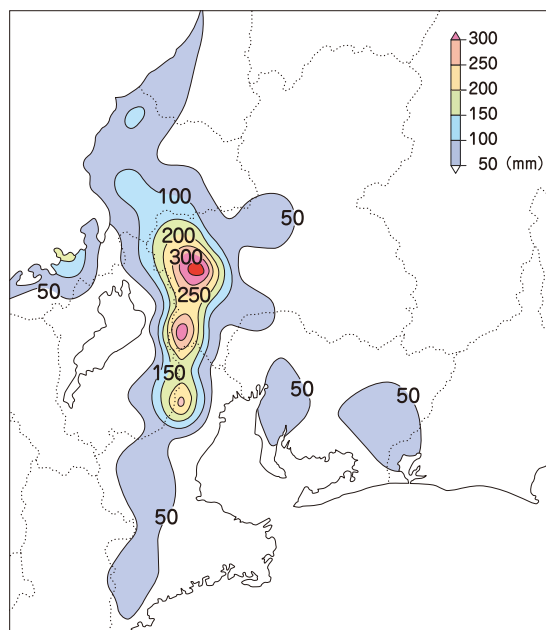
西濃豪雨

災害の概要と被害

9月2～3日の大雨により、 岐阜県揖斐川町や三重県いなべ市で土砂災害が発生。

9月2日からの降水量(3日9時まで)は、下山観測所(大垣市上石津町)で524mmを記録しました。降雨量やピーク水位などは、深刻な被害をもたらした平成16年の台風23号と同程度でしたが、徳山ダム・横山ダムの連携操作による洪水調節や、大垣市内を流れる牧田川・杭瀬川の河道拡幅、大谷川洗堰の嵩上などにより、浸水被害は減少しています。一方で、岐阜県揖斐川町や大垣市上石津町、三重県いなべ市では大規模な土砂災害が発生しました。揖斐川町では県道268号が土砂崩れにより通行不能となるなど、各所で被害が発生しました。

●総雨量分布図



出典：気象庁



岐阜県揖斐川町東津汲の土砂災害

●一般被害状況

※三重県：三重県防災対策室 岐阜県：岐阜県防災課

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	全壊・流失 (戸)	半壊 (戸)
三重県	—	—	—	—	4	—	4
岐阜県	—	—	—	26	84	—	—
計	0	0	0	26	88	0	4

岐阜県・三重県の
被害総額

約27億円

(現在の価値に換算)

※約27億円(当時)

※水害統計



台風18号 2009年(平成21年)10月8日

伊勢湾台風とほぼ同じコースをたどった大型の台風18号は平成21年10月8日、強い勢力を保ったまま愛知県の知多半島に上陸し、中部・関東・東北の広い地域に被害をもたらしました。

台風18号

災害の概要と被害

三河港では伊勢湾台風を上回る3.15mの潮位を記録、各地で強風や浸水による被害も拡大。

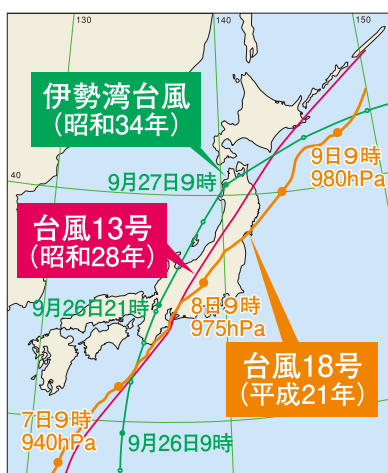
台風18号は、強風とともに猛烈な雨ももたらし、上陸前の10月5日午前6時から上陸後の8日午後12時までの東海地方における降水量は、三重県松阪市粥見で300mm、愛知県東海市東海で220.5mmを記録しました。三重県の雲出川では計画高水位を上回るなど、浸水被害が発生したほか、津市では最大瞬間風速(37.3m/s)で吹き飛ばされたトタン屋根により、電柱が倒されました。愛知県知多市では、国道155号の東橋が出水により崩落するなどの被害が出ました。

名古屋港付近は、伊勢湾台風のとくとは反対に進路の西側に位置したため被害が少なく、一方、進路の東側に位置した三河港では潮位が伊勢湾台風を上回り、神野埠頭に仮置されたコンテナが高潮により流出するなどの被害が発生しました。



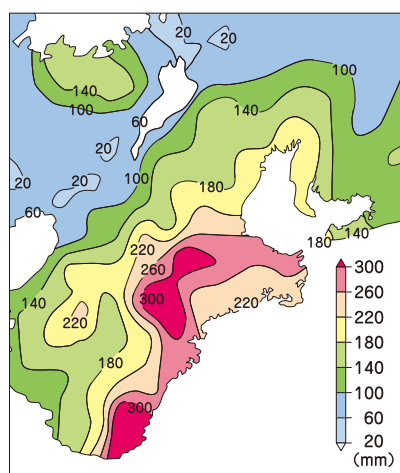
計画高水位を上回った雲出川と地域の浸水状況(三重県津市)

●台風進路図



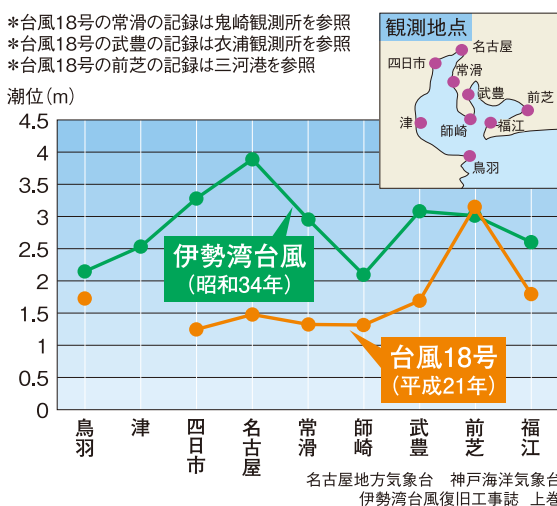
出典:国土交通省 中部地方整備局 河川部

●雨量分布



出典:気象庁

●各地域の最高潮位



●一般被害状況

県名	死者・行方不明者(人)	負傷者(人)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	一部破損(戸)	半壊(戸)
愛知県	0	19	246	1,235	2,092	41
岐阜県	0	1	0	0	3	0
三重県	0	4	18	161	208	6
静岡県	0	10	0	4	87	1
計	0	34	264	1,400	2,390	48

消防庁

愛知県・岐阜県・
三重県・静岡県の被害総額

約97億円

(現在の価値に換算)

※約96億円(当時)

※水害統計

提供:国土交通省 中部地方整備局



平成22年7.15梅雨前線豪雨

2010年(平成22年)7月10～16日

7月10日から16日にかけて本州付近に停滞した梅雨前線は広範囲にわたり局地的な大雨となり、岐阜県、長野県を中心に浸水被害、土砂災害などが発生しました。岐阜県八百津町、白川町では日雨量が観測史上1位を更新する豪雨となりました。

平成22年7.15梅雨前線豪雨

災害の概要と被害

梅雨前線の影響により局地的な大雨、東海地方では、岐阜県を中心に浸水被害、土砂災害が発生した。

岐阜県内では梅雨前線や低気圧の影響で大雨となり、土砂災害や浸水被害が発生しました。11日から16日にかけて、下呂市、郡上市、高山市などで大雨となり、アメダス観測点(岐阜県加茂郡八百津町伽藍^{からん})では日降水量238.5mmの観測開始以来の記録を更新する猛烈な大雨が降りました。

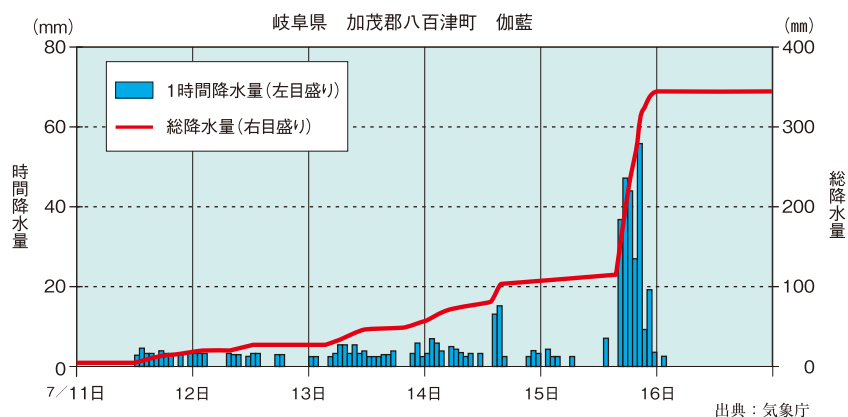
この豪雨によって可児市では可児川が氾濫し浸水被害が発生しました。八百津町では土石流により家屋の全壊、半壊の被害が発生しました。御嵩町では住家被害のほか、国道21号の路肩法面が崩壊するなど交通機関に影響を及ぼしました。また、長野県では飯田市国道152号幹線道路が土砂流出等により寸断し、住民が孤立しました。



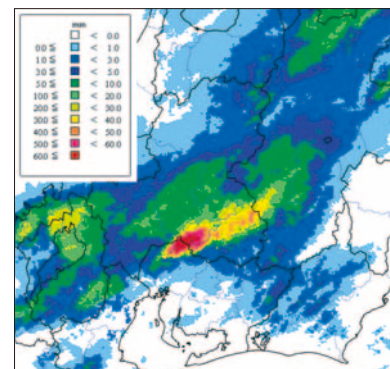
河川氾濫による被害状況(可児市土田)

提供：中日本航空株式会社

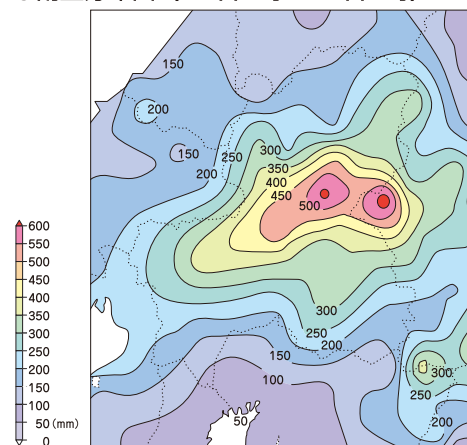
●降水量時系列図(地上・アメダス:7月10日～16日)



●15日20時までの1時間雨量分布



●雨量分布図(11日6時～16日6時)



●一般被害状況

人的被害は消防庁調べ、その他は水害統計

県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(重傷)(人)	全壊(戸)	半壊(戸)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)
岐阜県	4	2	1	4	6	223	403
長野県	1	0	0	7	—	18	112
静岡県	0	0	0	0	0	0	2
愛知県	0	0	0	0	0	5	63

平成22年7,15梅雨前線豪雨

被害状況と痕跡



土砂災害により家屋へ土砂が流入（八百津町野上地区）

提供：中日本航空株式会社



八百津中学校グラウンド一面に
大量の土砂が堆積（八百津町野上地区） 提供：八百津町



完成した砂防堰堤（八百津町野上地区） 撮影：令和7年4月



土砂崩れにより道路の寸断が発生
町道大平・小洞線（八百津町久田見・大平公園付近）

提供：八百津町



自衛隊員による決死の捜索（八百津町野上地区）

提供：八百津町

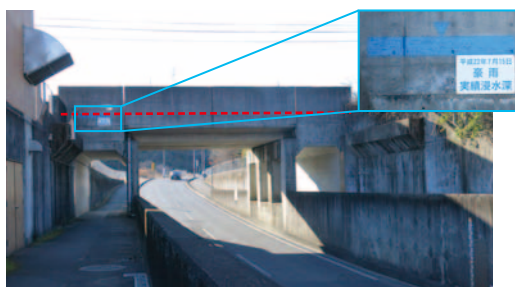


平成22年7.15梅雨前線豪雨をはじめ、これまでの数々の
災害を記憶し、自然への畏敬と共生の念を誓うために、
2012年に『自然と人との共生モニュメント「丘」』が建立さ
れました。



アンダーパスにおける当時の車両被害状況（可児市土田）

提供：可児市



現在アンダーパスに残る実績浸水深

愛知県・岐阜県・
静岡県・長野県の被害総額

約150億円

（現在の価値に換算）

※約145億円（当時）

※水害統計

平成22年台風9号

2010年(平成22年)9月8日

台風9号は沖ノ島付近で台風となり、8日11時過ぎに福井県敦賀市付近に上陸しました。岐阜県、静岡県を通り静岡県小山町では1時間雨量118mmを記録し、浸水被害、土砂災害が発生しました。

平成22年台風9号 災害の概要と被害

9月8日、台風9号の接近により、御殿場市で総雨量503mmを記録。黄瀬川で水位が10分間に1.82m上昇した。

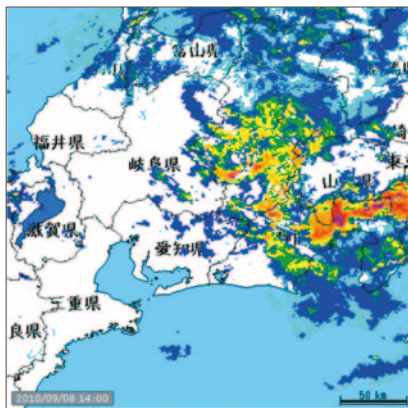
台風9号は上陸後、中部地方を南東に進み、静岡県では、井川で1時間降水量56.5mm、御殿場で46.0mmを観測しました。特に降雨が多かった小山町付近では、10時に1時間降水量110mmを記録し、その後も東部では強い雨が断続的に降り続き、16時においても1時間降水量が118mmとなり記録的な大雨を観測しました。この豪雨により、小山町では浸水被害が発生し、また、土砂崩れや道路の崩落により通行止めとなるなどの被害が発生しました。



河川氾濫による被害状況(小山町)

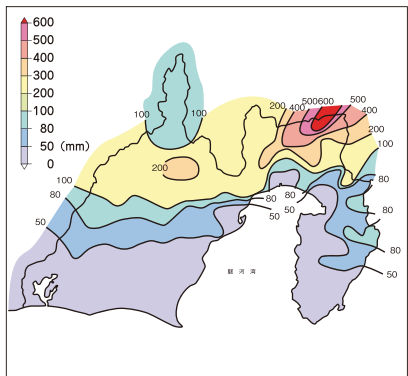
提供：国土交通省 中部地方整備局

●雨量レーダー(8日14:00)



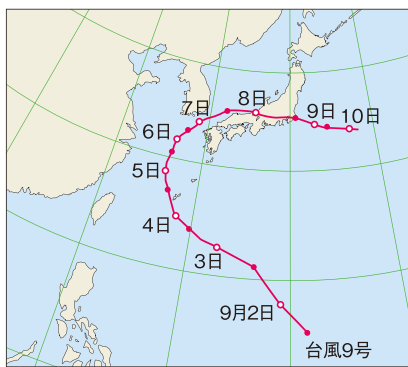
出典：気象庁

●8日7時からの日雨量分布



提供：静岡県

●台風経路図



出典：気象庁

●一般被害状況

台風第9号に伴う大雨等による被害状況等について(第12報)：静岡県

市町名	全 壊 (戸)	半 壊 (戸)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	非住家被害 (戸)	水道断水 (世帯)
小山町	4	3	54	85	4	2
御殿場市	0	0	1	9	3	0
富士宮市	0	0	0	9	4	0
長泉町	0	0	0	1	0	0
合 計	4	3	55	104	11	2



台風12号 2011年(平成23年)9月3日

大型で強い台風12号は、平成23年9月3日に高知県東部に上陸しました。台風の動きが非常に遅かったため、長時間にわたって台風周辺の非常に湿った空気が流れ込み、西日本から北日本にかけて、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨となりました。

台風12号

災害の概要と被害

記録的豪雨により、三重・和歌山・奈良で甚大な被害が発生。紀伊半島では、戦後最大規模の土砂災害。

8月25日に発生した台風12号は、日本の南海上をゆっくり北上して9月3日10時前に高知県東部に上陸し、四国、中国地方を縦断して9月4日未明に日本海に進みました。台風12号は非常に動きが遅く、上陸後も大型の勢力を保ったため、紀伊半島の南東側斜面に発達した雨雲がかかり続け、記録的な大雨による土砂崩れにより17箇所の河道閉塞が発生しました。

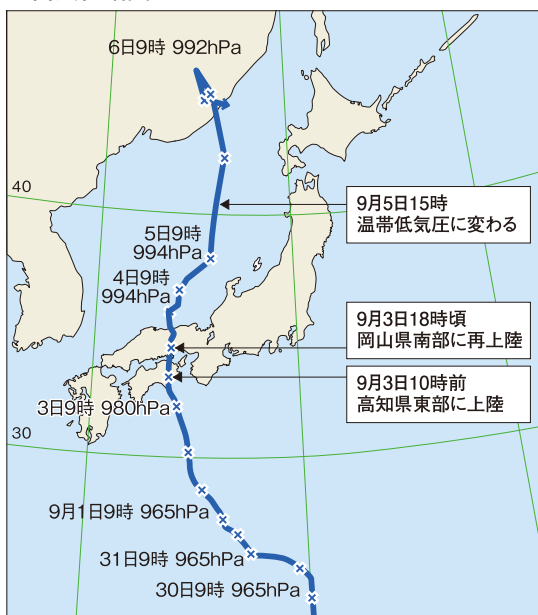
東海地方ではこの台風の接近に伴い、三重県で8月30日夜から雨が降り始め、9月5日朝にかけて県南部を中心に長時間にわたって激しい雨が降りました。総降水量は大台町宮川で1,630.0mm、御浜で1,085.5mmを記録しました。三重県の宮川では計画高水位を上回るなど、浸水被害が発生しました。

東海地方に隣接する近畿地方の総降水量は奈良県大台ヶ原(国交省所管)で2,400mmを越え、奈良県上北山村上北山で1,805.5mm、奈良県十津川村風屋で1,358.5mmを記録しました。奈良・和歌山・三重の三県にまたがる熊野川では計画高水位を約20時間上回り続けたため、沿川の相野谷川では広範な浸水や輪中堤の一部が転倒するなど河川構造物もいたる所で被災しました。また、紀伊半島では土砂災害も多発し、河道閉塞や道路の被災が多数発生しました。



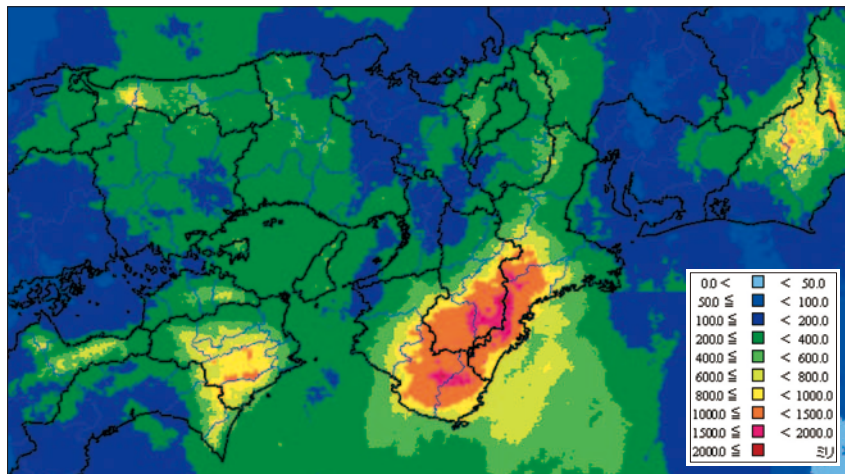
計画高水位を上回った熊野川の支川・相野谷川の輪中堤被災状況

●台風経路図



出典：気象庁

●解析雨量による総降水量分布図(推定)



出典：気象庁



井戸川(熊野市)での被災状況 JR橋梁の損傷



TEC-FORCEによる被災状況調査(三重県熊野市等)

宮川の岩出地点で計画高水位9.61mを超える10.08mの最高水位を記録しました。これにより、8.9haの浸水被害が発生しました。



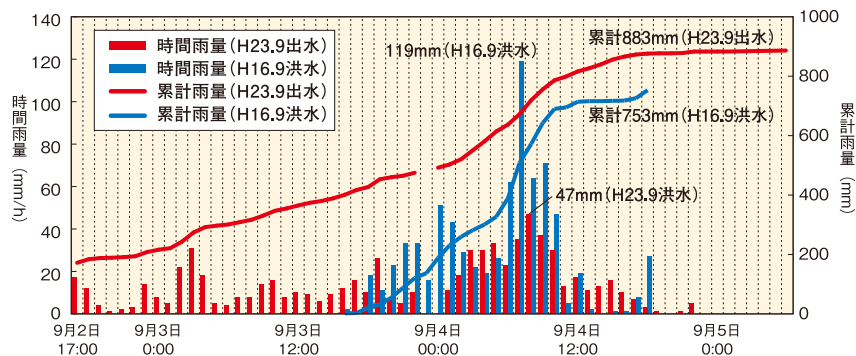
宮川 右岸 7.4k 付近の浸水状況(三重県伊勢市)



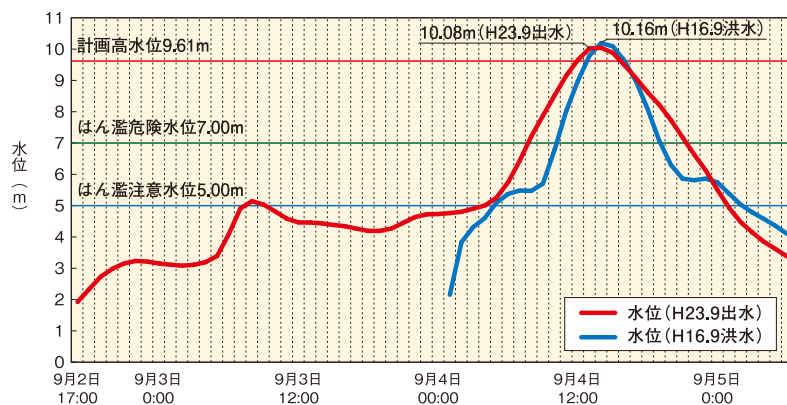
宮川 左岸 6.9k
度会橋の状況
(CCTV映像)

宮川 6.9 左 度会橋(県)

●宮川雨量観測所(国土交通省所管)



●岩出水位観測所(宮川左岸11.6k:度会郡玉城町)



●一般被害状況

消防庁(12月15日 18:00現在)

県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(重傷)(人)	全壊(戸)	半壊(戸)	一部破損(戸)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	河道閉塞(箇所)
和歌山県	52	5	5	239	1,742	90	2,680	3,147	4
奈良県	14	10	5	48	62	15	13	37	13
三重県	2	1	5	81	1,076	70	700	832	0
静岡県	0	1	1	0	0	0	1	25	0
愛知県	0	0	2	0	0	0	0	0	0
岐阜県	0	0	1	0	0	0	0	0	0

和歌山県・奈良県・三重県・静岡県・愛知県・岐阜県の被害総額

約2,324億円

(現在の価値に換算)

※約2,217億円(当時)

※水害統計

提供：国土交通省 中部地方整備局



台風15号 2011年(平成23年)9月20日・21日

非常に強い台風15号は、平成23年9月21日に静岡県浜松市付近に上陸しました。強い勢力を保ったまま東海地方から関東・東北地方に進み、西日本から北日本にかけて広い範囲で暴風や記録的な大雨となりました。

台風15号

災害の概要と被害

多治見雨量観測所で東海豪雨を上回る累加雨量477mm。 庄内川・豊川流域で河川氾濫による浸水被害が発生。

9月13日に発生した台風15号は、南大東島の西海上をゆっくり反時計回りに円を描くように動いた後、最大風速が50m/sの非常に強い台風となり、速度を速めつつ紀伊半島に接近した後、9月21日14時頃に静岡県浜松市付近に上陸し、強い勢力を保ったまま東海地方から関東地方、そして東北地方を北東に進みました。首都圏では帰宅時間に台風接近となったため、交通機関が一時運転を見合わせたことから多数の帰宅困難者が発生しました。

東海地方ではこの台風の接近に伴い、秋雨前線の動きが活発化し、9月20日午後を中心に東海豪雨時(H12.9月)と類似した気圧配置パターンとなり、鈴鹿山脈や伊吹・関ヶ原方面から流れ込む北西の風と台風の暖湿流がぶつかりあって、名古屋市内から岐阜・東濃にかけてライン状の非常に発達した雨雲が発生・停滞したため、局地的な豪雨となりました。

総降水量は三重県大台町宮川で794.0mm、静岡県静岡市梅ヶ島で729.5mm、静岡県富士宮市白糸で599.0mm、静岡県伊豆市天城山で543.0mm、岐阜県多治見市多治見で504.0mm、愛知県豊根村茶臼山で473.0mm、静岡県浜松市越木平で455.0mmを記録し、愛知県の庄内川や豊川では浸水被害が発生しました。

●台風経路図



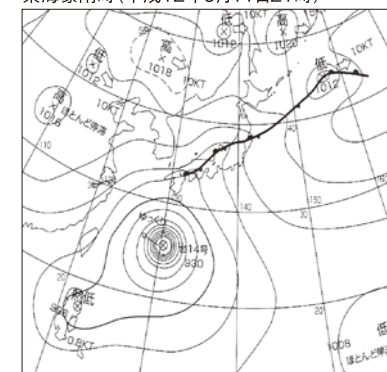
出典：気象庁



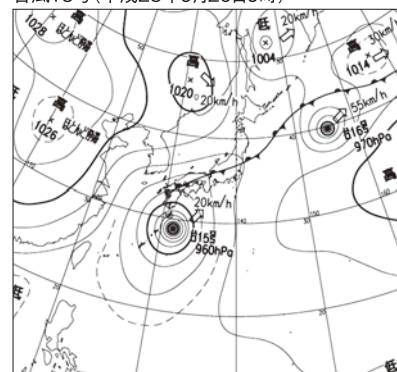
9月20日12:50頃、庄内川左岸の堤防から約200mにわたり洪水が越水し、延長:約30m、深さ:約1.5m、幅2~6m程度の堤防洗掘が発生した。

●東海豪雨時と類似した気圧配置パターン

東海豪雨時(平成12年9月11日21時)

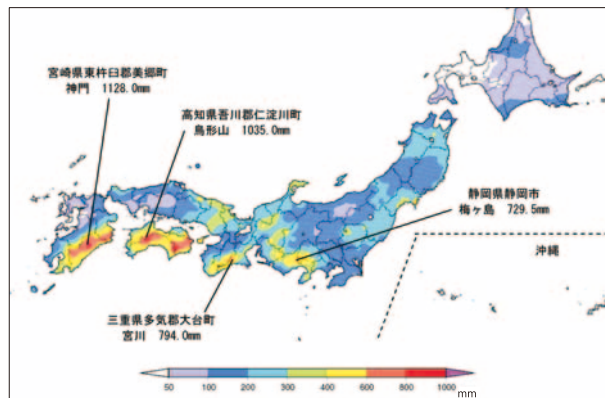


台風15号(平成23年9月20日9時)



出典：気象庁

●解析雨量による総降水量分布図(推定)



出典：気象庁

台風15号

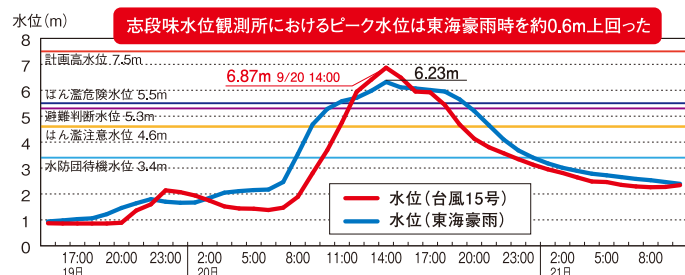
被害状況(愛知県名古屋市)

愛知県の庄内川上流部にある多治見雨量観測所(国交省)では、9月20日12時に1時間最大雨量64mmを記録し、累加雨量は477mmとなり、東海豪雨時の367mmを上回りました。これにより、庄内川中流部の志段味水位観測所では、東海豪雨時を約0.6m上回る水位6.87mを記録しました。庄内川下志段味地区では庄内川左岸の堤防からの越水及び支川・長戸川(名古屋市管理)からの越水等により、約27haの浸水被害(床上浸水19戸、床下浸水55戸)が発生しました(名古屋市調べ)。

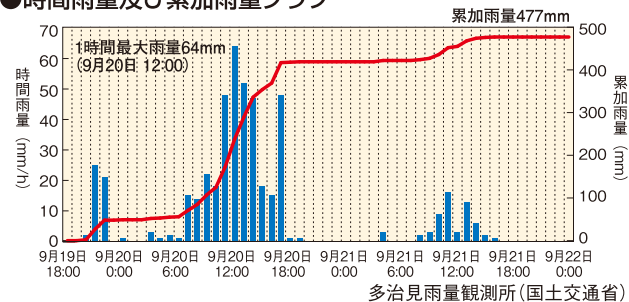


愛知県名古屋市守山区下志段味地区の浸水状況

●志段味水位観測所の水位グラフ



●時間雨量及び累加雨量グラフ



多治見雨量観測所(国土地交通省)

台風15号

被害状況(愛知県豊橋市・豊川市)

愛知県の豊川流域では、布里雨量観測所(国交省)において、9月21日10時に1時間最大雨量41mmを記録し、累加雨量は382mmに達しました。このため、石田水位観測所では戦後2番目となる水位7.61mを記録しました。

豊川では左岸に4箇所(牛川・下条・賀茂・金沢)の霞堤があり、洪水が霞堤地区内に進入し、浸水被害が発生しました。

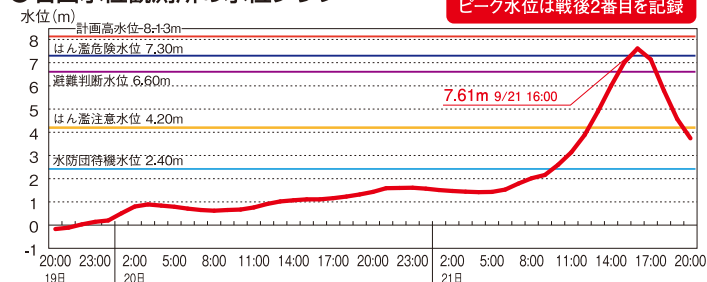


豊橋市牛川地区の浸水状況

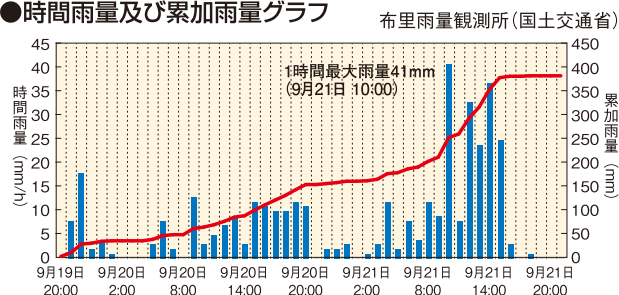


豊橋市・豊川市賀茂地区の浸水状況

●石田水位観測所の水位グラフ



●時間雨量及び累加雨量グラフ



布里雨量観測所(国土地交通省)

●一般被害状況

消防庁(12月15日 18:00現在)

県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(重傷)(人)	全壊(戸)	半壊(戸)	一部破損(戸)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)
岐阜県	2	1	0	1	1	6	230	309
静岡県	3	0	11	2	8	1,466	33	65
愛知県	4	0	2	0	0	69	239	572
三重県	0	0	0	0	0	3	26	4

岐阜県・静岡県・
愛知県・三重県の被害総額

約292億円

(現在の価値に換算)

※約279億円(当時)

※水害統計

提供: 国土交通省 中部地方整備局



台風8号・梅雨前線

2014年(平成26年)7月9日

台風8号の接近に伴い、梅雨前線の動きが活発化し、中部地方の各地で大雨となりました。特に、長野県木曽郡南木曽町では木曽川支流の梨子沢で土石流が発生しました。

台風8号・梅雨前線

災害の概要と被害

長野県木曽郡南木曽町はゲリラ的な集中豪雨に見舞われた。 三留野観測所で9日15時～18時までの連続雨量が112mm。 17時40分頃、長野県木曽郡南木曽町梨子沢で土砂災害が発生。

7月4日に発生した台風8号は、発達しながら日本の南海上を北上し、10日、鹿児島県阿久根市付近に上陸しました。九州を通過した後、和歌山県南部に上陸し、11日に千葉県富津市付近に再上陸しました。

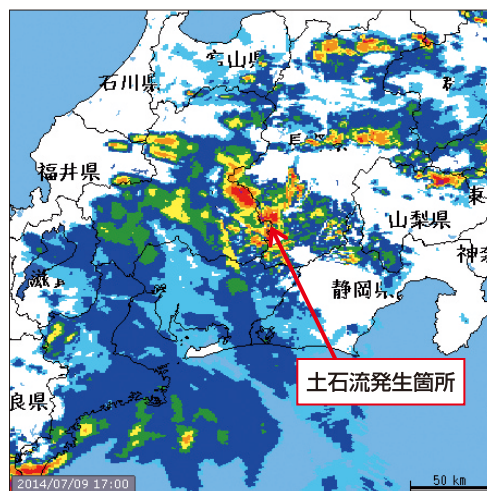
この台風8号の接近に伴い、梅雨前線の動きが活発化し、中部地方の各地で大雨が発生しました。

長野県木曽郡南木曽町読書にある三留野雨量観測所(国交省)では、9日の15時～18時までの連続雨量が112mmとなりました。南木曽町を流れる木曽川支流の梨子沢において、7月9日17時40分頃、土石流が発生し、死者1名、軽傷者3名、全壊家屋10戸、一部損壊家屋3戸、国道19号への土砂流入、JR中央本線橋梁の流出等、甚大な被害をもたらしました。

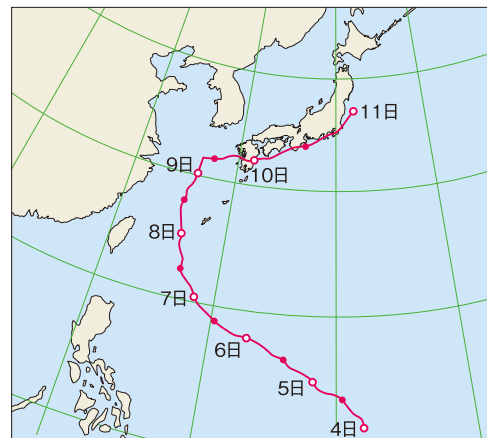


長野県木曽郡南木曽町梨子沢の土砂災害状況

●雨量レーダー(9日17:00)

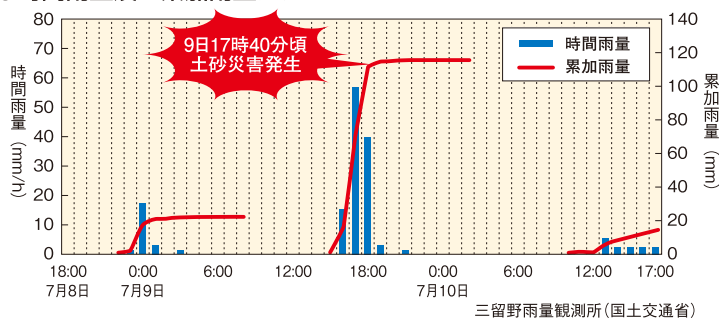


●台風経路図



出典: 気象庁

●時間雨量及び累加雨量グラフ



9日の
15:00～18:00
112mm/3h

●一般被害状況

長野県危機管理部 発表(8月6日)

県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(人)	全壊(戸)	半壊(戸)	一部破損(戸)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)
長野県	1	0	3	10	0	3	4	19

長野県の被害総額

約41億円

(現在の価値に換算)

※約39億円(当時)

※水害統計

提供: 国土交通省 中部地方整備局



台風18号 2014年(平成26年)10月5・6日

大型で強い台風18号は、平成26年10月6日に静岡県浜松市付近に上陸しました。この台風の接近・通過に伴い広い範囲で大雨や暴風となり、土砂災害、浸水被害などが発生しました。

台風18号

災害の概要と被害

静岡県では局所的に時間雨量80mm以上の猛烈な雨が降り、菊川流域、狩野川流域で浸水被害が発生。

9月29日に発生した台風18号は、大型で非常に強い勢力で南大東島の近海を通り、勢力を維持したまま潮岬の南を通って、10月6日8時過ぎに静岡県浜松市付近に上陸しました。台風は速度を速めながら東海地方及び関東地方を北東に進みました。

この台風と前線の影響により、静岡県では5日未明から6日昼前にかけて大雨となり、多いところでは降り始めからの降水量が400mmを越え、局所的に時間雨量80mm以上の猛烈な雨が降ったところもありました。

静岡県内を直撃した台風18号は、各地で浸水被害や土砂崩れ、河川の氾濫など大きな被害をもたらしました。特に菊川流域、狩野川流域の市町では避難勧告も相次いで出され、避難所で不安な朝を迎えた人もいました。



菊川市下平川地区における浸水状況

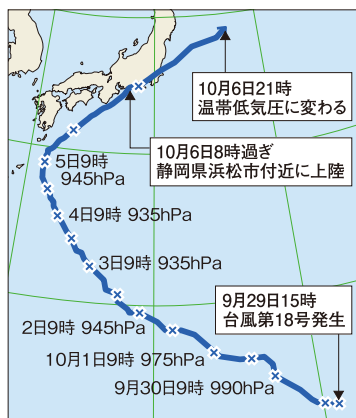


沼津市大平地区における浸水状況



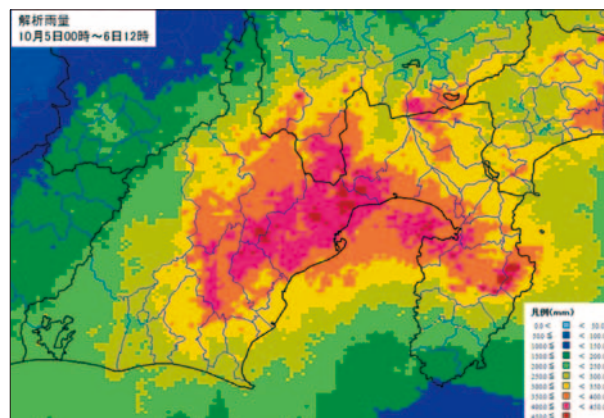
菊川市下平川地区の浸水エリア

●台風経路図



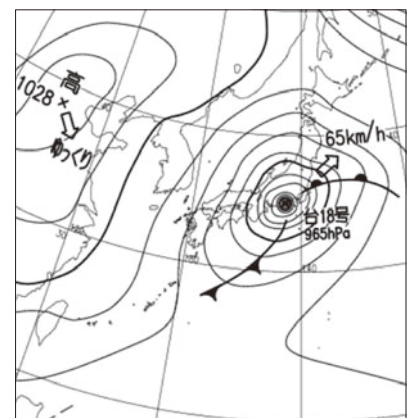
出典：気象庁

●解析雨量による総降水量分布図(10月5日0:00～6日12:00)



出典：静岡県気象台

●天気図(10月6日9:00)



出典：気象庁

●一般被害状況

県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(人)	全壊(戸)	半壊(戸)	一部破損(戸)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)
静岡県	0	0	8	2	1	25	476	1,271

消防庁

提供：国土交通省 中部地方整備局



台風16号 2016年(平成28年)9月19日

非常に強い台風16号は、平成28年9月19日夜遅くから20日未明にかけて、九州に接近し20日0時過ぎに、大隅半島に上陸しました。その後、西日本の太平洋沿岸を進み、20日13時半頃、和歌山県田辺市付近に再上陸し太平洋沿岸を進み、20日21時に東海道沖で温帯低気圧に変わりました。この台風と前線の影響で、各地で猛烈な雨を観測し、16日からの降水量が東日本から西日本にかけて200mmを超える大雨となりました。

台風16号

災害の概要

鈴鹿川水系内部川で、氾濫危険水位を超過。

三重県では、低気圧の影響で、20日の朝方から雨が降り始め、昼前から夜にかけて非常に激しい雨をもたらしました。

橿田川水系佐奈川の西山水位観測所では、20日の13時に氾濫注意水位を超過、13時30分に避難判断水位を超過、13時40分に氾濫危険水位に達し、最高水位3.21mを記録した後、水位は下がり16時20分に氾濫注意水位を下回りました。

橿田川の洪水の安全な疎通のため、橿田可動堰(余水吐及び堰の全開)の操作を実施しました。

鈴鹿川の高岡水位観測所では、20日の16時に氾濫注意水位を超過、16時50分に避難判断水位に達し、18時10分に最高水位4.79mを記録した後、順調に水位は下がり21時には、氾濫注意水位を下回りました。

同川の亀山水位観測所では、20日の16時に氾濫注意水位を超過、16時30分に最高水位3.59mを記録した後、順調に水位は下がり17時には、氾濫注意水位を下回りました。

内部川の河原田水位観測所では、20日の14時20分に氾濫注意水位を超過、15時10分に避難判断水位を超過、16時40分に氾濫危険水位に達し、17時30分に最高水位3.03mを記録した後、順調に水位は下がり20時20分には、氾濫注意水位を下回りました。

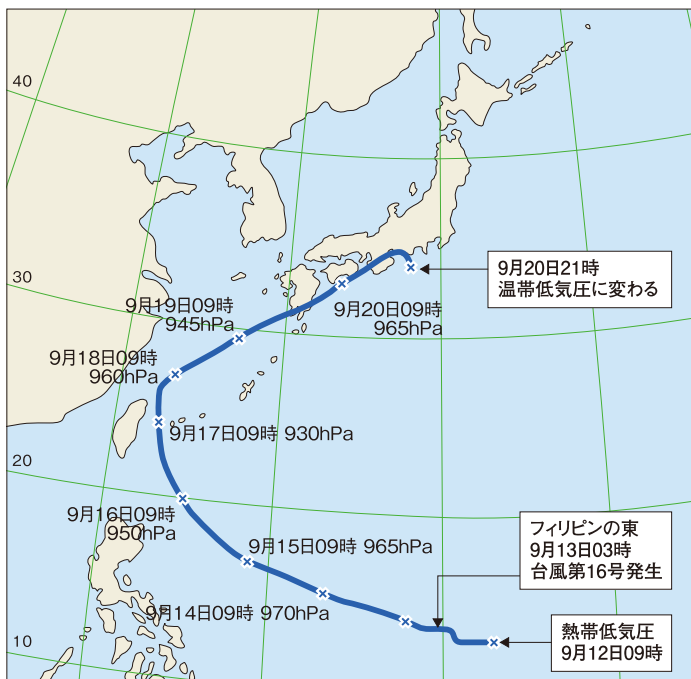


橿田川水系佐奈川右岸3.9k 三重県多気郡多気町 西山橋観測所



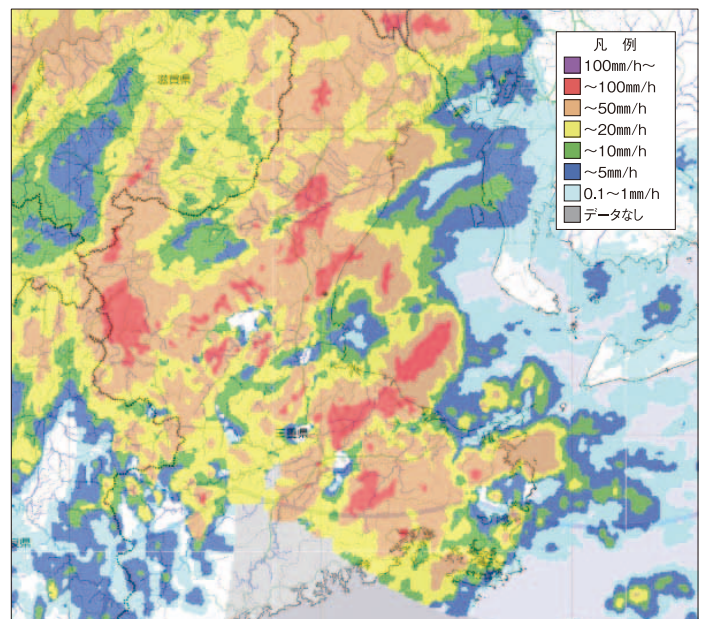
鈴鹿川水系鈴鹿川右岸22.8k 三重県亀山市野村海本町 亀山観測所

●台風経路図



出典：津地方気象台 気象速報

●9月20日13時レーダー雨量



出典：国土交通省 Xバンドレーダー

提供：国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所



台風21号 2017年(平成29年)10月21日

非常に強い台風21号は、21日から22日にかけて日本の南を北上し、23日3時頃、超大型・強い勢力で静岡県御前崎市付近に上陸しました。台風はその後、広い暴風域を伴ったまま北東に進み、23日15時に北海道の東で温帯低気圧となりましたが、台風を取り巻く発達した雨雲や本州付近に停滞した前線の影響により、西日本から東日本、東北地方の広い範囲で記録的な大雨となりました。

台風21号

災害の概要

宮川水系勢田川と櫛田川水系佐奈川で、計画高水位を超過。

三重県では21日から台風21号や前線の影響により雨が降り、23日にかけて大雨となりました。降り始めの21日00時から23日12時までの総雨量(アメダス速報値)は、尾鷲で796.0mm、御浜で650.0mm、大台町宮川で577.0mm、熊野新鹿で552.5mmとなりました。

三重河川国道事務所が設置している宮川水系勢田川雨量観測所では総雨量665mm(時間最大80mm/h)、櫛田川水系の豊原雨量観測所では総雨量485mm(時間最大50mm/h)が観測され、宮川水系勢田川と櫛田川水系佐奈川では計画高水位を超過しましたが、河川内の堆積土砂の掘削や樹木の伐採等の整備効果で水位が低下し氾濫や浸水被害を回避することができました。



櫛田川水系佐奈川右岸3.9k 三重県多気郡多気町 西山橋観測所

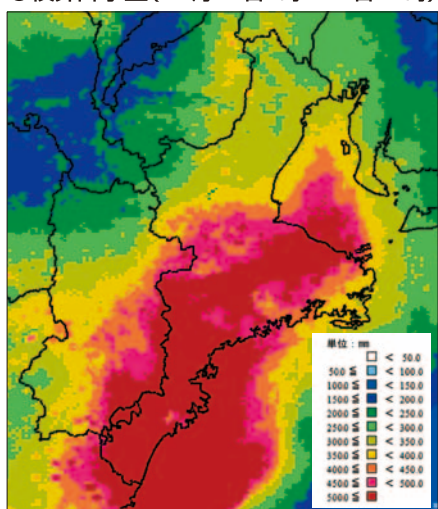


櫛田川水系佐奈川右岸5.0k付近 護岸欠損応急対策状況(多気郡多気町五柱)

●台風経路図

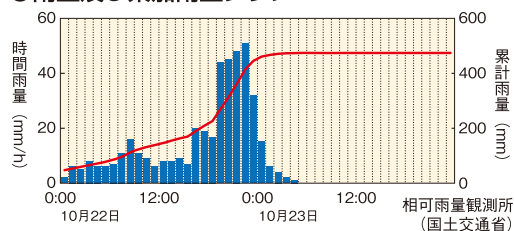


●積算降水量(10月21日0時~23日12時)

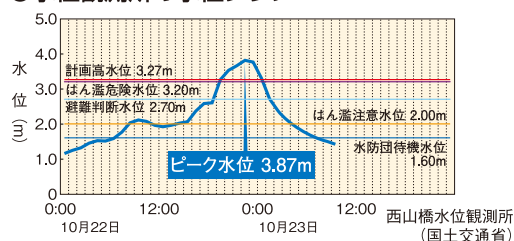


【櫛田川水系】 佐奈川

●雨量及び累加雨量グラフ



●水位観測所の水位グラフ



●一般被害状況

県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(人)	全壊(戸)	半壊(戸)	一部破損(戸)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)
三重県	2	0	13	1	91	0	844	1,288

消防庁

三重県の被害総額

約261億円

(現在の価値に換算)

※約256億円(当時)

※水害統計

提供: 国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所



平成30年7月豪雨 2018年(平成30年)6月28日～7月8日

6月28日から7月8日にかけて日本付近に停滞した梅雨前線と、29日発生・北上してきた台風7号の影響により、日本海付近に温かく非常に湿った空気が供給され続け、西日本から東海地方を中心に、全国的に広い範囲で記録的な大雨となり大きな被害をもたらしました。東海地方では、岐阜県郡上市白鳥町で7月4日の降り始めからの総雨量が1204mmを観測するなど、長良川上流域を中心に記録的な大雨となり、浸水や土砂災害が発生しました。

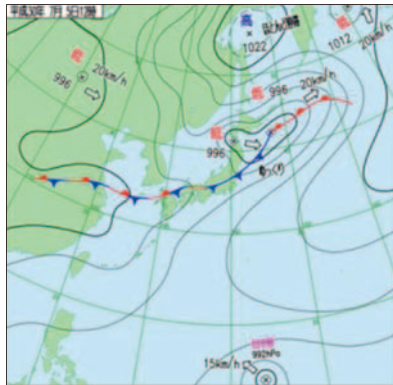
平成30年7月豪雨 災害の概要と被害

岐阜県で猛烈な雨。記録的短時間大雨情報が発令され、長良川支川の津保川(関市)が氾濫。

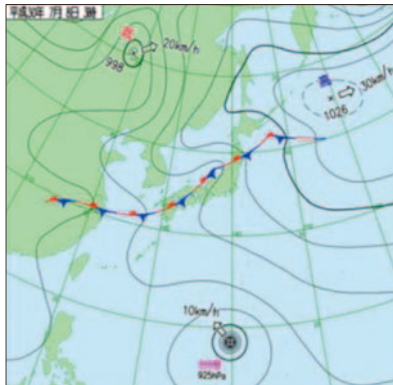
台風や前線の影響で、岐阜県では、飛騨北部と中濃で7月の月降水量の平年の2倍を超えるなど、広い範囲で記録的な大雨となりました。アメダスでは、降り始めの7月3日21時から8日24時までの総降水量が、郡上市ひるがので1058.0mm、郡上市長滝で1009.5mm、関市板取で908.0mm、本巣市樽見で843.0mmとなりました。また、下呂市金山で7月8日03時07分までの1時間に108.0mmの猛烈な雨を観測し、統計開始以来の極値を更新しました。解析雨量では7月8日01時までの1時間に関市付近及び美濃市付近で約100mm、03時までの1時間に七宗町付近、白川町付近及び下呂市付近で約110mmの猛烈な雨を解析しました。この影響により、関市では津保川が氾濫し、死者1名、住家の全壊11棟、半壊229棟、床上浸水16棟、床下浸水183棟(9月7日現在)と大きな被害が発生しました。また、各地で土砂崩れが発生し、道路の通行止めが相次ぎました。

●天気図(岐阜地方気象台)

平成30年7月5日(木)12時00分



平成30年7月8日(日)3時00分

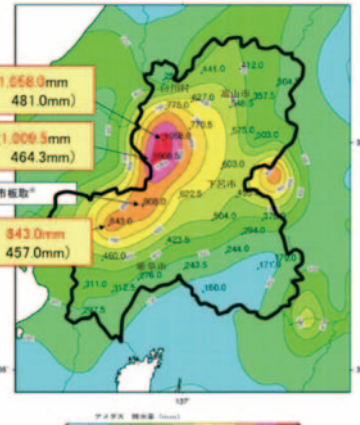


●アメダス降水量分布図(岐阜地方気象台)

集計期間：
平成30年7月3日(火)21時～
7月8日(日)24時

郡上市ひるがの	総降水量1,058.0mm (7月の月降水量の平年値: 481.0mm)
郡上市長滝	総降水量1,009.5mm (7月の月降水量の平年値: 464.3mm)
関市板取*	総降水量908.0mm (7月の月降水量の平年値: 457.0mm)
本巣市樽見	総降水量843.0mm (7月の月降水量の平年値: 457.0mm)

※「関市板取」は平年値を
作成する期間に満たない
ため、月降水量の平年値
の算出無し



長良川支川津保川の被災状況(岐阜県関市上之保地区)



提供: 関市

平成30年7月豪雨 災害の概要と被害

岐阜県では、4日から8日にかけて局地的に大雨が続き、長良川では降り続く雨によって5回にわたって水位のピークを迎え、7月8日の午前3時頃には、岐阜市の基準観測所（忠節地点）において最高水位5.14mに達しました。戦後最大の洪水である平成16年10月洪水以来、約14年ぶりの水位となり、伊勢湾台風に次いで観測史上6番目の水位を記録しました。

また、5日間に渡って降り続いた豪雨が、昭和51年9.12豪雨災害（安八豪雨）時の長良川の洪水に似ており、堤防決壊や浸水被害が心配されましたが、その後の河川堤防の整備や適切な維持管理、水防活動により大きな被害を防ぐことができました。



長良川の出水状況（忠節橋下流）



長良川の出水状況（長良橋上流）



浸水状況（岐阜市一日市場地先）



14年ぶりに大宮陸門閉鎖（7月8日岐阜市川原町地区）

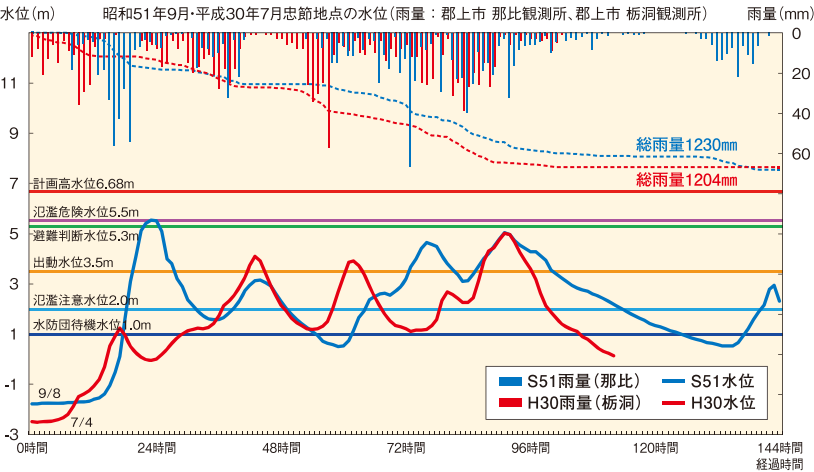


水防活動状況（岐阜市島田地区）

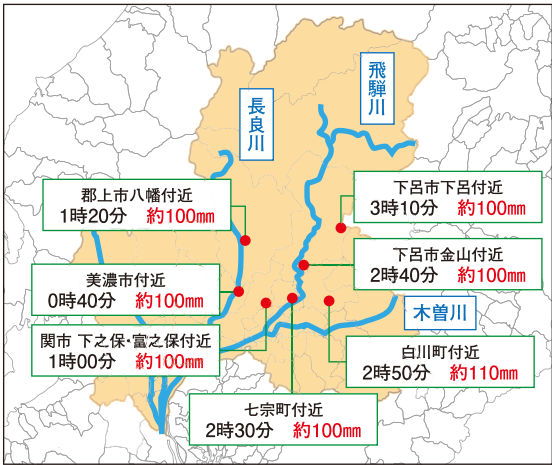


水防活動状況（岐阜市日置江地区）

●昭和51年9.12豪雨と平成30年7月豪雨の比較（長良川忠節水位観測所）



●岐阜県における記録的短時間大雨情報の発令状況



●一般被害状況

消防庁（平成31年4月1日現在）

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部破損 (棟)	床上浸水 (棟)	床下浸水 (棟)
岐阜県	1		3	12	236	7	72	420
愛知県							1	14
岡山県	73	3	177	4,830	3,368	1,108	1,540	5,480
広島県	133	5	146	1,155	3,616	2,152	3,164	5,835
愛媛県	32		37	627	3,117	149	190	2,575
その他	24		86	159	1,005	677	2,015	7,276
合計	263	8	449	6,783	11,342	4,093	6,982	21,600



提供：国土交通省 中部地方整備局



令和元年東日本台風(台風19号)

2019年(令和元年)10月10日~13日

10月6日に南鳥島近海で発生した台風19号は、大型で猛烈な台風に発達した後、日本の南を北上し、12日19時前に強い勢力を保ったまま伊豆半島に上陸しました。この台風の接近・通過に伴い、広い範囲で大雨、暴風、高波、高潮が発生し、浸水被害や土砂災害などが発生しました。

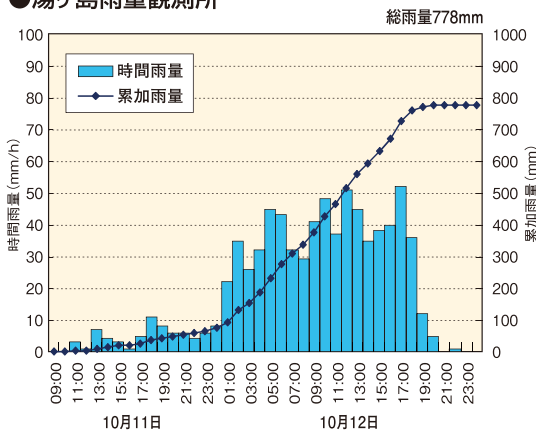
令和元年台風19号 災害の概要と被害

静岡県狩野川水系と菊川水系で、氾濫危険水位を超過。

静岡県では、台風の接近に伴い11日夜遅くから強風、12日明け方から暴風となり、石廊崎では西南西の風で最大瞬間風速36.7mの非常に強い風を観測し、海上では13mを超える猛烈なしけとなりました。沿岸では、台風の接近に伴って潮位が高くなり、気象庁潮位観測点では石廊崎、御前崎、清水港、内浦で過去最高潮位記録を更新し、石廊崎で最大潮位偏差224cmを観測しました。また、台風が接近した12日昼過ぎから夜のはじめ頃にかけては、中部、東部及び伊豆地方で猛烈な雨となり、降り始めからの総降水量は、神奈川県箱根で1001.5mm、伊豆市湯ヶ島で778mm、静岡市葵区梅ヶ島で631mmを観測しました。

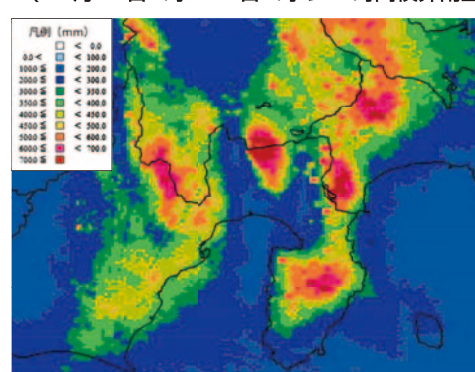
中部地方整備局管内では狩野川本川の徳倉観測所、狩野川支川黄瀬川の本宿観測所および菊川本川の加茂観測所、菊川支川牛淵川の横地観測所・堂山観測所で氾濫危険水位を超過しました。

●湯ヶ島雨量観測所



●解析雨量

(10月11日8時~13日5時の45時間積算雨量)



出典: 静岡地方気象台

●台風経路図

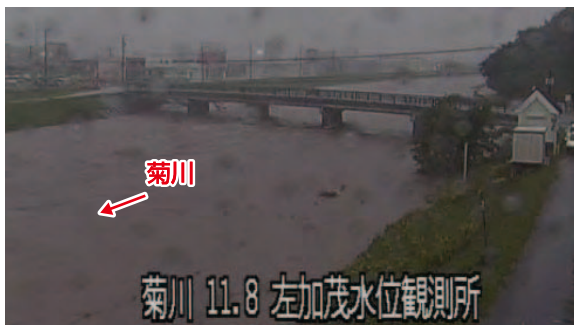


出典: 気象庁

菊川水系



加茂水位観測所付近 平常時の状況



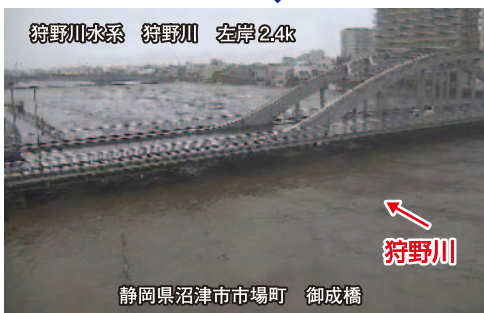
加茂水位観測所付近 出水状況(10月12日17時00分)



牛淵川11.5k左岸付近で越水(静岡県菊川市)

出典: 国土交通省 中部地方整備局 浜松河川国道事務所

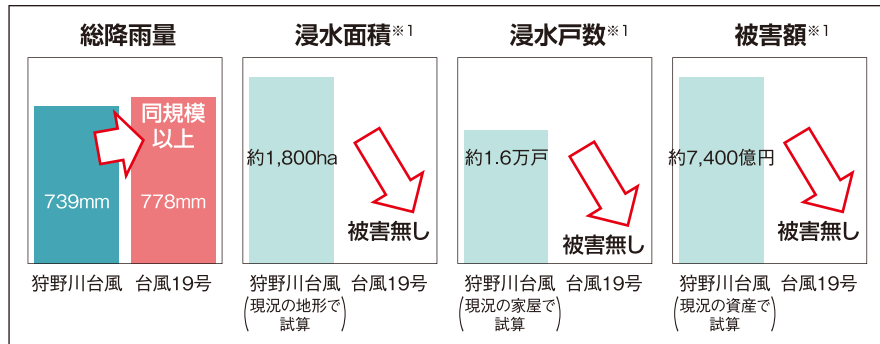
狩野川水系



狩野川台風との比較 ～狩野川放水路が効果を発揮～

台風19号は、狩野川台風(昭和33年9月26日、伊豆半島に接近した台風22号)と同じようなコースと勢力、大雨を伴って伊豆半島に上陸しました。湯ヶ島雨量観測所で総雨量778mmを観測し、狩野川台風時の総雨量739mmを越え大きな被害が心配されましたが、狩野川放水路の整備や河川堤防の整備と適切な維持管理、水防活動により大きな被害を防ぐことができました。

●放水路の効果

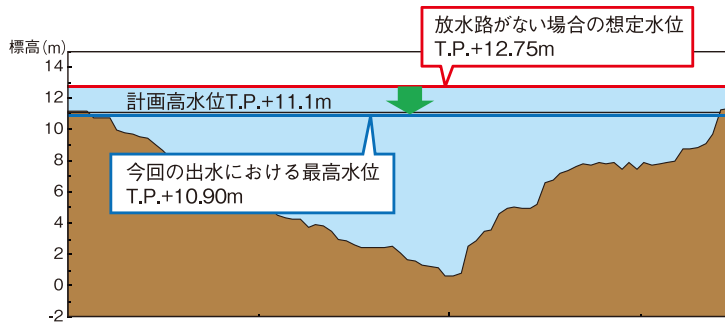


※1 狩野川の氾濫によるもの

●放水路による水位低下効果(狩野川河口より7.8kp)

放水路により、水位が**1.85m(推計値)低下!**

今回の洪水で、狩野川放水路が無かった場合、河口から7.8km(沼津市徳倉地区、湯川地区)の水位は、計画高水位を超えるT.P.+12.75mと推計され、狩野川放水路による分流効果により、水位が1.85m(推計値)低下したものと考えられる。



※計画高水位は、計画高水流量が河川改修後の河道断面(計画断面)を流下するときの水位です。

●狩野川台風(昭和33年)による浸水被害の範囲



出典：国土交通省 水管理・国土保全局 水害レポート2019

●一般被害状況

消防庁(令和2年10月13日現在)

県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(人)	全壊(棟)	半壊(棟)	一部破損(棟)	床上浸水(棟)	床下浸水(棟)
長野県	15		45	920	2,515	3,535	2	1,360
静岡県	3		7	7	6	499	914	1,316
岐阜県						11		
愛知県			1			1		
三重県			3		8	23	51	65
宮城県	20	2	43	327	2,224	2,522	1,886	11,818
福島県	38		59	1,445	11,956	6,128	1,022	432
千葉県	12		36	66	2,269	12,798	173	576
神奈川県	9		38	56	831	2,600	877	579
その他	21	1	156	442	10,195	14,374	2,785	6,085
合計	118	3	388	3,263	30,004	42,491	7,710	22,231

全国の被害総額

約**1兆9,005億円**

(現在の価値に換算)

約**1兆8,800億円**(当時)

※水害統計

出典：国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所



令和2年7月豪雨

2020年(令和2年)7月3日～8日

7月3日から8日にかけて日本付近に停滞した梅雨前線の活動が非常に活発で、西日本や東日本で大雨となり、特に九州では4日から7日、岐阜県周辺では7日から8日にかけて記録的な大雨となり大きな被害をもたらしました。

令和2年7月豪雨

災害の概要と被害

下呂市・高山市で、観測史上1位となる24時間雨量を記録。

令和2年7月豪雨は、7日から8日にかけて中濃地方から飛騨地方を中心に断続的に非常に激しい雨となり、岐阜県内の6市(飛騨・高山・郡上・下呂・中津川・恵那)に大雨特別警報が発表されたほか、降り始めからの降水量が県内11地点で1,000mmを超えるなど、記録的な大雨となりました。

これにより、飛騨川を中心とする河川の氾濫や土砂災害、下流域の白川町ではバックウォーター現象による浸水被害が発生し、八百津町では短時間の突風による損壊家屋が発生するなど、局所的な被害が発生しました。



国道41号の道路崩壊(下呂市小坂町門坂)

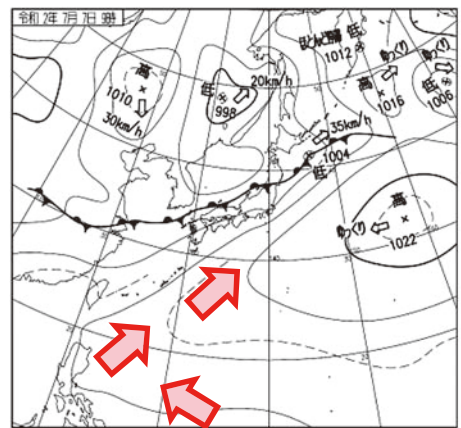
提供: 岐阜県



高山市岩井町の土石流被害(高山市岩井町眠木)

提供: 岐阜県

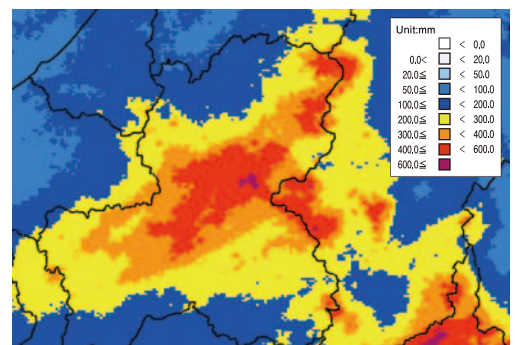
●天気図(7月7日09時)



提供: 岐阜県

●解析雨量

(7月6日0時～7月8日24時、72時間積算)



出典: 気象庁



国道158号へ土砂流出(高山市丹生川町久手)

提供: 岐阜県

令和2年7月豪雨災害 岐阜県の被害概要

【鉄道被害】JR高山本線 土砂流入等（7月23日より全線運転再開）
 【道路】260箇所 【橋梁】13箇所 【河川】246箇所 【砂防施設】35箇所
 【農地】307箇所 【農業用施設】263箇所 【山地】44箇所 【林道】218路線 等

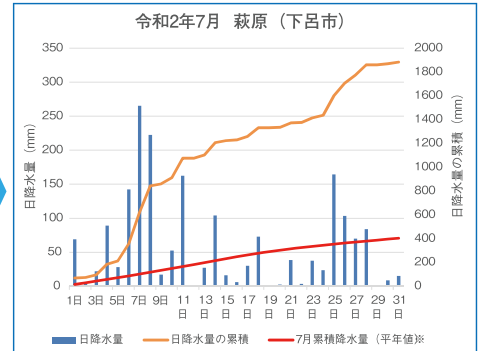
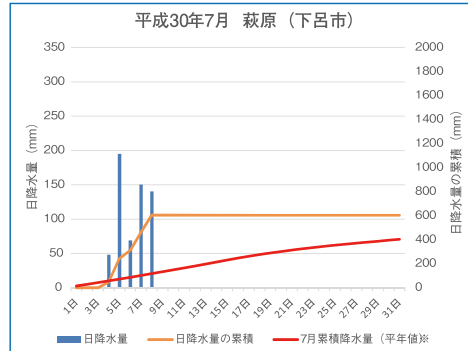


提供：岐阜県

■平成30年7月と令和2年7月の降水量比較(下呂市萩原)

平成30年7月、下呂市萩原では降り始めから5日間で603.0mmを記録しました。

令和2年7月の降水量は24時間、48時間、72時間のいずれにおいても過去最高の降水量を記録したほか、これまでの7月降水量記録である876.5mm(平成22年7月)の2倍以上となる1,883.0mmを記録しました。



※7月の日降水量の平年値(1981年から2010年までの30年間の平均値)の累計を示したものである
 提供：岐阜県

●一般被害状況

消防庁(令和3年11月26日現在)

県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(人)	全壊(棟)	半壊(棟)	一部破損(棟)	床上浸水(棟)	床下浸水(棟)
岐阜県			2	6	36	86	31	304
長野県	1		2		1	4	5	109
静岡県	1				2	43	10	59
愛知県					1	9	4	27
三重県						9	7	8
熊本県	67	2	50	1,493	3,116	282	421	2,090
福岡県	2		9	14	997	1,215	648	1,383
大分県	6		2	69	209	214	129	469
長崎県	3		1	4	3	4	124	136
その他	6	0	16	41	170	250	362	1,681
合計	86	2	82	1,627	4,535	2,116	1,741	6,266

全国の被害総額

約6,012億円

(現在の価値に換算)

約6,000億円(当時)

※水害統計



令和3年7月1日からの大雨 2021年(令和3年) 7月1日~12日

6月末から7月上旬、梅雨前線が西日本から東日本に停滞しました。この前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ結果、大気の状態が非常に不安定となり、1日から3日は東海地方から関東地方南部を中心に、記録的な大雨となりました。

令和3年7月1日からの大雨 災害の概要と被害

熱海市伊豆山地区で、大規模な土砂災害が発生した。

静岡県では7月2日夜遅くから3日朝にかけて、遠州北、中部、東部、伊豆北の広い範囲で非常に激しい雨となり、静岡市北部では3日未明に猛烈な雨を記録しました。数日間にわたって断続的に雨が降り続き、静岡県の複数の地点で72時間降水量の観測史上1位の値を更新しました。

熱海雨量観測所における降り始めからの総雨量は400mmを超え、7月2日12時30分には土砂災害警戒情報が発表されました。こうした中、熱海市伊豆山の逢初川では7月3日10時30分頃に土石流が発生、長さ約1km、最大幅約120mにわたる範囲が被災し、多くの被害が発生しました。

狩野川水系黄瀬川では、愛鷹観測所で総雨量721mm、本宿地点においては既往最大流量の1,200m³/sにせまる約1,000m³/s(速報値)を記録しました。この大雨により、黄瀬川大橋の橋脚の一部が沈下し、7月3日から通行止めとなりました。また、同河川では護岸崩落などの被害も発生しています。

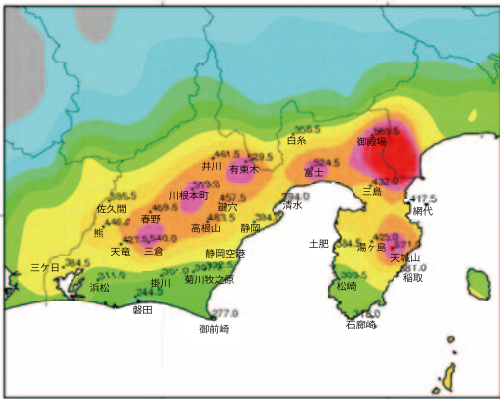


被害状況(熱海市伊豆山地区) 出典:国土地理院



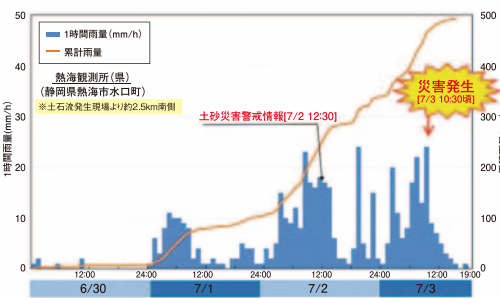
黄瀬川大橋橋脚、橋梁の損傷 出典:国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所

●アメダス積算降水量分布図 令和3年6月30日18時~7月5日00までの積算雨量



アメダス 降水量(mm) 出典:静岡地方気象台

●土石流発生前後の降雨量 ※発災時刻は報道情報による



出典:国土交通省 砂防部

●一般被害状況

県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(人)	全壊(棟)	半壊(棟)	一部破損(棟)	床上浸水(棟)	床下浸水(棟)
静岡県	28		4	54	13	42	144	205
(うち熱海市)	(28)		(4)	(53)	(11)	(34)		
その他		1	8	5	105	314	371	2,250
合計	28	1	12	59	118	356	515	2,455

消防庁(令和5年2月15日現在)

静岡県の被害総額

約131億円

(現在の価値に換算)

約130億円(当時)

※水害統計



令和3年8月11日から大雨 2021年(令和3年) 8月11日～22日

8月11日から19日にかけて、前線の活動が活発となった影響で、西日本から東日本の広い範囲で大雨となりました。中部地方では13日から15日にかけて記録的な大雨となったことから、大きな被害が発生しました。

令和3年8月11日から大雨 災害の概要と被害

木曽川では避難判断水位を、 庄内川では氾濫危険水位を超過した。

中部地方では、12日の昼頃から前線が停滞し、長時間にわたって降雨が継続しました。木曽川上流河川事務所管内の犬山観測所(犬山市)では、避難判断水位を超える11.93mの水位となり、昭和58年9月に次ぐ戦後2番目の水位を観測しました。また、庄内川河川事務所管内の土岐水位観測所(土岐市)では、ピーク水位が氾濫危険水位を超える4.81mを観測するなど、各地で記録的な豪雨となりました。

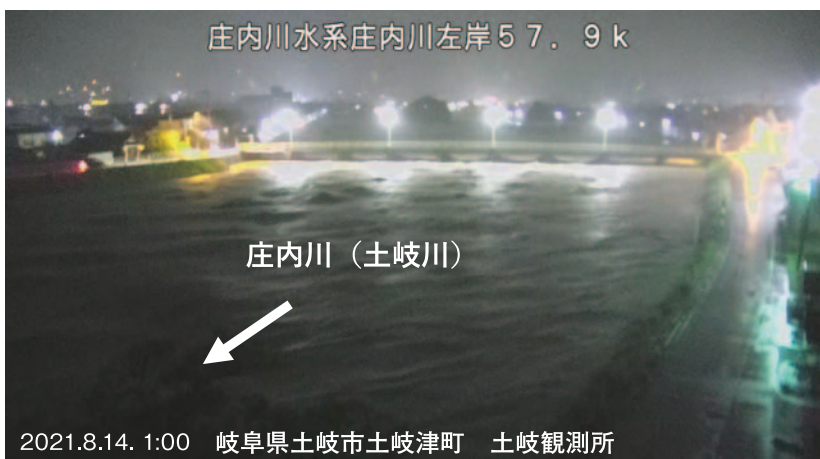
岐阜県では、特に前線の活動が活発となった13日から14日にかけて激しい雨が降り続き、下呂市萩原で15日3時10分までの48時間降水量が445.0mmを観測するなど、飛騨南部や東濃を中心に記録的な大雨となり、国道41号(下呂市萩原)では道路が流出しました。

長野県では多くの観測点で、48時間降水量や72時間降水量の観測史上1位の値を更新し、特に72時間降水量では、王滝村御嶽山で628.0mm、宮田高原で431.5mmを観測したほか、多くの地点で300mm以上を観測しました。



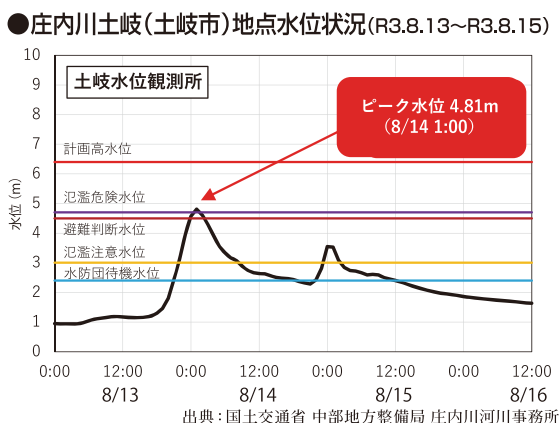
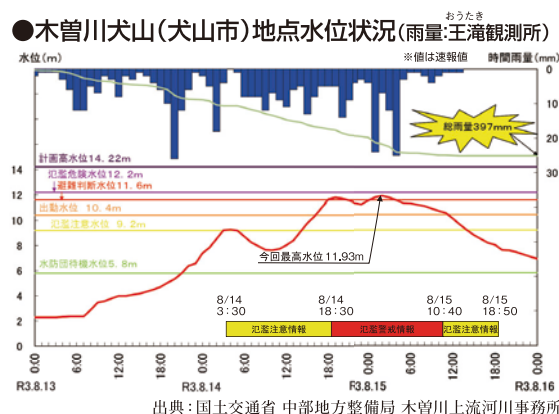
木曽川の出水状況(8月15日正午頃) 56.4k付近

出典:国土交通省 中部地方整備局 木曽川上流河川事務所



2021.8.14. 1:00 岐阜県土岐市土岐津町 土岐観測所

出典:国土交通省 中部地方整備局 庄内川河川事務所



国道41号(岐阜県下呂市萩原)被災状況

出典:国土交通省 中部地方整備局 高山国道事務所



台風15号 2022年(令和4年)9月22日～24日

令和4年9月23日9時頃、室戸岬の南で発生した台風15号は北東に進み、近畿地方や東海地方に接近しました。この台風周辺で発達した雨雲により東日本の太平洋側を中心とした地域は大雨となり、静岡県や愛知県では記録的な豪雨となりました。

台風15号

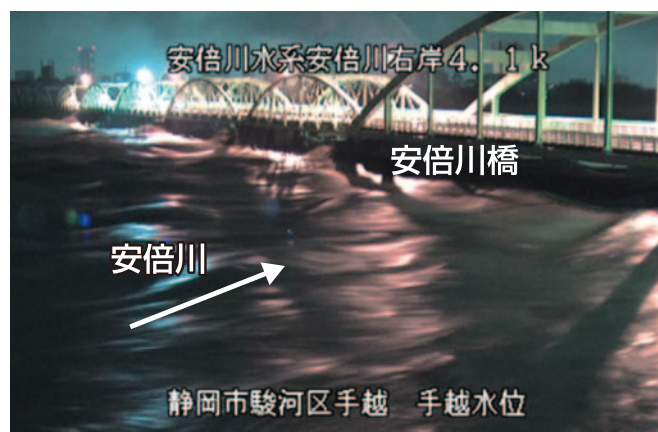
災害の概要と被害

静岡県では記録的短時間大雨情報が16回発表されるなど、被害は多方面にわたって拡大していった。

静岡県では、9月23日から24日にかけて猛烈な雨が継続しました。安倍川の手越水位観測所（静岡市）では氾濫危険水位を超え、平成以降最高となる水位4.23mを観測しました。また、菊川の加茂水位観測所でも氾濫危険水位を超えるピーク水位4.23mを観測するなど、安倍川水系・菊川水系の流域は激しい雨に襲われました。これにより、静岡県では記録的短時間大雨情報が16回発表され、複数の観測点で1, 3, 6, 12, 24, 48時間降水量の観測史上1位の値を更新し、人的被害や家屋の浸水、交通障害やライフラインへの被害などが発生しました。

安倍川の支川となる藁科川では左岸9.0km付近（静岡市葵区大原地先）で、洗堀によって護岸約73mが損傷しました。

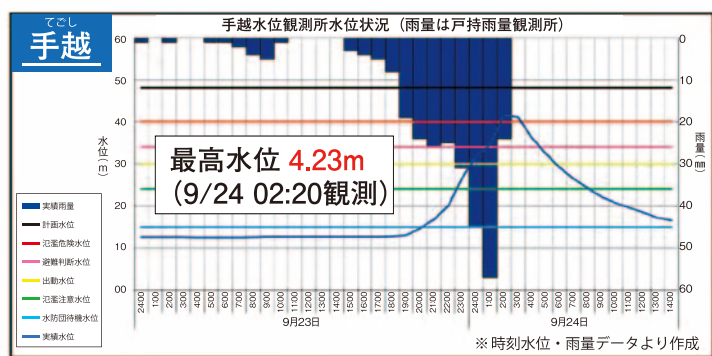
愛知県では9月23日夕方から夜遅くにかけて線状降水帯が発生、東三河南部は猛烈な雨となりました。この大雨によって額田郡幸田町を流れる広田川の右岸堤防が決壊、7.5haが浸水しました。



出水時の状況（9月24日3時23分）

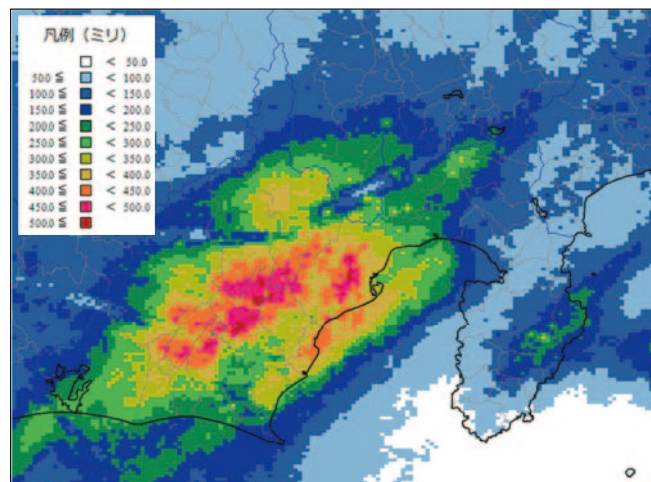
出典：国土交通省 中部地方整備局 河川部

●手越水位観測所水位状況



出典：国土交通省 中部地方整備局 静岡河川事務所 長島ダム管理所

●解析雨量の積算 9月22日05時～24日17時の60時間積算雨量



出典：静岡地方気象台



堤防が決壊した広田川

出典：国土交通省 中部地方整備局 河川部



藁科川の被災状況

出典：国土交通省 中部地方整備局 河川部

被害状況(土砂災害)

令和4年10月14日17:00現在速報版

土砂災害発生件数
141件

(土石流等: 39件
地すべり: 2件
がけ崩れ: 101件)

【被害状況】

人的被害: 死者 1名
負傷者 3名
家屋被害: 全壊 2戸
半壊 2戸
一部損壊 13戸

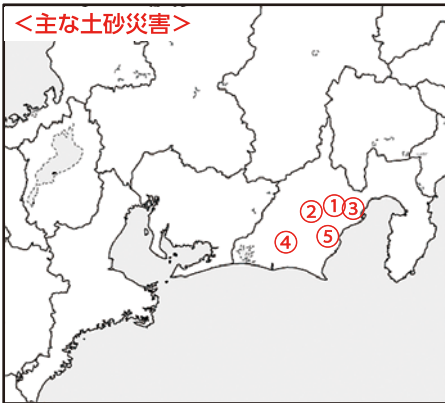
※これは速報版であり、今後数値等が変わる可能性があります。

都道府県別発生件数

長野県※ 1件
岐阜県 1件
静岡県 134件
愛知県 3件
三重県 3件

※矢作川水系、木曽川水系、天竜川水系の流域が対象

<主な土砂災害>



①土石流等 (静岡県静岡市葵区油山)



②土石流等 (静岡県榛原郡川根本町田野口)



③土石流等 (静岡県静岡市清水区布沢)



④がけ崩れ (静岡県磐田市平松)



⑤土石流等 (静岡県藤枝市旭が丘)



出典: 国土交通省 中部地方整備局 河川部

給水支援状況



出典: 国土交通省

●一般被害状況

消防庁(令和5年5月15日10時現在)

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部破損 (棟)	床上浸水 (棟)	床下浸水 (棟)
静岡県	3		20	8	2,244	198	1,976	2,747
その他					1	11	18	50
合計	3		20	8	2,245	209	1,994	2,797

静岡県の被害総額

約1,955億円
(当時)

※水害統計



梅雨前線と台風2号による大雨 2023年(令和5年) 6月1日～3日

6月1日から3日午前中にかけて本州付近に停滞した梅雨前線に向かって、台風2号の暖かく湿った空気が流れ込んだため前線が活発化。西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨となり、この地方では三重・愛知・静岡の3県に線状降水帯が発生しました。

梅雨前線と台風2号による大雨

災害の概要と被害

非常に激しい雨を降らす線状降水帯が発生、各地で浸水被害や土砂災害をもたらした。

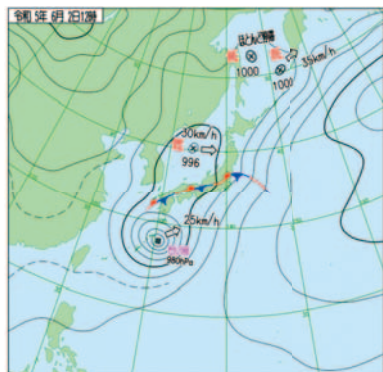
東海地方では6月2日から3日にかけて雨が激しくなり、特に2日の夕方から夜にかけては非常に激しい雨が降り続き、豊川水系豊川の石田雨量観測所(愛知県新城市)では総雨量439mmを記録しました。この様に、愛知県や静岡県、三重県など複数の観測地点で、1時間降水量や24時間降水量の観測史上1位の値が更新されるほどの大雨となり、線状降水帯が発生しました。また、この大雨によって、庄内川水系土岐川の土岐水位観測所(岐阜県土岐市)では令和3年8月出水と同規模の4.82mのピーク水位を、狩野川水系黄瀬川の本宿水位観測所(静岡県駿東郡)では氾濫危険水位を超える4.31mの水位が観測されています。



小坂井排水機場付近の内水による浸水被害

出典:国土交通省 中部地方整備局 河川部

●地上天気図(6月2日12時)



出典:気象庁



出水時の状況(6月2日 21時50頃)

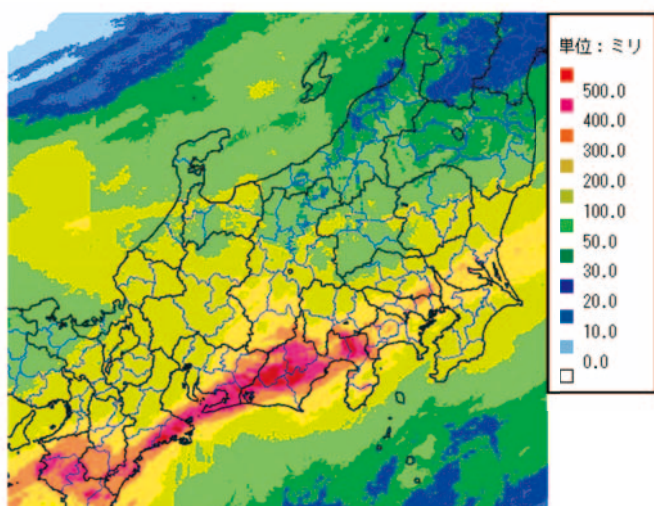
出典:国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所



出水時の状況

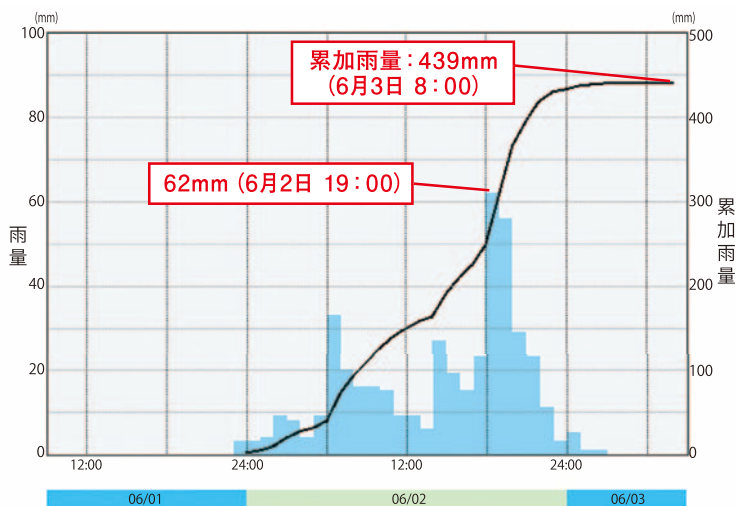
出典:国土交通省 中部地方整備局 庄内川河川事務所

●解析雨量積算図 5月31日24時から3日24時の72時間積算



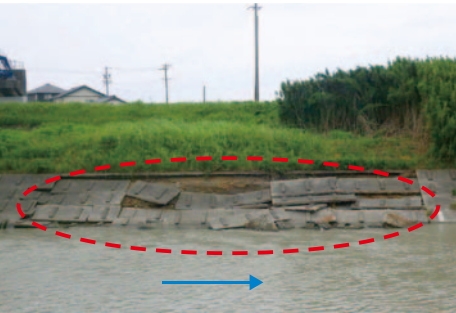
出典:東京管区気象台

●降雨の状況(石田雨量観測所 豊川河口より27.6km)



出典:国土交通省 中部地方整備局 河川部

中部地方整備局が管理する河川では、菊川水系・豊川水系・矢作川水系・庄内川水系などで被災が確認されています。また、県管理河川では、敷地川^{しきじ}堤防が決壊して約9.1haが浸水、土岐川では県道の路肩が約35mにわたって崩壊しました。



菊川左岸5.4kmの護岸が崩壊
出典：国土交通省 中部地方整備局 河川部



敷地川（静岡県磐田市敷地地内）の堤防決壊
出典：国土交通省 中部地方整備局 河川部



土岐川（瑞浪市釜戸町地内）の路肩崩壊
出典：国土交通省 中部地方整備局 河川部

被害状況(土砂災害)

令和5年6月28日 現在速報版

土砂災害発生件数
105件

〔土石流等：11件
地すべり：3件
がけ崩れ：91件〕

【被害状況】

人的被害：死者 1名
負傷者 1名
家屋被害：全壊 3戸
一部損壊 14戸

※これは速報版であり、今後数値等が変わる可能性があります。

都道府県別発生件数	
長野県※	6件
岐阜県	6件
静岡県	51件
愛知県	39件
三重県	3件

※矢作川水系、木曽川水系、天竜川水系の流域が対象



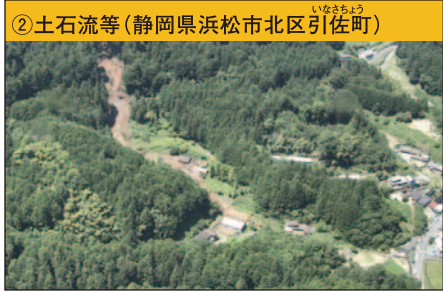
④がけ崩れ（愛知県北設楽郡設楽町清崎）



③土石流等（愛知県豊川市御津町）



①土石流等（長野県飯田南信濃南和田）



②土石流等（静岡県浜松市北区引佐町）



⑤がけ崩れ（静岡県浜松市西区舘山寺町2）

出典：国土交通省 中部地方整備局 河川部

●一般被害状況

消防庁（令和6年3月6日17時現在）

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部破損 (棟)	床上浸水 (棟)	床下浸水 (棟)
静岡県	2		1	3	16	34	176	248
愛知県	1		2	3	142	25	350	688
三重県			1			1	7	44
岐阜県								23
その他	3	2	45	15	378	132	1,865	5,958
合計	6	2	49	21	536	197	2,398	6,961



台風10号 2024年(令和6年)8月27日～9月1日

8月29日午前8時頃、鹿児島県薩摩川内市付近に上陸した台風10号は、遅い速度で九州北部や四国地方を通して東海道沖へと進んでいきました。動きの遅い台風と暖かく湿った空気の影響によって、太平洋側を中心に記録的な大雨となり、東海地方や九州南部では27日からの総雨量が平年の8月の月降水量の2倍以上となった所もありました。

台風10号

災害の概要と被害

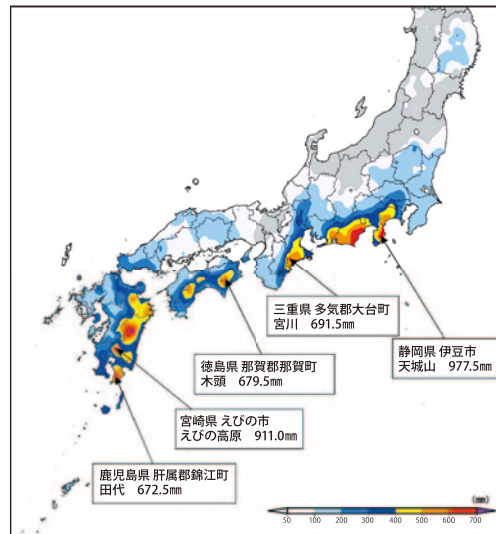
三重県など7県で線状降水帯が発生し、記録的な大雨。

西日本から東日本の太平洋側を中心とした地域では、複数の観測地点で72時間降水量が観測史上1位を更新するなど猛烈な雨が降り、静岡県伊豆市天城山では期間降水量977.5mmを観測しました。

岐阜県では平年8月の月降水量の約1.6倍に相当する大雨となった地点もあり、揖斐川流域を中心に杭瀬川や東川、水門川で内外水による家屋浸水が発生しました。三重県では北中部で線状降水帯が発生するなど降水量が急激に増加したことから、櫛田川水系佐奈川(多気町)で溢水による外水氾濫、三渡川水系堀坂川(松阪市)で約30mに渡る堤防洗掘が見られました。

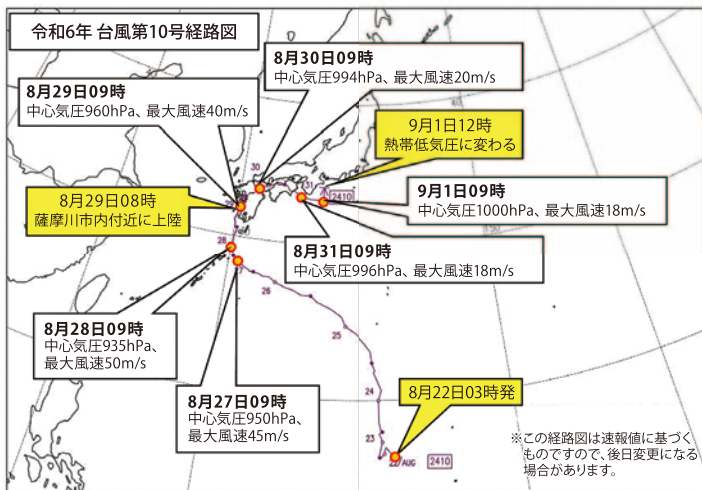
この他にも、中部地方整備局管内の国管理河川では菊川水系菊川・牛渕川、雲出川水系中村川で氾濫危険水位を超過し、県管理河川では21水系27河川で氾濫危険水位を超過しました。

●降水量の期間合計値分布図 8月27日00時～9月1日24時



出典：気象庁

●台風経路図



出典：気象庁

●被災状況



三渡川水系堀坂川(松阪市田牧町)の堤防洗掘 出典：国土交通省 中部地方整備局 河川部



赤坂垂井線 大垣市赤坂東町の浸水状況 出典：岐阜県



櫛田川水系佐奈川3.9k右岸(西山橋水位観測所)の出水状況 出典：国土交通省 中部地方整備局 河川部



菊川水系菊川 加茂観測所の状況 出典：国土交通省 中部地方整備局 浜松河川国道事務所

中部地方以外でも、太平洋側を中心とした日本の広い地域で記録的な大雨が観測され、鹿児島県・宮崎県・大分県・徳島県・香川県・兵庫県では8月28日から31日にかけて線状降水帯が発生しました。

この大雨によって11都県の30水系42河川で氾濫による浸水被害が発生し、8県23市町村では最大3,508戸が断水するなど、日々の暮らしに大きな影響をもたらしました。



大分県大分市光吉地先、田尻地先
(大分川水系七瀬川右岸0k400付近)
の浸水状況

出典：国土交通省 九州地方整備局

被害状況(土砂災害)

愛知県蒲郡市では住宅が土砂崩れに巻き込まれ、死者3名・負傷者2名の被害が出るなど、多数の地域で土砂災害が発生しています。

土砂災害発生件数

133件

〔土石流等：16件
地すべり：1件
がけ崩れ：116件〕

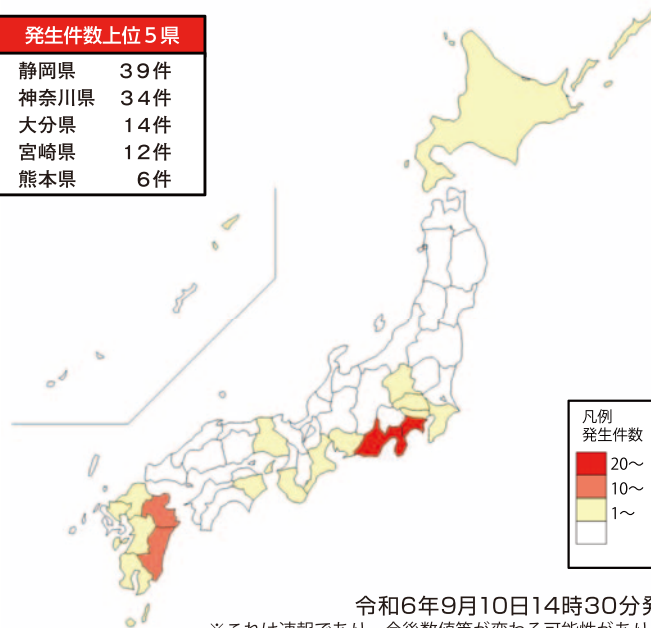
【被害状況】

人的被害：死者 3名
負傷者 4名
人家被害：全壊 2戸
半壊 3戸
一部損壊 15戸



発生件数上位5県

静岡県	39件
神奈川県	34件
大分県	14件
宮崎県	12件
熊本県	6件



令和6年9月10日14時30分発表
※これは速報であり、今後数値等が変わる可能性があります。

出典：国土交通省

●一般被害状況

消防庁(令和7年3月24日11時現在)

県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(人)	全壊(棟)	半壊(棟)	一部破損(棟)	床上浸水(棟)	床下浸水(棟)
静岡県				1	22	23	13	87
愛知県	3		2	1		3	1	20
岐阜県					8	5	6	148
神奈川県			5	3	58	39	103	1,882
大分県			2	2	37	41	95	180
宮崎県			37	3	187	1,632	3	7
鹿児島県	1		33	3	30	816	1	37
その他	4		52	6	1	89	73	269
合計	8		131	19	343	2,648	295	2,630

令和6年7月25日からの大雨

2024年(令和6年)
7月23日～26日

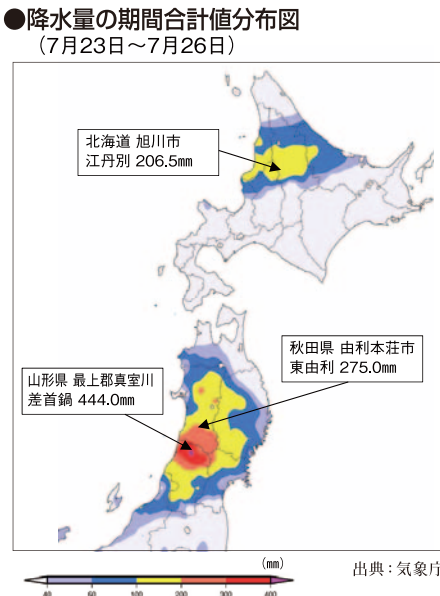
7月23日から26日にかけて、北日本に停滞した梅雨前線と前線に向かって吹く暖かく湿った空気によって大気の状態が非常に不安定となり、山形県では総降水量が400mmを超え、平年7月の月降水量を大きく上回るなど、北日本を中心とした地域で記録的な大雨となりました。

災害の概要と被害

山形県では、
大雨特別警報が1日に2回発表。

山形県や秋田県では、7月24日から26日にかけて雷を伴う激しい雨が降り続き、記録的短時間大雨情報が計5回発表され、複数の地点で24時間降水量が観測史上1位を更新するなど、記録的な大雨となりました。特に山形県では、線状降水帯が25日昼過ぎと夜間の2度にわたって発生したため、気象庁は大雨特別警報を2回発表する事態となりました。

この大雨によって、国管理河川では秋田・山形の2県2水系4河川、県管理河川では岩手・秋田・山形・宮城の4県11水系35河川で浸水被害が発生、この内の16箇所で堤防の決壊や欠損が確認されました。また、山形県の57件を筆頭に北海道・秋田・岩手・滋賀県で計67件の土砂災害が発生しています。



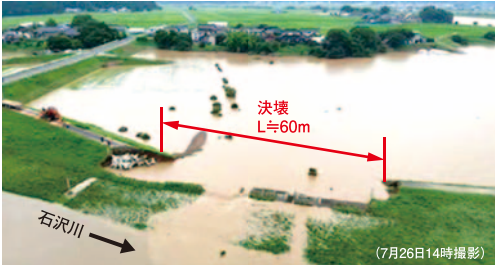
国道47号道路崩壊(山形県舟形町長尾地区) 出典：国土交通省 東北地方整備局 道路部



浸水状況(山形県最上郡戸沢村蔵岡地区) 出典：国土交通省 東北地方整備局 河川部



土砂災害発生状況(山形県酒田市北青沢) 出典：国土交通省



石沢川左岸1.0km付近の堤防決壊(秋田県由利本荘市) 出典：国土交通省 東北地方整備局 河川部



最上川下流左岸3.0km付近の出水状況(山形県酒田市) 出典：国土交通省 東北地方整備局 河川部

●一般被害状況

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部破損 (棟)	床上浸水 (棟)	床下浸水 (棟)
秋田県	2		1	3	54	6	13	241
山形県	3		4	20	525		74	1,147
その他				2	3	5	5	41
合計	5		5	25	582	11	92	1,429

令和6年9月20日からの大雨(奥能登豪雨)2024年(令和6年)9月20日～22日

9月20日頃から低気圧や前線に向かって流れ込む暖かく湿った空気によって大気の状態が不安定となり、石川県や秋田県では線状降水帯が発生しました。20日から22日までの総降水量は石川県で500mmを超え、平年9月の月降水量の2倍を上回る地点も出るなど、北陸地方や東北地方の日本海側では記録的な大雨となりました。

災害の概要と被害

元日に起きた地震の復旧さなかに襲った大雨、
*複合災害によって能登半島に更なる被害が拡大していった。

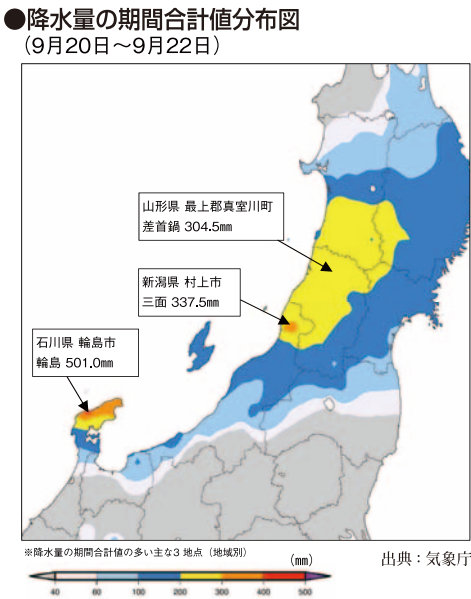
元日に発生した能登半島地震の被災地である石川県輪島市・珠洲市では、1時間降水量や3時間降水量などが観測史上1位となるなど記録的な豪雨となったことから、輪島市、珠洲市及び能登町に大雨特別警報が発表されました。

この大雨によって、能登半島地震の復旧工事現場での土砂崩れや仮設材の流出・破損、トンネル復旧工事に従事していた作業員1人が死亡、地震の被災者を収容する仮設住宅が床上浸水するなど、能登半島地震との複合災害によって被害が拡大しました。

*複合災害…先発の自然災害の影響が残っている状態で、後発の自然災害が発生することで、単発の災害に比べて被害が拡大する事象を言います。
能登半島の場合では、地震の復旧工事中に豪雨災害が起きたことで、被害がより大きなものとなりました。



町野川の堤防決壊(石川県輪島市) 出典:国土交通省 北陸地方整備局



●大雨による土砂災害

土砂災害発生件数

272件

〔 土石流等: 86件
地すべり: 26件
がけ崩れ: 160件 〕

発生件数内訳

石川県	267件
新潟県	2件
宮城県	1件
山形県	1件
熊本県	1件



豪雨に見舞われた仮設住宅 提供:北国新聞社



水道管破損(石川県珠洲市若山町) 出典:国土交通省 水管理・国土保全局



土石流等(石川県輪島市久手川町) 出典:国土交通省

●一般被害状況

消防庁(令和7年1月28日14時現在)

県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(人)	全壊(棟)	半壊(棟)	一部破損(棟)	床上浸水(棟)	床下浸水(棟)
石川県	16		47	82	597	125	52	843
その他	1					2	15	133
合計	17		47	82	597	127	67	976

濃尾地震 1891年(明治24年)10月28日

明治維新を経て、日本が近代国家建設に向けて躍進を続けていた中で起きた国内最大の内陸直下型地震、それが濃尾地震です。地震による揺れは、北海道と南西諸島を除く全国各地で体感できるほどの強大なもので、震源地となった岐阜の状況を伝えた新聞記者の第一報は「ギフナクナル(岐阜、無くなる)」でした。

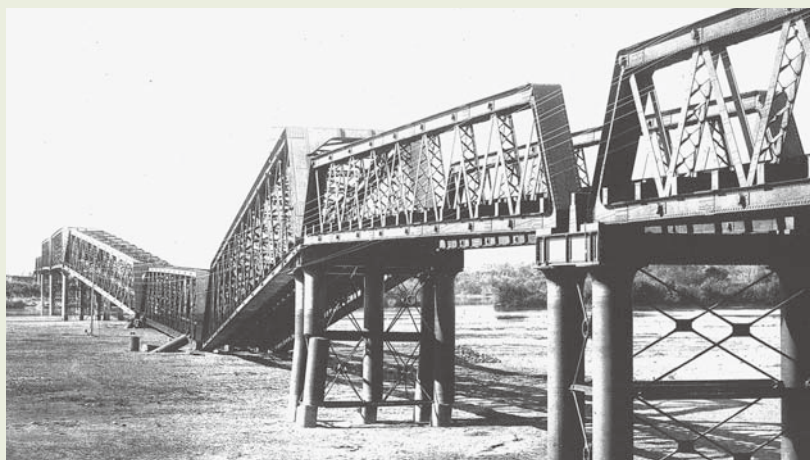
国内最大となるマグニチュード8.0の内陸直下型地震、死者が7,000人を超える凄惨な災害。

濃尾地震は、1891年(明治24年)10月28日6時38分50秒に岐阜県本巣郡根尾村(現・本巣市根尾)を震源として発生した、国内最大となるマグニチュード8.0を記録した内陸直下型地震です。この地震によって、地盤の液状化や地割れ、山の崩壊などが引き起こされ、全国での死者は7,273名に上り、完成間もない近代的な建物や橋梁などの建造物が破壊されました。当時の新聞は「轟くような響きと共に激震が起こり家屋がバタバタと倒壊し、みるみる地盤を裂き泥砂・水を噴出し、押しつぶされ或いは焼けて死したる者おびただしく……」と、悲惨な状況を伝えています。



愛知郡熱田(現 名古屋市熱田区)の尾張紡績崩壊

出典:1891年の日本の大地震



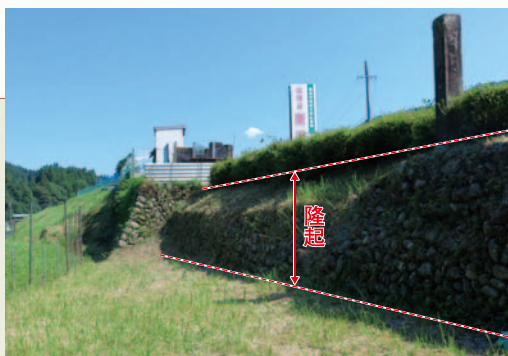
長良川(岐阜一穂積)鉄橋崩落

出典:1891年の日本の大地震

●一般被害状況

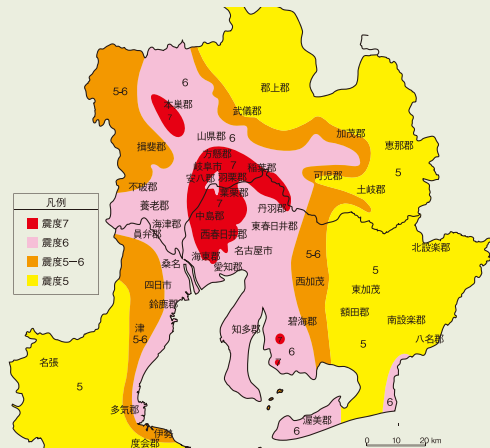
死者 (人)	負傷者 (人)	全壊 (戸)	半壊 (戸)	山崩れ (箇所)
7,273	17,175	142,177	80,324	10,224

出典:宇佐美龍夫,“新編日本被害地震総覧”東京大学出版会(1987)



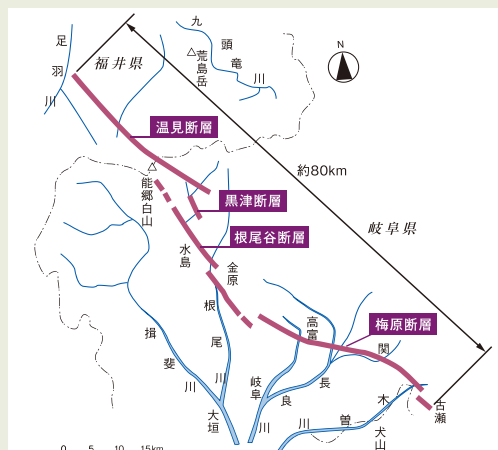
根尾谷断層

●岐阜・愛知・三重の震度分布図



愛知県防災会議地震部会資料より作成

●濃尾地震による活断層群



濃尾地震と根尾谷断層より作成



彩色でよみがえる災害の記録
一般社団法人中部地域づくり協会が
白黒写真をカラー写真加工しました

昭和東南海地震 1944年(昭和19年)12月7日

第2次世界大戦の戦時下に、南海トラフに起因する海溝型巨大地震が発生しました。震源地は熊野灘でマグニチュード7.9を記録した巨大地震であったため、被害は愛知県、三重県、静岡県、和歌山県、岐阜県、大阪府、奈良県、滋賀県、山梨県、石川県、福井県、兵庫県、長野県の13府県に広がっています。

家屋等の崩壊による圧死に加え、巨大な津波も発生、13府県での死者・行方不明者は1,251人にも及んだ。

昭和東南海地震における震度は、愛知県幡豆郡福地村(現・西尾市)の7が最大で、震度6～7が愛知県半田市、名古屋市の港区と南区が震度6で、それ以外の区は震度5～6、三河地方の山間部では概ね震度4とされています。愛知県での死者438人のうち、半田市が188人と多いのは中島飛行機半田製作所山方工場で働いていた学徒97人が倒壊した工場のがれきに押しつぶされたこと、名古屋市南区の91人についても同様で、工場建屋が倒壊して1か所で多くの方が亡くなったことによるものです。

静岡県では大きな揺れが太田川及び菊川の中下流域で発生し、この2つの流域の12町村での家屋全壊率は30%を超え、死者も158人と静岡県の全死者数295人の50%以上となりました。被害が甚大であったのは、低湿地帯の軟弱地盤が原因とされています。

昭和東南海地震では、海溝型地震に多く見られる巨大な津波も発生しました。三重県では尾鷲市をはじめとする熊野灘沿岸の市町村や、和歌山県紀伊半島南部の那智町、勝浦町で多くの死者がでました。

この地震により、死者・行方不明者1,251人、負傷者2,971人、建物の全壊16,455戸、半壊36,590戸、流失2,912戸、浸水12,156戸等の被害が発生しました。(日本被害地震総覧による)



津波による尾鷲市港町の惨状 撮影:太田金典氏 提供:尾鷲市



半田市山方新田付近(現在の半田市役所周辺) 提供:半田市



地震で倒壊した家屋(浜松市) 提供:浜松市

昭和東南海地震から37日後に発生

三河地震 1945年(昭和20年)1月13日

三河湾内の地下約11kmを震源とするマグニチュード6.8の内陸直下型地震が発生しました。地震の発生が午前3時38分と夜半であったことや、倒壊家屋が多くあったことなどから被害が甚大となりました。被害は、矢作川下流域の幡豆郡(現西尾市)と碧海郡(現安城市・碧南市・高浜市)に集中しています。

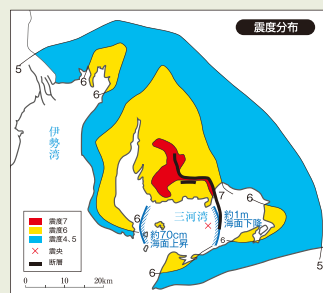


明治村根崎十字路の被害状況(現安城市根崎町) 碧南市所蔵

被災地域が局地的であったにもかかわらず、死者、負傷者数は東南海地震を大きく上回った。

三河地震は、活断層に起因する逆断層地震であったことから被害が非常に局地的で、壊滅状態となった集落の隣の集落にはほとんど被害がないという状況も見られました。しかし、*死者2,306人、*負傷者3,866人と、昭和東南海地震を大きく上回る死者・負傷者数を出しています。また、この地震によって延長18kmの深溝断層が地表面に現れました。

●震度分布図



*出典: 三河地震 昭和20年1月13日三河地震の被害と震度分布(愛知県防災会議1978)

出典: 愛知県被害津波史 昭和56年3月 愛知県防災会議地震部会より作成

阪神・淡路大震災

1995年(平成7年)1月17日

淡路島北部を震源として発生したマグニチュード7.3の都市直下型地震、活断層に沿った地域での被害が大きく家屋や高速道路の倒壊、多発火災、地盤の液状化が発生するなど、神戸市を中心に甚大な被害となりました。

都市直下型地震としては、戦後最大規模の被害となる。

平成7年(1995年)1月17日05時46分、淡路島北部の北緯34度36分、東経135度02分、深さ16キロメートルを震源とするマグニチュード7.3の地震が発生しました。この地震により、神戸と洲本で震度6を観測したほか、東北地方南部から九州地方にかけての広い範囲で有感となりました。さらに、気象庁の地震機動観測班が詳細な現地調査を行った結果、震度7に達している地域が神戸市須磨区から西宮市・宝塚市にかけて帯状(東西)に分布していることが分かりました。また、淡路島の北部にも震度7の地域が存在していることが分かりました。

総務省消防庁の統計によると、この地震による被害は、死者6,434名、行方不明3名、負傷者43,792名と津波を伴わない地震そのものの被害としては戦後最大の被害をもたらしました。



阪神高速道路倒壊(東灘区深江本町)

提供: 神戸市



液状化の様子(中央区港島中町)

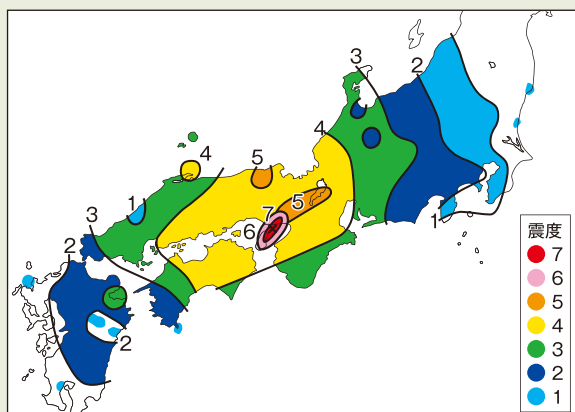
提供: 神戸市



道路の陥没(兵庫区大開通)

提供: 神戸市

●震度分布図



出典: 日本被害地震総覧を内閣府資料により加筆



地震で火災発生(兵庫区松通)

提供: 神戸市

●一般被害状況

消防庁(平成18年5月19日)

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼損棟数 (件)
兵庫県	6,402	3	40,092	104,004	136,952	7,534
全国	6,434	3	43,792	104,906	144,274	7,574

被害総額 約9兆9,268億円(兵庫県推計1995年4月5日)

チリ地震による津波

2010年(平成22年)2月28日

2月27日、マグニチュード8.6の地震がチリ中部沿岸で発生しました。チリで発生した地震としては、50年前の昭和35年、最大6メートルの津波となって日本各地に大きな被害をもたらしたチリ地震に次ぐ大規模なものです。

50年前のチリ地震による津波では死者が142名に上り 悪夢の再現かと、全国に緊張が走る。

2月28日午後には、気象庁の大津波警報、津波警報などの発令を受けて鉄道24路線が全線、あるいは一部区間の運行を見合わせました。また、東名高速道路の一部区間など、高速・有料道路でも通行止めを実施しています。

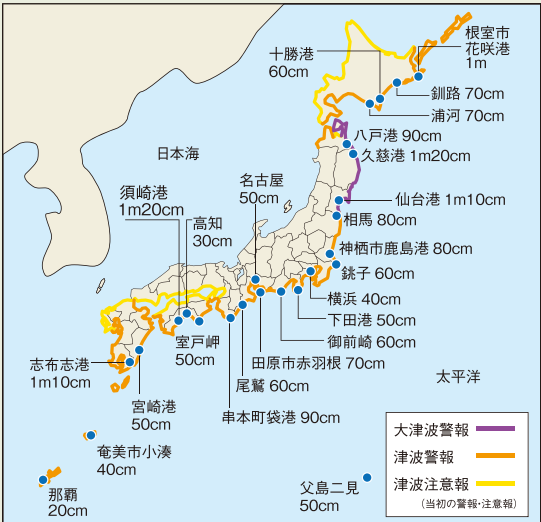
中部地区では、三重県で避難勧告と避難指示が、愛知県と静岡県では避難勧告が発令されました。東海地方では最大2mの津波が予想されましたが、愛知県田原市の70cmが最高となっています。全国では、北海道根室市花咲港が1.0m、岩手県の久慈港で1.2mを記録し、水産関係に被害が発生しました。(被害総額は64億円(当時))



根室市花咲港での津波の到達

提供：根室市

●各地域の最高潮位



内閣府

●中部地区避難勧告対象人数

県名	避難対象世帯	避難対象人数	避難者	比率
静岡県	101,514 ^(戸)	271,644 ^(人)	2,679 ^(人)	1.0%
愛知県	16,312	52,873	104	0.2%
三重県	44,198	111,263	595	0.5%

消防庁

●中部地区の津波の高さ

愛知県	田原市	70cm	三重県	尾鷲市	60cm	静岡県	御前崎	60cm
	名古屋港	50cm		熊野市	50cm		下田	50cm
	半田市	20cm		四日市市	20cm		焼津	30cm

内閣府

3.11 東日本大震災

2011年(平成23年)3月11日

震源は三陸沖(牡鹿半島の東南東130km付近)の深さ24kmで、国内観測史上最大のマグニチュード9.0となり、最大震度7(宮城県栗原市)が観測されました。この地震により大津波が発生し、浸水区域面積は535km²にも及ぶなど、太平洋沿岸に壊滅的な被害をもたらしました。

地震と世界最大級の津波による未曾有の大災害、
10年後にも最大震度6強の余震が発生。

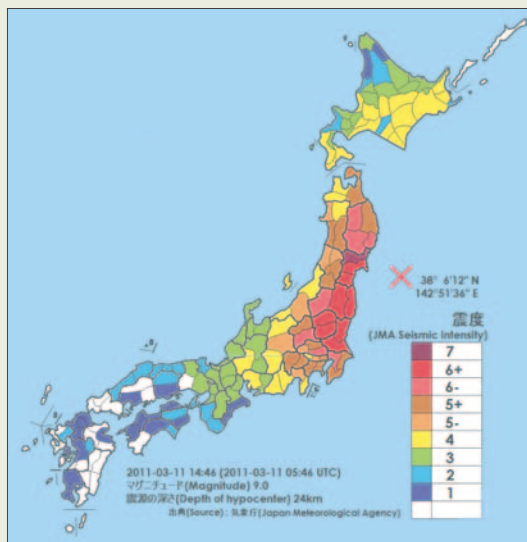
2011年3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島の東南東約130kmの海底を震源として発生した東日本大震災はマグニチュード9.0を記録し、震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約450km、東西約150kmの広範囲に及びました。この地震により、場所によっては波高10m以上の大津波が発生し、東北地方の沿岸部は壊滅状態となりました。津波以外にも、液状化現象、地盤沈下などによって、東北と関東の広大な範囲で被害が発生、空港、道路、鉄道、港湾などのライフラインもほぼ停止しました。

そして、東日本大震災から10年を経た令和3年(2021年)2月13日23時07分、福島県沖の深さ55kmを震源とするマグニチュード7.3、最大震度6強の地震が発生、これは東日本大震災の余震とみられています。



東日本大震災の津波による広域的被害状況(南三陸町)

●震度分布図



3月30日発表

出典：気象庁

●一般被害状況

消防庁発表より(令和7年3月1日現在)

都道府県名	死者(人)	行方不明者(人)	負傷者(人)	全壊(戸)	半壊(戸)	火災(戸)
北海道	1		3		4	4
青森	3	1	110	308	701	11
岩手	5,147	1,107	213	19,508	6,571	33
宮城	10,571	1,215	4,148	83,005	155,131	137
山形	3		45		14	2
福島	3,948	224	183	15,483	83,698	38
東京	8		119	20	223	35
茨城	66	1	714	2,637	25,054	31
栃木	4		133	261	2,118	
群馬	1		42		7	2
千葉	22	2	268	807	10,313	18
神奈川	7		137		41	6
その他	1		127	24	199	13
合計	19,782	2,550	6,242	122,053	284,074	330

※被災状況には、平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の余震による被害のほか、平成23年3月11日以降に発生した余震域外の地震による被害の区別が不可能なものを含む。

※不明箇所については、現時点で調査しているものも含む。

※福島県の死者・行方不明者数については、他県の計上方法と異なるため、可能な範囲において重複計上や計上漏れを排除し、一部他県との整合を図り計上し直したもの。よって、消防庁と福島県の公表数に違いがある。

被害総額 約16兆9千億円(内閣府 防災担当)

平成23年6月24日公表

御嶽山噴火

2014年(平成26年)9月27日

9月27日11時52分頃、長野県と岐阜県の県境にある御嶽山で噴火が発生しました。紅葉の季節であったことも重なり、噴火による災害としては戦後最悪の被害となりました。

9月27日11時52分頃、御嶽山で水蒸気噴火が発生。 噴火による災害としては戦後最悪の被害者数。

9月27日11時52分頃、御嶽山(標高3067m)で水蒸気噴火が発生しました。紅葉の季節を迎えた土曜日であったことなどから、多くの登山者が山頂付近に滞在しており、多くの方が被害に遭われました。

登山者が巻き込まれた噴火による災害としては、43人が犠牲となった平成3年雲仙普賢岳以来の戦後最悪の被害(死者58人、行方不明5人、平成27年11月6日現在 消防庁)となりました。



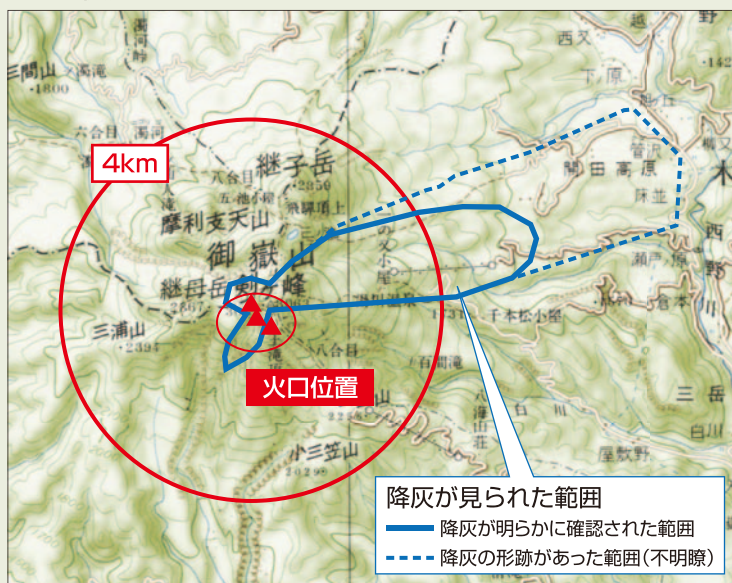
御嶽山現地ヘリ状況写真【御嶽 南西から撮影】〈調査日時:平成26年9月27日15:20～17:30〉

●御嶽山 過去の主な火山活動(噴火)

気象庁

年代	現象	活動経過・被害状況等
1979年 (昭和54年)	中規模: 水蒸気噴火	10月28日早朝。火砕物降下。噴火場所は剣ヶ峰(主峰)南斜面小火口群。前橋付近まで降灰。山麓で農作物被害。
1991年 (平成3年)	ごく小規模: 水蒸気噴火	5月13～16日の間。噴火場所は1979年第7噴火口。4月20日山体直下で地震多発、以後6月まで時々地震多発。
2007年 (平成19年)	ごく小規模: 水蒸気噴火	1～3月。噴火場所は1979年第7噴火口。1月16～17日火山性地震増加(16日90回、17日164回)1月25日一連の活動中で最大の火山性微動発生(15～20秒の超長周期成分を含む)。地震波等の研究から、御嶽山直下へのマグマ貫入(深さ4kmまで上昇)に伴って山頂直下の地震が発生。
2014年 (平成26年)	中規模: 水蒸気噴火	9月27日11時52分頃噴火。噴火場所は剣ヶ峰の南西側。南西方向に火砕流が流下。27日11時41分頃から連続微動。これに先立つ9月10日から11日にかけて地震増加。

●降灰状況



熊本地震

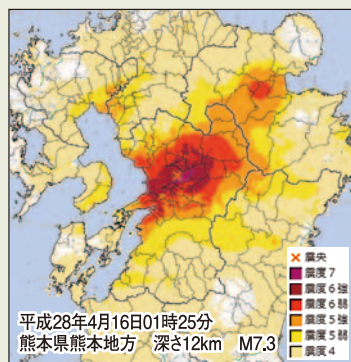
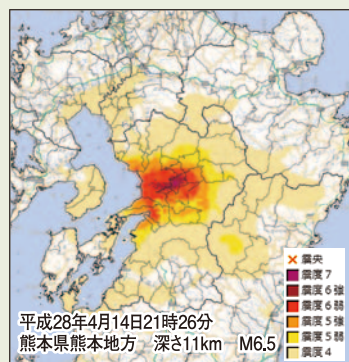
2016年(平成28年)4月14日

平成28年4月14日21時26分、熊本県熊本地方でマグニチュード6.5の地震が発生し、益城町では震度7を観測しました。その後、本震として16日1時25分、同地方においてマグニチュード7.3の地震が発生し、益城町や西原村で震度7の揺れとなり、熊本県を中心に多数の家屋倒壊、土砂災害等により甚大な被害をもたらしました。

最大震度7が2回は観測史上初、過去に例を見ない内陸型地震。

14日21時26分のM6.5の地震(最大震度7)以降、熊本地方や阿蘇地方、大分県中部等にかけての広い範囲で地震活動が活発になり、最大震度7を観測した地震が2回、最大震度6弱以上を観測した地震が7回、最大震度5弱以上を観測した地震が18回発生しました。内陸型地震でM6.5以上の地震の後にさらに大きな地震(M7.3)が発生するのは、地震の観測が日本において開始された1885年以降で初めてのケースであり、また一連の地震活動において震度7が2回観測されるのは、1996年に現在の気象庁震度階級が制定されて以来初めてのことでした。

●震度分布図



気象庁 推計震度分布図編集



大規模な斜面崩壊 (熊本県阿蘇郡南阿蘇村) 提供: 国土交通省 水管理・国土保全局



熊本城の被害状況 (熊本県熊本市)

提供: 国土交通省 水管理・国土保全局



家屋の倒壊状況 (熊本県熊本市)

提供: 内閣府



2.2mの最大変位量が観察された地点 (熊本県熊本市益城町堂園付近) 提供: 気象庁

●一般被害状況

消防庁 (平成31年4月12日)

県名	死者 (人)	負傷者 (人)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼損棟数 (件)
熊本県	270	2,737	8,657	34,491	15
大分県	3	34	10	222	
その他		38		6	
計	273	2,809	8,667	34,719	15

被害総額 約2.4~4.6兆円 (内閣府分析担当推計2016年5月)

大阪府北部地震

2018年(平成30年)6月18日

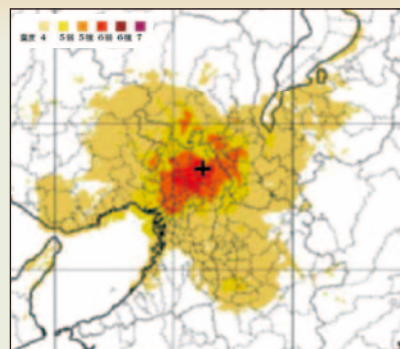
マグニチュード6.1、最大震度6弱、ブロック塀の崩落。

2018年6月18日7時58分に大阪府北部の深さ約15kmでマグニチュード6.1の地震(最大震度6弱)が発生しました。大阪府北区、高槻市、枚方市、茨木市、箕面市の5市区で震度6弱、京都府京都市、亀岡市など18の市区町村で震度5強を観測したほか、近畿地方を中心に関東地方から九州地方の一部にかけて震度5弱～1を観測しました。

震源に近い近畿圏では、鉄道の運休が相次ぎ、水道管の損傷や断水、ガスの供給停止が起きるなど都市機能がまひしました。特に、震度6弱を記録した地域では、家屋の倒壊やブロック塀の崩落等が相次ぎ、大きな被害が発生しました。

この地震により死者6人、重傷62人、軽傷400人、建物の全壊21棟、半壊483棟、一部破損61,266棟等の被害が発生しました。(平成31年4月1日現在、総務省消防庁による)

○推計震度分布図



出典: 気象庁



高槻市の道路陥没

出典: 国土交通省 近畿地方整備局



小学校のブロック塀倒壊

提供: 近畿大学建築学部減災学研究室教授 安藤尚一氏



寺院の屋根崩壊

提供: 近畿大学建築学部減災学研究室教授 安藤尚一氏

北海道胆振東部地震

2018年(平成30年)9月6日

マグニチュード6.7、最大震度7、大規模ながけ崩れと液状化。

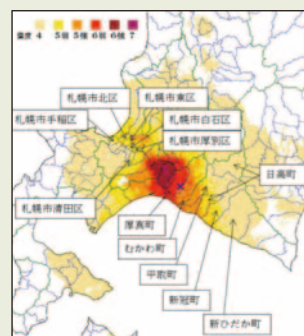
2018年9月6日03時07分に北海道胆振地方中東部の深さ37kmでマグニチュード6.7の地震(最大震度7)が発生しました。北海道厚真町で震度7、安平町、むかわ町で震度6強、千歳市、日高町、平取町で震度6弱を観測したほか北海道から中部地方の一部にかけて震度5強～1を観測しました。

震源に近い厚真町吉野地区の山林で大規模な崖崩れが発生し、多数の住宅が巻き込まれたほか、厚真町他地区、安平町、むかわ町で多くの住宅が倒壊しました。札幌市内では地盤の液状化現象が発生し、清田区の里塚地区で道路の陥没や地盤の沈下、住宅の傾斜、土砂の流出などの大きな被害が発生しました。

また、地震により苫東厚真火力発電所をはじめ道内全ての火力発電所が緊急停止した影響で、道内全域の約295万戸で停電が発生しました。

この地震により死者43人、重傷48人、軽傷734人、建物の全壊469棟、半壊1,660棟、一部破損13,849棟等の被害が発生しました。(平成31年4月1日現在、総務省消防庁による)

○推計震度分布図



出典: 気象庁



札幌市の液状化による被害



厚真町日高幌内川における河道閉塞箇所



厚真町吉野地区の土砂災害 出典: 国土交通省 北海道開発局

令和6年能登半島地震 2024年(令和6年)1月1日

令和6年1月1日の午後4時10分、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生、石川県志賀町及び輪島市で最大震度7を観測したほか、北海道から九州にかけて震度6強～1が観測されています。この地震によって津波が発生するとともに、家屋の倒壊や液状化、土砂災害などが引き起こされ、被害は甚大なものとなりました。

1月1日に能登半島を襲った震度7の逆断層型地震、大津波警報も発令された。

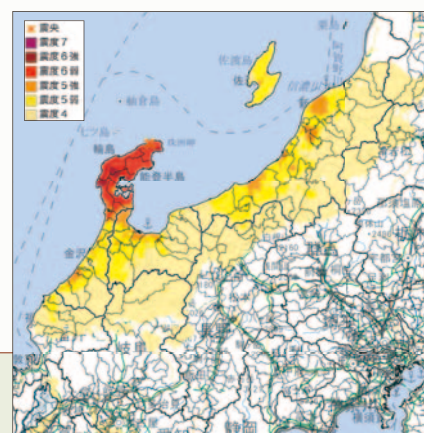
令和6年1月1日16時10分、石川県能登地方輪島の東北東30km付近の深さ16kmを震源とする地震が発生し、石川県志賀町・輪島市の震度7を最大として、能登地方の広い範囲で震度6弱～5強の強い揺れが発生しました。また、石川県能登では極めて大きな揺れを示す「長周期地震動階級4」が観測されています。

この地震により、石川県能登に大津波警報、山形県や新潟県などに津波警報、北海道から九州地方に津波注意報が出され、新潟県上越市では5.8mの高さまで津波が遡上したほか、石川県能登町や珠洲市でも4mを超える津波の痕跡が確認され、津波被害は新潟県、富山県、石川県に及びました。（※津波高は気象庁 令和6年1月26日発表）

中部地方では、高山市や飛騨市で震度5弱が観測され、高山市の一部地域で一時1,500戸が断水、八軒町にある国の史跡「高山陣屋」の居間の内壁が15cmほどひび割れたほか、書物庫の外壁も5cmほど剥がれるなどの被害が発生しました。

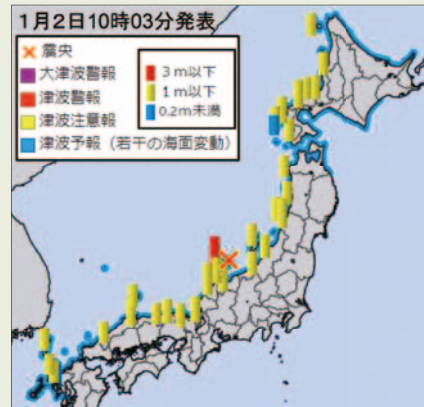
気象庁では顕著な災害を引き起こした自然現象については、災害の教訓を後世に伝承する等を目的として名称を定めることとしており、今回の地震及び石川県能登地方で2020年(令和2年)12月から継続していた一連の地震活動を「令和6年能登半島地震」とする発表を行いました。

●震度分布図



出典：気象庁

●津波観測状況(1月2日 10時03分発表)



出典：気象庁



倒壊したビル(輪島市)

提供：北國新聞社



津波で車や家屋が流された能登浦沿岸のまち(珠洲市宝立町)

提供：北國新聞社



珠洲市役所前の春日通りに押し寄せる津波

提供：北國新聞社

大規模な火災の発生により「輪島朝市通り」は焼失、 ライフラインの被害は被災者の生活をより困難なものとした。

住宅等の火災は石川・富山・新潟の3県で計17件発生し、中でも石川県輪島市の「輪島朝市通り」周辺では地震直後の火災で200棟以上が焼失しました。

また、ライフラインの被害も甚大で、断水戸数は最大で約136,440戸、停電戸数は北陸電力管内で最大約40,000戸に達するなど、生活への影響を深刻なものとししました。また、鉄道ではJR西日本七尾線とのと鉄道七尾線の2事業者2路線が運転を見合わせ、のと里山空港では滑走路上に多数のひび割れ箇所が発生したことから空港閉鎖となるなど、様々な影響が出ています。

※数値は断水戸数：令和6年4月16日14時時点、
停電戸数：令和6年1月1日16時10分時点



JR西日本七尾線
七尾駅～和倉温泉駅間の橋梁損傷
出典：国土交通省



焼失した「輪島朝市通り」周辺
提供：北國新聞社

3県で456件の土砂災害が発生、寸断された 道路により複数の集落が孤立状態となった。

石川県輪島、珠洲、穴水、能登の4市町では、集落を結ぶ道路が大規模な土砂崩れや陥没などによって寸断された結果、最大24地区3,345人が孤立し、外部からの救助や支援が届かない状態となりました。

※数値は土砂災害発生件数：令和6年7月1日13時時点
孤立地区人数：令和6年1月8日時点



国道470号 能越自動車道の土砂崩れ
出典：国土交通省

液状化現象も発生。最大4メートル近い海岸段丘の出現や、 地震発生後3分で到達する津波なども確認。

令和6年能登半島地震では、地盤の液状化による住宅の被害が石川・富山・新潟の3県で10,000件を超えるとの発表もありました。こうした大規模地震によく見られる現象に加えて、今回の地震によって輪島市西部の鹿磯漁港で3.8～3.9m隆起したことや、震源から離れた富山市（富山観測点）で地震発生後の3分後となる午後4時13分に津波の第1波が観測されるなどの現象も確認されました。



4m近い隆起が確認された鹿磯漁港の防潮堤（石川県輪島市）
鹿磯漁港の防潮堤に固着した生物遺骸が示す隆起の様子

出典：産業技術総合研究所地質調査総合センター



浮き上がったマンホール（石川県輪島市）
国土交通省TEC-FORCE撮影

●一般被害状況

消防庁（令和7年3月11日 14時現在）

県名	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者 (人)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部破損 (棟)	床上浸水 (棟)	床下浸水 (棟)
新潟県	5		54	109	4,122	20,348		14
富山県	3		57	259	807	21,606		
石川県	541	2	1,267	6,115	18,517	90,955	6	5
福井県			6		12	820		
その他			9			29		
合計	549	2	1,393	6,483	23,458	133,758	6	19

災害の碑や史跡を巡り学ぶ、先人たちの思い、そして教訓。

「災とSeeing」とは、発生が危惧されている南海トラフ巨大地震や巨大台風等による風水害、その他の大規模災害に備え、地域の防災力を高めることを目的として、東海国立大学機構名古屋大学 減災連携研究センター、(株)CBCテレビ、(株)中日新聞社、(一社)中部地域づくり協会 地域づくり技術研究所が相互に連携協力して取り組む防災啓発活動です。

CBCテレビで放映されるとともに中日新聞に掲載され、中部地域づくり協会のホームページ 中部災害アーカイブスでも公開しています。

中部災害
アーカイブス



- | | | |
|---|---|--|
| 1 災とSeeing
清洲越し
愛知県名古屋市・清須市 | 13 災とSeeing
昭和東南海地震と液状化
三重県桑名市 | 25 災とSeeing
平成30年7月豪雨
岐阜県関市 |
| 2 災とSeeing
入鹿切れ
愛知県犬山市 | 14 災とSeeing
七里の渡し
愛知県名古屋市熱田区 | 26 災とSeeing
福井地震
福井県福井市 |
| 3 災とSeeing
伊賀上野地震
三重県伊賀市 | 15 災とSeeing
三六災害
愛知県一宮市・岐阜県羽島市 | 27 災とSeeing
9.28豪雨災害
岐阜県美濃加茂市 |
| 4 災とSeeing
明治29年洪水
岐阜県大垣市 | 16 災とSeeing
昭和47年7月豪雨災害
愛知県豊田市 | 28 災とSeeing
明応地震
三重県津市 |
| 5 災とSeeing
濃尾地震
岐阜県本巣市根尾 | 17 災とSeeing
安政東海地震
愛知県碧南市 | 29 災とSeeing
阿寺断層帯
岐阜県下呂市・中津川市 |
| 6 災とSeeing
安八水害 (9.12豪雨災害)
岐阜県安八郡安八町 | 18 災とSeeing
伊勢湾台風と洪水氾濫
岐阜県養老郡養老町 | 30 災とSeeing
南海トラフ巨大地震
愛知県豊橋市 |
| 7 災とSeeing
昭和28年台風13号
愛知県西尾市一色町 | 19 災とSeeing
御嶽山噴火
長野県 | 31 災とSeeing
昭和東南海地震
三重県度会郡大紀町錦 |
| 8 災とSeeing
昭和東南海地震・三河地震
愛知県碧南市・額田郡幸田町 | 20 災とSeeing
安永洪水
愛知県清須市・名古屋市 | 32 災とSeeing
梨子沢土石流災害から10年
長野県木曽郡南木曽町 |
| 9 災とSeeing
関東大震災と名古屋
愛知県名古屋市 | 21 災とSeeing
天正地震と養老断層
三重県桑名市・岐阜県海津市 | 33 災とSeeing
濃尾地震
愛知県名古屋市・一宮市 |
| 10 災とSeeing
伊勢湾の津波と大湊
三重県伊勢市大湊町 | 22 災とSeeing
阪神・淡路大震災
兵庫県神戸市 | 34 災とSeeing
平成16年台風23号から20年
岐阜県高山市・飛騨市 |
| 11 災とSeeing
昭和東南海地震
愛知県半田市 | 23 災とSeeing
昭和東南海地震
三重県尾鷲市 | 35 災とSeeing
昭和東南海地震から80年
三重県熊野市新鹿町 |
| 12 災とSeeing
東海豪雨
愛知県名古屋市 | 24 災とSeeing
関東大震災と明治村
愛知県犬山市 | 36 災とSeeing
三河地震から80年
愛知県蒲郡市 |

おうちで災とSeeing

360°空間が楽しめる

災とSeeingで取り上げた災害にまつわる場所を360度の画像により、おうちにいながら訪れてみませんか。



第1回～12回



第13回～24回



第25回～30回



第31回～36回

VRでバーチャルツアー

スマートフォンでご覧いただく場合は、画面を通常の1眼から立体視できる2眼に切り替え、さらに、市販のVRゴーグルを使用することで、よりリアルな旅行気分を楽しめます。



※市販のVRゴーグルの例

※VRゴーグルによる閲覧についてはご自身の判断をお願いします。

●立体視（2眼）への切り替え方法



画面右下のVRマークを選択

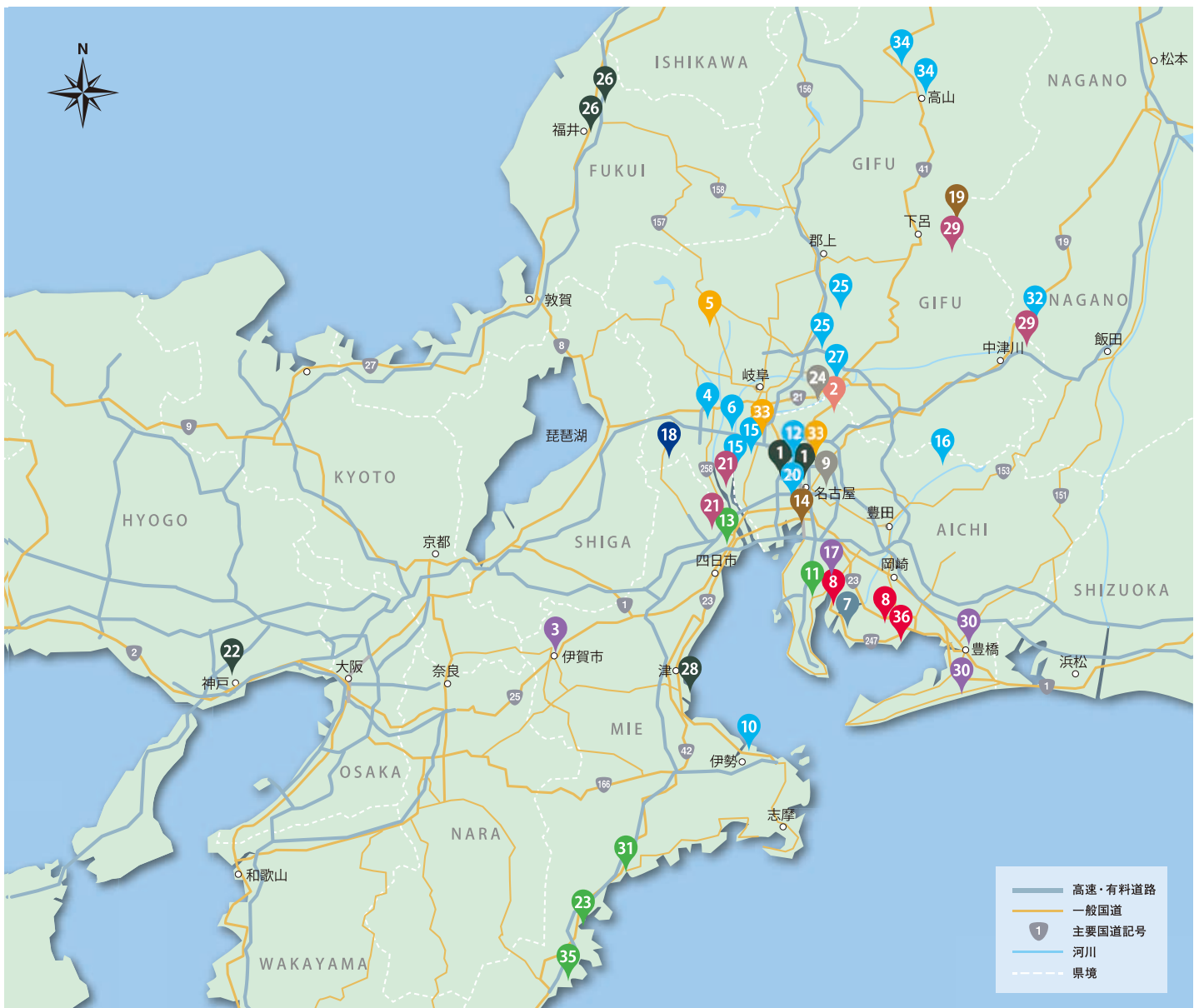


これを選択

●スマホ画面 1眼



●スマホ画面 2眼



31

昭和東南海地震

災とSeeing

1944年(昭和19年)12月7日◆三重県会郡大紀町錦



昭和東南海地震を教訓に、大紀町では「津波で一人の死者も出さない」対策に取り組んでいる。

三重県大紀町(地震当時は錦町)ではマグニチュード7.9の昭和東南海地震による津波で、死者64人、流失家屋447戸、半壊・浸水家屋235戸などの被害が発生しました。大紀町には当時の津波の潮位を示す標識が建てられ、高さ6.5mの津波に襲われたことを表しています。

大紀町は、南海トラフ巨大地震で高さ最大16mの津波に襲われることが想定されています。そのため、昭和東南海地震の教訓を活かし、1998年(平成10年)に全国に先駆けて高さ約20mの「錦タワー」、2013年(平成25年)には高さ約24mの「第2錦タワー」を建設、町民に安心を与える町のシンボルとなっています。また、町内のどこからも5分以内に避難できるよう、避難路が多数整備され、高台には避難所が30カ所整備されています。さらに、錦地区の高齢化率が55.8%と高くなっていることから、沿岸部の住宅を高台に移転させる計画も進められています。

なお、災害の内容は本記録集58ページでご覧いただけます。



「錦タワー」と「第2錦タワー」



錦タワー



町内各所に設けられた避難路

昭和東南海地震による津波の潮位を示す標識

32

梨子沢土石流災害から10年

災とSeeing

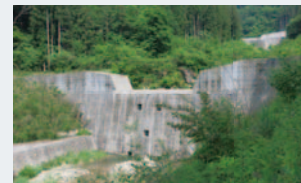
2014年(平成26年)7月9日◆長野県木曽郡南木曽町



南木曽町を襲った深刻な土石流の被害、この地域では土石流は「蛇ぬけ」と呼ばれ、恐れられている。

台風8号の接近に伴って活発化した梅雨前線は、7月9日には3時間連続雨量が112mm(三留野)となる大雨をもたらし、南木曽町を流れる木曽川支流の梨子沢で土石流が発生しました。土石流は大量の土砂と水が一緒になって流れ出す災害で、土石流に襲われることの多いこの地域では「蛇ぬけ」と呼ばれて恐れられています。その日は土石流の予兆である「白い雨」が降っていました。「白い雨」は全体が白くなるような強い雨のことです。対岸からこの土石流を目撃した人は、泥臭いにおいとともに水や土・石・材木が流れていたと言います。この災害から約60年前の1953年(昭和28年)7月20日、南木曽町伊勢小屋沢で土石流が発生したことから、この地には「蛇ぬけの碑(悲しめる乙女の像)」が建立され、そこには「白い雨が降るとぬける」「蛇ぬけの前はきな臭い匂いがする」など、この災害によって得られた貴重な6つの教訓が刻まれています。

なお、災害の内容は本記録集37ページでご覧いただけます。



2017年(平成29年)に完成した梨子沢第3砂防堰堤



蛇ぬけの碑(悲しめる乙女の像)



2014年の土石流災害を記した「平成じゃぬけの碑」土石流で流れ下った石が使われている

33

濃尾地震

災とSeeing

1891年(明治24年)10月28日◆愛知県名古屋市・一宮市



木造建物の耐震化を進めるきっかけとなった濃尾地震、建物が全壊しなければ助かる命は多い。

2024年(令和6年)1月1日に発生した能登半島地震の最大震度は7でした。名古屋市では震度7相当の揺れを、130年以上前の濃尾地震で体験しています。愛知県尾張地区での濃尾地震による倒壊家屋数は67,771戸と膨大でしたが、この地域でも倒壊を免れる、あるいは部分的な被害で済んだ建物もありました。名古屋城でも被害はありましたが、天守閣を含めて限定的な損傷でした。その理由は、天守閣は正方形に近いバランスの良い構造や厚い壁、太くて頑丈な部材が使われていたこと、地盤が強固な熱田台地の上に建てられていたことなどが挙げられます。また、建物と強い地盤で濃尾地震の大きな揺れに耐えたのが、一宮市起に今も残る「湊屋文右衛門邸」です。低い天井と太い柱・はり、地盤が強固であったことが、倒壊を免れた大きな要因とされています。専門家は「建物が全壊しなければ、助かる命は多い」と指摘します。

なお、災害の内容は本記録集57ページでご覧いただけます。



濃尾地震でも壊滅的な被害を免れた名古屋城



国の登録有形文化財に登録されている「湊屋文右衛門邸」



建物の強度を増すため、濃尾地震後に湊屋が設けた「筋違」

34

平成16年台風23号から20年

災とSeeing

2004年(平成16年)10月20日◆岐阜県高山市・飛騨市



宮川の増水により支川の荒城川でバックウォーター現象が発生、合流点近くの老舗旅館は1.2m以上の床上浸水となった。

日本列島を北上した台風23号の影響で、岐阜県は宮川流域を始めとする各地で大きな被害が発生しました。宮川の上流にある高山市では1か月分の雨量を上回る256.5mmの大雨が1日で降り、宮川の水位は半日で約3mも上昇しました。この宮川の増水によって、高山市から約10km下流にある飛騨市でも家屋流出、床上・床下浸水の被害が発生しました。また、宮川と支川の荒城川の合流点では本川である宮川の水位上昇によって、荒城川の水がせき止められたり逆流する「バックウォーター現象」が起こった可能性が指摘されています。これによって、合流点近くにある老舗旅館「蕪水亭」には堤防を超えた水が流れ込み、1.2m以上の浸水となりました。旅館の女将によれば、「明治初期の創業ですが、浸水したのは初めてでした。今までに経験したことがないので、堤防を越してくることはないだろうと思い込んでいました。後から思うとこわかったです。」と語り、災害後には浸水に備えて旅館を1.5mかさ上げしています。

なお、災害の内容は本記録集24ページでご覧いただけます。



宮川と荒城川の合流点(飛騨市)



浸水の被害を受けた老舗旅館「蕪水亭」

蕪水亭の近くに建てられた浸水深標石板

35

昭和東南海地震から80年

災とSeeing

1944年(昭和19年)12月7日◆三重県熊野市新鹿町



大地震のたびに甚大な津波被害を受けた熊野市新鹿町には、津波への注意を警告する石碑が建てられている。

熊野灘を震源とするマグニチュード7.9の昭和東南海地震によって津波が襲来した新鹿町では、死者16名、流失家屋151戸の被害を受けました。新鹿町では、1707年(宝永4年)に発生した「宝永地震」によっても津波が押し寄せて死者24名、家は高台の28軒を残して全て流失するなど、大地震のたびに津波被害が発生しています。こうした津波による惨禍を忘れないようにと、昭和東南海地震から7年後の1951年(昭和26年)に「大地震の時は先づ海に耳目を向けて下さい くれぐれも」などと書かれた『津浪の記』の碑を、更に1992年(平成4年)には、当時は人の腰の高さまで津波が来たことが一目で分かる『東南海地震津波水位標』が建てられました。

三重県の想定では、新鹿町には地震発生から6分で20cmの津波が到達するとされています。そのため新鹿町は、津波避難場所を指定すると共に、津波避難路や津波避難場所への道順や方向を示す看板を設置して、津波被害に備えています。

なお、災害の内容は本記録集58ページでご覧いただけます。



津浪の記(左)と東南海地震津波水位標(右)



宝永地震津波の記



津波避難路や方向を示す看板

36

三河地震から80年

災とSeeing

1945年(昭和20年)1月13日◆愛知県蒲郡市



昭和東南海地震から37日後に発生した活断層に起因する地震、専門家は南海トラフ巨大地震との関連から活断層のリスクを指摘する。

三河地震は、三河湾を震源とするマグニチュード6.8の内陸直下型地震で、愛知県内を中心に2,300人以上が死亡、全壊家屋は7,000棟以上となりました。また、この地震は活断層に起因する逆断層型地震でした。一色町狭間にある宗徳寺では断層が境内の中を走っていたことから、本堂は倒壊を免れましたが、本堂の西側にあった番神堂が地震による隆起で約1.5m持ち上がり、倒壊しました。これは、逆断層型地震では断層の上盤(持ち上がった側の地盤)に大きな被害が出やすいという特徴を表していて、一色町周辺の家屋被害も上盤である西側に被害が集中しています。また、宗徳寺の裏山には、三河地震の際に深溝断層に沿ってできた地割れの様子がそのまま残っていて、蒲郡市の天然記念物に指定されています。

専門家は、南海トラフに起因する昭和東南海地震から37日後に発生した三河地震からも分かるように、南海トラフ巨大地震の前には内陸部でも活断層の動きが活発化して、活断層による地震が誘発される可能性を指摘し、備えを進めておくことの大切さを強調しています。

なお、災害の内容は本記録集58ページでご覧いただけます。



宗徳寺の番神堂(左)と本堂(右)



奥の番神堂は、手前の本堂より石段6段分(約1.5m)高くなっている



宗徳寺の裏山にある、市指定天然記念物の「三河地震による地割れ」

中部地方を襲った昭和の主な豪雨災害

2025年(令和7年)は「昭和100年」にあたることから、中部地方で発生した豪雨災害の中から本誌で紹介できなかった、あるいはその災害の一部しか伝えていない「昭和の主な豪雨災害」を振り返ってみました。

昭和28年 台風13号

1953年 9月25日

9月18日に発生した台風13号は25日18時半頃に愛知県知多半島に上陸、本州を北上して26日6時には三陸沖の海上へ抜けていきました。この台風により、四国から関東地方にかけて最大20～30m/sの風速を観測するとともに、四国・近畿・東海・北陸地方の期間降水量は200mmを超えました。また、愛知県沿岸では大潮の満潮と台風が重なり、高潮による被害が発生しました。このため、*1台風13号の被害は全国で死者393名、行方不明者85名、負傷者2,559名、住家全壊8,604棟、半壊17,467棟、床上浸水144,300棟、床下浸水351,575棟、*2愛知県で死者72名、行方不明者3名、負傷者1,711名、家屋全壊1,477戸、床上浸水31,801戸という、甚大なものとなっています。これを契機に海岸堤防は三面張り構造となり、海岸法も制定されました。そのため、6年後の伊勢湾台風の際には旧一色地区の海岸堤防は耐えることができ、被災を免れました。

*1 台風13号の被害：消防白書より *2 愛知県 愛知県ホームページ 過去の災害情報より



愛知県宝飯郡小坂井町伊那地区(現 豊川市)



愛知県宝飯郡三谷町(現 蒲郡市)

出典：愛知県公文書館所蔵

(左) 台風十三号による被災現地写真帖
(W10-32)

(右) 13号台風災害記録
[モノクロ写真] (A27588)

※写真を利用したい場合は愛知県公文書館の許可を得てください

昭和33年 狩野川台風

1958年 9月26日

本記録集9ページを参照

伊勢湾台風を含む3年連続の豪雨災害

昭和34年 台風7号

1959年 8月13日

岐阜県では、昭和34年(1959)から36年(1961)の3年間にわたって毎年のように豪雨災害に見舞われました。その最初となったのが台風7号で、昭和34年8月12日～14日かけて揖斐川流域の西南濃には400mm～700mmに達する記録的な降雨によって牧田川の堤防が決壊、多芸輪中地区の約2,900ヘクタールの土地が家屋約1,700戸とともに完全に冠水しました。この1か月後の9月26日、伊勢湾台風が岐阜県に襲来し、再度牧田川の堤防が決壊しています。



昭和34年台風7号 牧田川の堤防決壊地点(岐阜県養老郡養老町)
出典：昭和34・35・36年 連年災害復興誌 岐阜県発行



昭和34年台風7号 牧田川の堤防決壊により軒下まで浸水した根古地地区(岐阜県養老郡養老町)

出典：昭和34・35・36年 連年災害復興誌 岐阜県発行



昭和34年台風7号
校舎の大半が水没した池辺小学校
(岐阜県養老郡養老町)
提供：養老町教育委員会

昭和34年 伊勢湾台風

1959年 9月26日

本記録集11ページを参照

昭和34年伊勢湾台風と昭和35年台風11号・12号、昭和36年梅雨前線豪雨の3つを併せて、**昭和三大洪水**と呼ばれています。

昭和35年 台風11号・12号

1960年 8月13日

昭和35年8月11日、12日と相次いで室戸岬に上陸した台風11号・12号によって、長良川上流及び中流地には13日の早朝から午前中にかけて時間雨量20～50mmとなる猛烈な雨が降りました。このため、長良川水系の河川は急激に増水し、伊勢湾台風を上回る出水となりました。岐阜市芥見及び関市保戸島、山県郡三輪では伊勢湾台風から2年連続となる破堤、さらには岐阜市日野でも堤防が決壊するなど、岐阜市芥見と関市保戸島を中心とする一帯は濁水の海と化しました。



決壊した堤防(岐阜市芥見)

出典：昭和34・35・36年 連年災害復興誌 岐阜県発行

昭和36年 梅雨前線豪雨(三六災害)

1961年 6月27日

昭和36年6月25日、北上した梅雨前線が活発化したことにより愛知県や岐阜県に600mm～800mmの豪雨をもたらしました。長良川では岐阜市芥見で9.45mの水位を記録するなど、前年の台風11号・12号を上回る大出水となりました。このため、木曽川流域の愛知県尾西市(現在は一宮市)では全世帯の約8割が浸水しました。また、岐阜市芥見及び関市保戸島では長良川が昭和34年・35年に続いて3度目となる破堤、さらに下流の長良橋付近でも左右岸が浸水し、長良川流域の岐阜県岐阜市では約2万戸以上が浸水する被害をもたらしています。なお、この梅雨前線豪雨では長野県伊那谷を中心に多数の土砂崩れが発生、100名を超える死者が出たことから、「**三六災害**」(本記録集13ページ)として広く知られています。



岐阜市内の浸水状況

出典：災害アーカイブぎふ(岐阜県防災課所蔵)

昭和41年 台風24号、26号

1966年 9月25日

昭和41年9月25日、台風24号が高知県安芸市付近に上陸しましたが、この同日には台風26号も静岡県御前崎の西方に上陸しています。西日本では台風24号と秋雨前線の影響で大雨となり、宮崎県では期間降水量が300mmを超えた所もありました。また、台風26号では静岡県北部から山梨県にかけての山間部及び栃木県北部の山間部が大雨となり、期間降水量200～400mmを記録しています。この*2つの台風による被害は全国で死者238人、行方不明者79人、負傷者824人、住家全壊2,422棟、半壊8,431棟、床上浸水8,834棟、床下浸水42,297棟などで、甚大な災害となりました。

台風26号では、静岡県静岡市葵区梅ヶ島地区で土石流が発生、梅ヶ島温泉の旅館や土産物店など11軒の家屋が土石流に飲み込まれて宿泊客ら26人が亡くなっています。そのため、この地域では「梅ヶ島災害」と呼び、永く人々の記憶に刻まれています。

土石流に飲み込まれた梅ヶ島温泉の土産物店と梅ヶ島温泉(静岡市)

*台風24号、26号による被害：消防白書より



出典：国土交通省 中部地方整備局

静岡河川事務所ホームページ 土砂災害の歴史

<https://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/sabou/history/>

昭和43年 寒冷前線による大雨

1968年 8月17日

昭和43年8月16日に対馬海峡を通過した台風7号は、日本海を進んで17日には温帯低気圧に変わりましたが、この低気圧から伸びる寒冷前線が通過する際に、各地で大雨となりました。岐阜県では1時間に100mmを超える大雨が降り、浸水やがけ崩れが発生しました。岐阜県白川町の国道41号では、大雨で停車していた観光バス2台ががけ崩れの土砂に流されて飛騨川に転落、乗員乗客104人が亡くなる「飛騨川バス転落事故」が起きました。この事故を契機として、雨量に基づく事前通行規制制度が導入されました。

がけ崩れにより観光バス2台が飛騨川に転落(岐阜県加茂郡白川町)



出典：災害アーカイブぎふ(岐阜県防災課所蔵)

昭和47年 7月豪雨

1972年 7月9日～13日

本記録集15ページを参照

昭和49年 七夕豪雨

1974年 7月7日

本記録集17ページを参照

昭和51年 9.12豪雨

1976年 9月12日

本記録集19ページを参照

昭和58年 9.28豪雨

1983年 9月28日

本記録集21ページを参照

世界と日本の風水害等

1993→2012

日本に被害をもたらした台風・豪雨災害



2004年(平成16年)台風23号

8月25日～ ハリケーン「カトリーナ」アメリカ・ルイジアナ州で大きな被害(死者1,800人以上)

12月～1月 平成18年豪雪

11月7日 北海道佐呂間町で竜巻被害(死者9人)【F3】

5月 サイクロン「ナルギス」ミャンマーで大きな被害(死者・不明者約13万人)

1月 オーストラリアで大洪水(死者35人)

5月6日 茨城県常総市で竜巻(死者1人)【F3】

10月 ハリケーン「サンディ」米国に大被害(死者130人)

1993年
(平成5年)

7月31日～ 平成5年8月豪雨 鹿児島県に大きな被害(死者71人)

1999年
(平成11年)

9月24日 豊橋市付近で竜巻被害【F3】

2000年(平成12年)
東海豪雨



2000年
(平成12年)

9月11日～ 東海豪雨 名古屋市とその周辺で内水被害(死者10人)

2004年
(平成16年)

7月12日～ 平成16年7月新潟・福島豪雨(死者16人)

7月17日～ 平成16年7月福井豪雨(死者4人)

9月28日～ 秋雨前線・台風21号 三重県で記録的な大雨(死者・不明者27人)

10月20日～ 台風23号 全国的に大きな被害(死者・不明者98人)

2005年
(平成17年)

2006年
(平成18年)

7月15日～ 平成18年7月豪雨
九州地方から北陸地方にかけて大雨(死者32人)

2007年
(平成19年)

2008年
(平成20年)

8月26日～ 平成20年8月末豪雨
中国地方から東北地方にかけて大雨(死者2人)

2009年
(平成21年)

7月19日～ 平成21年7月中国・九州北部豪雨(死者35人)

8月8日～ 熱帯低気圧・台風9号による大雨
兵庫県などで大きな被害(死者25人・不明者2人)

10月7日～ 台風18号 伊勢湾台風を上回る潮位(死者5人)

2010年
(平成22年)

7月10日～ 梅雨前線による大雨 岐阜県、長野県を中心に浸水や土砂災害発生(死者・不明者6人)

2011年
(平成23年)

7月27日～ 平成23年7月新潟・福島豪雨(死者4人)

9月3日～ 台風12号 紀伊半島で記録的な大雨による土砂災害(死者・不明者98人)

9月20日～ 台風15号 西日本から北日本にかけて記録的な大雨と暴風(死者・不明者19人)

2012年
(平成24年)

7月11日～ 平成24年7月九州北部豪雨

集中豪雨の多発など、自然災害に対する備えの重要性は益々高まっています。

世界と日本の風水害等

2013→2024

日本に被害をもたらした台風・豪雨災害

11月8日 台風「ハイエン」フィリピンで大きな被害
(死者・不明者9,000人弱)



2014年(平成26年)8月豪雨

出典:国土地理院



2015年(平成27年)関東・東北豪雨

6月 欧州中部で大洪水(死者12人)

8月 米国に大型ハリケーン「ハービー」と「イルマ」が上陸
(死者200人以上)

9月16日 ハリケーン「マリア」ドミニカ・プエルトリコに大きな被害
(死者1,000人以上)

1~2月 日本海を中心に記録的な大雪(死者27人、負傷者1,296人)

8月 猛暑 歴史的最高気温を更新(熊谷41.1℃)
熱中症で1週間に搬送22,000人以上

1年を通じて、アジアやヨーロッパ、アフリカなど高温・多雨で大きな被害

3・4月 東アフリカ南部にサイクロン上陸(死者1,000人以上)

7~10月 南アジア及びその周辺で大雨による洪水(死者2,300人以上)

4~5月 東アフリカ中部及びその周辺で大雨(死者500人以上)

6~8月 中国長江中・下流域で大雨(死者・不明者270人以上)

6~7月 北米中部~西部の熱波(死者780人以上)

12月 米国中部の竜巻(死者90人以上)

4月 南アフリカ南東部で大雨(死者540人以上)

5~9月 パキスタン及びその周辺で大雨(死者4,510人以上)

2~3月 サイクロン「フレディ」マダガスカル~マラウイで
大きな被害(死者860人以上)

9月 リビアで大雨による洪水(死者12,530人以上)

7・9~10月 中国南部から東南アジアで台風や大雨による被害
7月:台風3号、9月:台風11号、10月:台風20号や大雨
(死者1,240人以上)

9月 米国南東部にハリケーン「ヘレーン」が上陸(死者220人以上)

9~10月 ヨーロッパ南部及びその周辺で大雨(死者230人以上)

2013年
(平成25年)

9月15日~ 台風18号 近畿地方から中部地方で大雨(死者・不明者7人)

10月15日~ 台風26号 伊豆大島で土砂災害(死者・不明者43人)

2014年
(平成26年)

7月30日~ 平成26年8月豪雨 記録的な大雨による大規模な土石流、
丹波市や広島市で甚大な被害(死者85人)

2015年
(平成27年)

9月9日~ 平成27年9月関東・東北豪雨
堤防が決壊するなど栃木県と茨城県に大きな被害(死者20人)

2016年
(平成28年)

8月16日~
4個の台風が上陸、
道東を中心に大雨による被害

2017年(平成29年)
九州北部豪雨

7月5-6日 平成29年7月九州北部豪雨
福岡県、大分県で甚大な被害(死者・不明者44人)

2017年
(平成29年)

2018年
(平成30年)

6月28日~ 平成30年7月豪雨 西日本を中心に全国的に広い範囲で
記録的な大雨(死者263人)

9月3日~ 台風21号による暴風・高潮被害(大阪市3.29m、神戸市2.33m)、
関西空港浸水被害

2019年
(令和元年)

9月7日~ 令和元年房総半島台風
(台風15号)

10月10日~ 令和元年東日本台風(台風19号)
東日本を中心に記録的な大雨
(死者・不明者121人)



2019年(令和元年)東日本台風

2020年
(令和2年)

7月3~31日 令和2年7月豪雨 熊本県を中心に九州地方や中部地方など
日本各地で集中豪雨発生

8月31日~9月9日 台風10号 九州地方を中心に浸水や土砂災害が発生
(死者・不明者6人)

2021年
(令和3年)

7月1日~12日 令和3年7月1日からの大雨
西日本から東北地方の広い範囲で大雨(死者・不明者28人)

8月11日~19日 令和3年8月11日からの大雨
西日本から東日本の広い範囲で大雨(死者13人)

2022年
(令和4年)

8月1~6日 令和4年8月3日からの大雨
東北・北陸地方を中心に住家被害が発生(死者2人)

9月17~20日 台風14号 九州地方を中心に大雨(死者5人)

9月22~24日 台風15号 静岡県を中心に土砂災害が発生(死者3人)

2023年
(令和5年)

6月1~3日 梅雨前線及び台風第2号による大雨
西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨(死者6人)

6月28日~7月16日 梅雨前線による大雨 中国・九州地方を中心に
全国各地で大雨(死者14人)

9月7~9日 台風13号 関東甲信地方や東北太平洋側で大雨(死者3人)

2024年
(令和6年)

7月23日~26日 令和6年7月25日からの大雨 北日本を中心に大雨(死者5人)

8月27日~9月1日 台風10号 西日本から東日本の太平洋側を中心に
記録的な大雨(死者6人)

9月20~22日 令和6年9月20日からの大雨
北陸地方や東北地方の日本海側で記録的な大雨(死者16人)

出典:国土交通省HP

平成以降に起きた大規模災害

世界と日本の地震・火山災害等

1991→2011

日本の地震災害

6月3日 雲仙普賢岳噴火
火砕流で犠牲者多数(死者40人、不明者3人)



1991年(平成3年)雲仙普賢岳噴火
提供: 島原市

1991年
(平成3年)

1993年
(平成5年)

7月12日
北海道南西沖地震M7.8
(奥尻島を中心に死者202人、不明者28人)



1993年(平成5年)北海道南西沖地震

1995年
(平成7年)

1月17日 阪神・淡路大震災M7.3 最大震度7
戦後最大規模の被害(死者6,434人)



1995年(平成7年)阪神・淡路大震災

6月3日 台湾大地震M7.6(死者2,400人以上)

1999年
(平成11年)

6月26日～
三宅島噴火
4年5か月の間、全島民が島外に避難



2000年(平成12年)
三宅島噴火

2000年
(平成12年)

1月26日
インド西部地震M7.7(死者約2万人)

2001年
(平成13年)

12月26日 スマトラ沖地震・津波M9.1
(死者約22万人)

2004年
(平成16年)

10月23日 新潟県中越地震M6.8
最大震度7(死者68人)



2004年(平成16年)
新潟県中越地震

2005年
(平成17年)

10月20日 福岡県西方沖地震M7.0 最大震度6弱(死者1人)

2007年
(平成19年)

3月25日 能登半島地震M6.9 最大震度6強(死者1人)
7月16日 新潟県中越沖地震M6.8
最大震度6強(死者15人)

2008年
(平成20年)

6月14日
岩手・宮城内陸地震M7.2
最大震度6強(死者17人、不明者6人)



2007年(平成19年)
新潟県中越沖地震

4月6日 イタリア ラクイラ地震M6.3(死者300人以上)

2009年
(平成21年)

1月12日 ハイチ地震M7.0(死者316,000人ほど)
2月28日 チリ地震M8.8(死者800人以上)、
日本でも津波被害(東北で最大2mの津波)

2010年
(平成22年)

2008年(平成20年)
岩手・宮城内陸地震



2011年(平成23年)東日本大震災

2月22日 ニューゼaland カンタベリー地震M6.1(死者185人)
6月4日 チリ プジェウェ火山噴火(4,000人以上が避難)
10月23日 トルコ東部で地震M7.1(死者600人以上)

2011年
(平成23年)

3月11日 東日本大震災M9.0 最大震度7
大津波による甚大な被害(死者・不明者22,000人以上)

4月6日 インドネシア スマトラ島沖で地震M8.6(死者5人)

2012年
(平成24年)



2014年(平成26年)御嶽山噴火

9月27日
御嶽山噴火
(突然の噴火で死者58人、不明者5人)

2014年
(平成26年)

4月25日 ネパール地震M7.8
(死者8,500人以上)

2015年
(平成27年)

5月29日～ 口永良部島噴火



2016年(平成28年)熊本地震

2016年
(平成28年)

4月14日 熊本地震M6.5 最大震度7

4月16日 熊本地震M7.3 最大震度7 最大震度が2回(死者273人)

9月 メキシコで3つの大きな地震M8.1、M7.1、M6.2
(死者400人以上)

2017年
(平成29年)

9月28日 インドネシア スラウェシ島地震M7.5
地震と地すべりによる津波被害(死者・不明者3,000人以上)

2018年
(平成30年)

6月18日 大阪北部地震M6.1 最大震度6弱
ブロック塀等の崩壊(死者6人)

9月6日 北海道胆振東部地震M6.7 最大震度7
大規模なげけ崩れと液状化(死者43人)



2018年(平成30年)
北海道胆振東部地震

2019年
(令和元年)

6月18日
山形県沖を震源とする地震M6.7
最大震度6強(負傷者43人)



2019年(令和元年)山形県沖を
震源とする地震

6月24日 中米メキシコオアハカ州沿岸地震M7.7
(死者10人、負傷者23人)

2020年
(令和2年)

10月30日 トルコ・ギリシャ沖地震M7.0(死者27人以上、負傷者812人)

8月14日 ハイチ地震M7.2(死者2,200人以上、負傷者12,000人以上)

8月13～15日 福徳岡ノ場火山噴火 多量の軽石を噴出・漂流

10月7日 パキスタン南西部地震M5.9
(死者20人以上、負傷者300人以上)

2021年
(令和3年)

2月13日 福島県沖を震源とする地震M7.3 最大震度6強
屋根や設備機器、ブロック塀などに被害

6月22日 アフガニスタン南東部を震源とする地震M5.9
(死者1,000人以上、負傷者およそ3,000人)

2022年
(令和4年)

7月24日 桜島の火山活動により噴火警戒レベル5(避難)が発表
(7月27日、噴火警戒レベル3(入山規制)に引下げ)

3月16日 福島県沖を震源とする地震M7.4
最大震度6強(死者4人・負傷者248人)

2月6日 トルコ南東部を震源とする地震M7.8
(死者51,089人、負傷者118,700人)

2023年
(令和5年)

5月5日 石川県能登地方を震源とする地震M6.5 最大震度6強、
M5.9 最大震度5強(死者1人・負傷者52人)

4月3日 台湾の東部沖沿岸を震源とする地震M7.4
(死者18人、負傷者1,163人)

2024年
(令和6年)

1月1日 能登半島地震M7.6 最大震度7(死者549人・負傷者1,393人)

4月17日 豊後水道を震源とする地震M6.6 最大震度6弱(負傷者16人)

8月8日 宮崎県日向灘を震源とする地震M7.1 最大震度6弱(負傷者16人)
南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が運用開始以来初めて発表

たいせつな命を守るために

流域治水プロジェクト

◆令和元年東日本台風をはじめ、平成30年7月豪雨や平成29年九州北部豪雨等、近年激甚な水害が頻発しており、さらに、今後、気候変動による降雨量の増大や水害の激甚化・頻発化が予測されています。

◆このような水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、流域に関わる関係者が、主体的に治水に取り組む社会を構築する必要があります。

◆河川・下水道管理者等による治水に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換するため、各一級水系において「流域治水協議会」を設置し、流域全体で早急に実施すべき対策の全体像を「流域治水プロジェクト」として示し、ハード・ソフト一体の事前防災対策が加速して進められています。



『流域治水』とは、堤防整備、ダム建設・再生などの対策をより一層加速させるとともに、さらに集水域（雨水が河川に流入するエリア）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定されるエリア）にわたる流域に関わる全員で水災害対策を行う考え方です。

全員で
水害対策

対策の3つの柱

- ① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- ② 被害対象を減少させるための対策
- ③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

出典：国土交通省 中部地方整備局ホームページ

流域治水プロジェクト2.0

◆気候変動の影響により、2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍に増加すると見込まれることを踏まえ、流域治水の取組を更に加速化・深化させるため、全国109の一級水系で、気候変動を踏まえた河川及び流域での対策の方針を反映した流域治水プロジェクト2.0に更新しています。

《流域治水プロジェクト2.0のポイント》

- ① 気候変動による降雨量増加に伴う水害リスク（浸水世帯数等）の増大を明示する。
- ② ①に対応するため、本川の整備に加えて、まちづくりや内水対策などの流域対策を充実し達成目標を設定する（目標の重層化）。
- ③ ②の目標を達成するために必要な追加対策等を明示する。

出典：国土交通省 水管理・国土保全局

流域治水への取り組み

大雨から大切な命を守る！誰一人取り残さない、逃げ遅れゼロに向けた防災啓発

防災講座

将来を担う若い世代に「浸水体感VR（仮想現実）」や「伊勢湾台風AI対話システム（AI語り部）」などを活用して、過去の災害や新たな災害に対する備えを学ぶことにより、「守られる人」から「守る人」への防災教育を視野に入れた防災講座を実施しています。令和6年度は、防災授業の支援として教職員向けの防災講座や、これから地域の守り手となる土木・建築系の高校生に伝え手育成の授業を実施し、実際に小学校へ出向き生徒が先生となり防災講座を実施するなど、新たな取り組みも開始しました。

弥富市立桜小学校



岐阜市立三里小学校
(講師:岐阜県立岐阜総合学園高等学校 生徒)



中津川市立加子母中学校



愛知県立豊橋工科高等学校



豊田市立広川台小学校



飛島村立飛島学園



下呂市立萩原北中学校



岐阜県立岐阜工業高等学校



中部学院大学短期大学部



岐阜県立岐阜聾学校



愛知県立港特別支援学校



岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校



児童・生徒 学生の感想

- ◇AI学習を通して、伊勢湾台風のことを詳しく知ることができたので、過去の教訓を活かして、日頃から防災や減災について考えて対策する必要があると思いました。
- ◇水害がこんなに身近で恐ろしいものだとは思っていなかったのが、1分1秒でも早く避難したいと強く思いました。
- ◇災害はいつ起こるかわからないし、「まあいいや」「他の県だから」と思わず、自分のこととして捉えることが大切だと分かりました。
- ◇これからは、「守られる人から守る人」になれるように、率先して家族や近所の人に呼びかけたり、お年寄りや身体の不自由な人を連れて素早く避難できるようにしたいです。
- ◇情報を待つのではなく、いち早く行動ができるように自分から最新の情報を収集して、自分や家族の命を守りたいです。
- ◇この講座をきっかけに台風が怖くなったので、家に帰ったらハザードマップを確認したり家族と話し合いたいです。
- ◇講座を聞いて、非常食や備蓄品の準備をして、「自分の命は自分で守る」という言葉を大切にしていきたいと思いました。

防災講座のお申込みは、随時受け付けております。



流域治水への取り組み

大雨から大切な命を守る！誰一人取り残さない、逃げ遅れゼロに向けた防災啓発

一般の方々へ向けた防災啓発として、VR体験会や防災イベント、市民向けの防災講座などを、国や自治体・大学等の様々な機関と連携して行っています。

令和6年度
三重・四国連合総合水防演習



伊勢湾台風65年
市民防災の集い



岐阜治水会30周年記念
事業ブースイベント



津島市地区防災訓練



かわらんべ夏休み
スペシャルDay2024



おおがき防災フェス2024



みんないっしょに
ふくしの日2024



名古屋市高齢者就業支援センター
令和6年度講演会



防火・防災フェア in イオン
モール桑名2024



第48回 春日井まつり



瑞穂区民まつり2024



輪中講演会



地震災害への取り組み

令和6年能登半島地震や南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)の発表を受け、地震災害への防災啓発も行っています。

安八町立牧小学校



愛知県立津島北高等学校



岐阜市体験型
防災アトラクション



NISHIMINO防災フェスタ



まとめ

防災講座は令和元年度以降延べ182校で実施し、受講した児童・生徒・学生は約12,100人、VR体験者は防災講座やイベント等で延べ約9,600人となっています。(令和7年3月末時点) 上記の様々な取り組みによって防災意識が高まり、今後のインフルエンサー(災害時避難行動リーダー)育成にもつながることが確認できました。また、これらの取り組みが評価され、「第27回防災まちづくり大賞(主催:総務省消防庁)」で消防庁長官賞や「第19回マニフェスト大賞(主催:マニフェスト大賞実行委員会)」で特別審査委員賞(秋吉久美子選)を受賞しました。

現在、地域や様々な機関との繋がりを通して、啓発活動は大きく広がっています。また、福祉関係や水防団体との取り組みも行っており、引き続き「災害から誰一人取り残さない」地域社会の実現を目指して、活動を推進していきます。

地域づくり技術研究所の取り組み

ホームページやスマホアプリで見るデジタル展示館

デジタル展示館は、デジタルトランスフォーメーション（DX）推進の一環として、バーチャル空間でパネル展示などを行うため開設しました。

デジタル展示館では、昭和の街並みの中で昭和30年代を中心に中部地方で発生した災害がご覧いただけます。また、より身近に災害を感じて頂ける様当時の白黒写真をカラー加工して掲示しています。当協会のホームページや、スマホアプリでご覧ください。



VR・映像の視聴で浸水を疑似体験

VRで浸水体感!

もし、大規模な水害が迫ってきたら…命を守るためにどのような行動をしますか？
避難行動の大切さを是非体感してください。



浸水疑似体験映像の2ヶ国語版を制作

日本で暮らす海外の人にも安全を!

ダイバーシティ（多様性）を意識した取り組みとして、浸水疑似体験映像の英語版、ポルトガル語版を制作（翻訳協力：大垣市）し、YouTubeで公開しています。浸水疑似体験映像は、自宅での学習や多文化交流イベントなどで自由に活用して頂けます。



英語版



ポルトガル語版

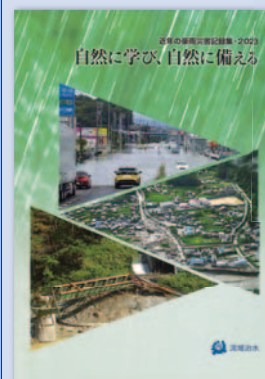
ピクトグラムで避難行動をチェック

早期の避難行動をうながす取り組みとして、水害への事前の備えを分かり易く絵にしたピクトグラム「ソナエルピクト」を制作し、ホームページで公開しています。ソナエルピクトは、避難行動のチェックリストとして活用いただくとともに、図柄は防災訓練や防災講座などでも自由に活用いただけます。



防災啓発冊子「自然に学び、自然に備える」の制作

防災啓発冊子「近年の豪雨災害記録集・自然に学び、自然に備える」は、教訓として過去の災害を知ることを中心に、中部地方で近年発生した風水害を中心に取りまとめ、毎年発行しています。また、視覚障がいのある方への防災啓発として、点字版・デジタル録音図書を制作し、中部管内の盲学校・点字図書館等に寄贈しました。



点字版



デジタル録音図書
(音声デジター版)



「あつ森」で避難を学ぶ



子どもや若い世代に水害時の早期避難について関心を持って頂くため、「あつまれどうぶつの森」*（あつ森）を活用した避難学習動画を作成し、YouTubeで公開しています。



*「あつまれ どうぶつの森」は、任天堂より発売されているゲームソフト

AI語り部で、伊勢湾台風を次世代に

対話型人工知能（AI）の【チャットGPT】を活用して、語り部と会話しているかのように伊勢湾台風について分かり易く学習できるプログラムです。伊勢湾台風の記憶を風化させず、次世代を担う子供たちに伝えることで、地域の防災力向上にも貢献します。



お問い合わせ
一般社団法人 中部地域づくり協会 地域づくり技術研究所
TEL 052-871-9380 FAX 052-871-9382 E-mail kenkyuiyo@ckk.or.jp

公式ウェブサイト



インスタグラム



フェイスブック



参考文献一覧

【東海(恵南)豪雨】

- ・安全で安心に暮らせる 庄内川・新川流域を目指して
国土交通省 中部地方整備局 庄内川河川事務所
- ・中部の水害 東海豪雨
平成12年9月発行 建設省 中部地方建設局
- ・内閣府 ホームページ(防災情報)
- ・名古屋市 ホームページ(暮らしの情報)
- ・東海豪雨 矢作川流域・記憶と記録
平成14年6月発行 豊田市矢作川研究所
- ・東海豪雨 中部地建管内の被災状況
平成12年12月発行 建設省 中部地方建設局 企画部
- ・忘れない、東海豪雨 東海豪雨から10年
平成22年7月発行 社団法人 中部建設協会
- ・気象庁名古屋地方気象台HP(気象災害の記録)
気象庁名古屋地方気象台
- ・自然災害伝承碑(東海豪雨水害之碑)
国土地理院
- ・約7万棟浸水し10人が犠牲に…東海豪雨から23年 大きな被害を受けた名古屋市西区で犠牲者を追悼する集会(2023年9月11日11:33配信)
東海テレビ ニュースONE
- ・線状降水帯による大雨について
気象庁
- ・近年の水災害の発生状況 名古屋市の水害リスク 等(令和4年7月25日)
国土交通省 中部地方整備局 庄内川河川事務所
- ・令和5年の実績 ～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～(令和6年12月16日)
気象庁
- ・令和6年の実績 ～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～(令和7年1月10日)
気象庁
- ・『平成27年9月関東・東北豪雨』に係る洪水被害及び復旧状況等について(平成29年4月1日)
国土交通省 関東地方整備局
- ・平成30年7月豪雨による中国地方整備局管内の出水概況(平成30年8月10日(金))
国土交通省 中国地方整備局 河川部
- ・令和2年7月豪雨の概要と対応(第2報)(令和2年7月10日)
国土交通省 九州地方整備局
- ・東海豪雨20年 当局の取組をご紹介します
名古屋市上下水道局
- ・なごやハザードマップ防災ガイドブック 天白区 区防災情報「天白区はどんなまち?」
名古屋市天白区

【狩野川台風】

- ・狩野川台風の記録と50年目の検証
平成20年10月発行 国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所
- ・狩野川放水路工事誌
昭和42年3月発行 建設省 中部地方建設局 沼津工事事務所
- ・写真集 中部の水害
昭和56年11月発行 社団法人 中部建設協会

【伊勢湾台風】

- ・伊勢湾台風 復旧工事誌 上・下巻
昭和38年4月発行 建設省 中部地方整備局
- ・災害に関する画像情報集(ホームページ)
国土交通省 中部地方整備局 木曽川下流河川事務所
- ・内閣府ホームページ 報告書(1959伊勢湾台風)
内閣府
- ・気象庁ホームページ 各種データ・資料(台風、高潮等)
気象庁
- ・危機管理行動計画(第三版)(概要版)
国土交通省 中部地方整備局
- ・伊勢湾台風50年誌・別冊
一般社団法人 中部地域づくり協会

【三六災害】

- ・災害復旧の記録 - 昭和36年6月梅雨前線豪雨
昭和40年3月発行 長野県土木部
- ・S36・6災害 大西山放火変貌写真集
昭和59年12月発行 建設 中部地方建設局 天竜川上流工事事務所
- ・語り継ぐ災害の記録 伊那谷災害記念特集号
昭和56年6月発行 昭和36年災害20周年記念行事実行委員会出版部会
- ・写真集 中部の水害
昭和56年11月発行 社団法人 中部建設協会
- ・天竜川上流部川路・龍江・竜丘地区 治水対策事業完成記念
平成14年9月発行 国土交通省・長野県・飯田市・中部電力株式会社
- ・わが国の災害誌 1965
昭和40年7月発行 社団法人 全国防災協会
- ・天竜川上流河川事務所 ホームページ 三六災害アーカイブス

【昭和47年7月豪雨】

- ・愛知県ホームページ(昭和47年7月災害)
- ・気象庁ホームページ(昭和47(1972)年7月9日～13日 昭和47年7月豪雨)
- ・岐阜県ホームページ(昭和47年7月豪雨(昭和47年))
- ・昭和47年7月豪雨復興誌
愛知県

【七夕豪雨・水害】

- ・勢田川 七夕災害 30周年
国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所
- ・五十年のあゆみ
昭和57年3月発行 建設省 中部地方建設局 三重工事事務所
- ・写真集 中部の水害
昭和56年11月発行 社団法人 中部建設協会
- ・わが国の災害誌 第三編
昭和60年5月発行 社団法人 全国防災協会

【9.12豪雨災害(安八豪雨)】

- ・写真集 木曽三川の水害
昭和57年3月発行 建設省 中部地方建設局 木曽川上流工事事務所
- ・昭和51年 9.12豪雨災害誌
昭和52年3月発行 岐阜県
- ・9.12豪雨災害30年誌
平成18年9月発行 岐阜県
- ・写真集 中部の水害
昭和56年11月発行 社団法人 中部建設協会
- ・木曽川上流河川事務所 ホームページ
- ・わが国の災害誌 第三編
昭和40年7月発行 社団法人 全国防災協会
- ・続・木曽三川の治水史を語る
平成16年3月 国土交通省 中部地方整備局 木曽川上流河川事務所
- ・岐阜県ホームページ(9.12豪雨災害(1976年昭和51年))
- ・1976ー 9.12豪雨災害誌
昭和61年9月1日発行 安八町
- ・愛知県ホームページ(昭和51年9月の水害の記録等)
- ・災害の記録 昭和51・9集中豪雨 目比川決壊
昭和52年10月発行 愛知県海部郡佐織町

【9.28豪雨災害】

- ・美濃加茂・坂祝地区激特事業誌
平成2年3日発行 建設省 中部地方建設局 木曽川上流工事事務所
- ・新丸山ダム工事事務所 ホームページ
- ・わが国の災害誌 第三編
昭和40年7月発行 社団法人 全国防災協会
- ・忘れ得ぬ9.28災害 災害誌
昭和62年9月発行 美濃加茂市
- ・昭和58年 9.28豪雨災害状況調査資料
昭和59年12月発行 建設省 中部地方建設局 木曽川上流工事事務所
- ・丸山ダム 新丸山ダム
平成8年7月発行 建設省 中部地方建設局 丸山ダム管理所・新丸山ダム工事事務所

【秋雨前線・台風21号】

- ・秋雨前線・台風21号による中部地方の被災状況
平成16年10月発行 国土交通省 中部地方整備局
- ・情報誌 ミエール 災害特別号
平成16年12月発行 国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所
- ・二級河川船津川 激甚災害対策特別緊急事業
三重県県土整備部河川室 河川整備グループ

【平成16年台風23号】

- ・台風23号による中部地方の被災状況
国土交通省 中部地方整備局 木曽川上流河川事務所
- ・岐阜県防災局 ホームページ
- ・台風第23号(2004年平成16年)
岐阜県
- ・平成16年度 鉄道局関係補正予算概要(平成16年12月)
国土交通省 鉄道局
- ・広報ひだ 号外 台風23号飛騨市を襲う!
飛騨市
- ・郡上市地域防災計画(令和5年4月1日現在)
郡上市
- ・大雨による通行止めについて(第5報)(平成16年10月20日17:55)
国土交通省 中部地方整備局 災害対策本部
- ・過去の主な水害
国土交通省

【平成18年7月豪雨】

- ・諏訪湖・天竜川河川激甚災害対策特別緊急事業
天竜川河川災害復旧助成事業
平成18年8月発刊
国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所
- ・天竜川水系(長野県内)の出水状況
国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所
- ・天竜川上流の出水
平成20年9月発刊 気象庁

【平成20年8月末豪雨】

- ・平成20年8月末豪雨による出水状況
国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所
- ・災害時気象速報 平成20年8月末豪雨
平成20年9月発刊 気象庁
- ・愛知県の出水状況
平成20年9月発刊 愛知県建設部河川課

【西濃豪雨】

- ・西濃豪雨による揖斐川流域の出水状況(第一報)
平成20年9月発刊 国土交通省 中部地方整備局 木曽川上流事務所

【台風18号】

- ・速報版「台風18号による雲出川等の出水状況」
平成21年10月19日発刊 国土交通省 中部地方整備局 河川部
- ・平成21年台風第18号による三河湾における高潮(10月8日)報告
平成21年10月16日発刊 名古屋地方気象台 神戸海洋気象台
- ・伊勢湾台風 復旧工事誌 上巻
昭和38年4月発刊 建設省 中部地方建設局
- ・平成21年台風第18号による被害状況等について(第10報)
平成22年3月15日発刊 消防庁

【平成22年7.15梅雨前線豪雨】

- ・平成22年7月2日から梅雨前線による大雨の被害状況等について(第9報)
国土交通省
- ・大雨と雷及び突風に関する東海地方気象情報第10号
名古屋地方気象台
- ・平成22年度梅雨期(6月11日以降)における大雨による被害状況等について
消防庁
- ・平成22年7月13日～15日の大雨に関する気象速報
岐阜地方気象台
- ・自然災害伝承碑(自然と人の共生モニュメント『丘』)
国土地理院

【平成22年台風9号】

- ・台風9号における黄瀬川の状況
国土交通省
- ・台風第9号に伴う被害状況等について(第12報)
静岡県
- ・平成22年台風第9号に関する静岡県気象速報
静岡地方気象台

【台風12号】

- ・国土交通省中部地方整備局・三重県 資料提供

【台風15号】

- ・国土交通省中部地方整備局 資料提供

【台風8号・梅雨前線】

- ・台風第8号および梅雨前線による大雨と暴風(平成26年7月15日)
気象庁
- ・長野県南木曽町梨子沢土石流(平成26年10月16日更新)
国土交通省 中部地方整備局
- ・平成26年台風第8号に伴う大雨災害による県内への影響について
(平成26年8月6日13:00現在)
長野県危機管理部

【台風18号】

- ・台風第18号による大雨と暴風(平成26年10月8日付)
気象庁
- ・平成26年 台風第18号に関する静岡県気象速報
静岡地方気象台
- ・平成26年10月5日～6日台風第18号における菊川流域の出水状況(第3報)
国土交通省 中部地方整備局 浜松河川国道事務所
- ・平成26年10月5日～6日台風第18号による狩野川の出水状況(第2報)
国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所
- ・台風第18号に伴う大雨による被害状況等について(第16報)
消防庁

【台風16号】

- ・台風第16号による被害状況等について【第6報】(平成28年11月16日10:00現在)
国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所
- ・平成28年9月20日台風第16号による鈴鹿川・櫛田川流域の出水状況
(最終報 平成28年10月26日)
国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所

【台風21号】

- ・平成29年台風第21号に関する三重県気象速報(平成29年10月24日)
津地方気象台
- ・平成29年10月22日～23日台風第21号における三重四川の出水状況
第3報(平成29年11月15日)
国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所

【平成30年7月豪雨】

- ・平成30年7月3日から7月8日の大雨に関する岐阜県気象速報
岐阜地方気象台
- ・平成30年7月豪雨による中部地方の出水状況
国土交通省 中部地方整備局
- ・平成30年7月豪雨等による被害状況等について
内閣府

【令和元年東日本台風(台風19号)】

- ・令和元年台風第19号に関する静岡県気象速報
静岡地方気象台
- ・令和元年10月12日 台風第19号の影響による菊川流域の出水状況(第2報)
国土交通省 中部地方整備局 浜松河川事務所
- ・令和元年台風19号による狩野川の出水状況(第2報)
国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所
- ・水害レポート2019 2019年の水害・土砂災害
国土交通省 水管理・国土保全局

【令和2年7月豪雨】

- ・令和2年7月豪雨災害検証報告書(令和2年9月7日)
岐阜県、清流の国ぎふ防災・減災センター
- ・令和2年7月豪雨
気象庁
- ・令和2年7月豪雨による被害状況等について
消防庁

【令和3年7月1日からの大雨】

- ・令和3年7月1日からの大雨による被害状況等について
(令和3年12月3日13時00分現在)
内閣府
- ・令和3年6月30日～7月4日の大雨に関する静岡県気象速報(令和3年7月12日)
静岡地方気象台
- ・令和3年7月豪雨による狩野川水系黄瀬川の出水状況(第2報)(8月4日)
国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所
- ・令和3年7月梅雨前線に伴う大雨への対応 ～黄瀬川大橋(県道富士清水線)
の復旧見通し～(令和3年8月26日)
国土交通省 中部地方整備局
- ・『令和3年7月の梅雨前線に伴う大雨』出水概要(第2報)(令和3年7月26日)
国土交通省 中部地方整備局 河川部
- ・静岡県熱海市伊豆山で発生した土石流災害
国土交通省 砂防部
- ・水害レポート2021
2022年2月 国土交通省 水管理・国土保全局
- ・令和3年7月1日からの大雨による被害及び消防機関等の対応状況
(第38報)(令和5年2月15日(水)17時00分)
消防庁応急対策室

【令和3年8月11日からの大雨】

- ・前線による大雨 令和3年(2021年)8月11日～8月19日(令和3年8月31日)
気象庁
- ・令和3年8月の大雨による木曽川水系の出水状況(第2報)(令和3年8月20日)
国土交通省 中部地方整備局 木曽川上流河川事務所
- ・令和3年8月13日～15日 前線による庄内川(土岐川)の出水状況(第2報)(令和3年8月24日)
国土交通省 中部地方整備局 庄内川河川事務所
- ・令和3年8月12日から15日の大雨に関する岐阜県気象速報(令和3年8月20日)
岐阜地方気象台
- ・令和3年8月12日から19日にかけての大雨に関する長野県気象速報(令和3年8月26日)
長野地方気象台
- ・水害レポート2021
2022年2月 国土交通省 水管理・国土保全局

【台風15号】

- ・令和4年台風第15号による大雨
令和4年(2022年)9月22日～24日(令和4年11月2日)
気象庁
- ・令和4年台風第15号に関する静岡県気象速報(令和4年9月29日)
静岡地方気象台
- ・令和4年9月23日～24日の台風15号による安倍川大井川流域の出水状況(速報版)(令和4年11月2日)
国土交通省 中部地方整備局 静岡河川事務所・長島ダム管理所
- ・令和4年9月23日台風第15号による菊川の出水状況【第一報】
国土交通省 中部地方整備局 浜松河川国道事務所
- ・『令和4年9月の台風第15号に伴う大雨』出水概要 第2報(令和4年10月31日)
国土交通省 中部地方整備局 河川部
- ・令和4年台風第15号による被害及び消防機関等の対応状況(第12報)(令和5年5月15日(月)10時00分)
消防庁災害対策室
- ・令和4年台風第15号への派遣
国土交通省

【梅雨前線と台風第2号による大雨】

- ・梅雨前線及び台風第2号による大雨 令和5年(2023年)6月1日～6月3日(令和5年6月23日)
気象庁
- ・令和5年台風第2号と前線による6月1日から3日にかけての大雨に関する気象速報(令和5年6月9日)
東京管区気象台
- ・令和5年梅雨前線による大雨及び台風第2号による被害及び消防機関等の対応状況(第17報)(令和6年3月6日17時00分)
消防庁応急対策室
- ・「令和5年6月の台風第2号及びそれに伴う前線の活発化による大雨」出水概要(第1報)(令和5年6月6日)
国土交通省 中部地方整備局河川部
- ・「令和5年6月の台風第2号及びそれに伴う前線の活発化による大雨」出水概要(第2報)(令和5年6月28日)
国土交通省 中部地方整備局河川部
- ・台風第2号及びそれに伴う前線の活発化による大雨の庄内川(土岐川)出水状況について【第3報】(令和5年6月8日)
国土交通省 中部地方整備局 庄内川河川事務所
- ・令和5年6月台風2号による狩野川水系黄瀬川の出水状況(第1報)(6月3日現在)
国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所

【台風10号】

- ・令和6年台風第10号による大雨、暴風及び突風
令和6年(2024年)8月27日～9月1日(令和6年10月8日)
気象庁
- ・令和6年台風第10号と暖湿気による8月29日から9月2日にかけての大雨に関する岐阜県気象速報(令和6年9月12日)
岐阜地方気象台
- ・『令和6年台風第10号による大雨』出水概要(第3報)(令和6年12月18日)
国土交通省 中部地方整備局 河川部
- ・令和6年8月31日 台風第10号による菊川の出水状況(第2報)
国土交通省 中部地方整備局 浜松河川国道事務所
- ・岐阜県災害対策本部員会議(第2回)(令和6年9月1日(日) 15:00～)
岐阜県
- ・令和6年台風第10号による被害状況等について 被害状況位置図等 第18報(2024年9月10日現在)
国土交通省
- ・令和6年台風第10号による被害及び消防機関等の対応状況(第22報)(令和7年3月24日(月) 11時00分)
消防庁災害対策本部

【令和6年7月25日からの大雨】

- ・梅雨前線と低気圧による大雨 令和6年(2024年)7月23日～7月26日(令和6年9月3日)
気象庁
- ・【詳細版】令和6年7月25日からの大雨による出水の概要
《第3報 8月20日15時時点》
国土交通省 東北地方整備局 河川部
- ・令和6年7月25日からの大雨による被害状況等について 被害状況位置図等 第19報(2024年9月9日現在)
国土交通省
- ・令和6年7月25日からの前線に伴う大雨による災害対応
《第3報 8月9日17時時点》
国土交通省 東北地方整備局 道路部
- ・【詳細版】令和6年7月25日からの大雨による出水の概要
《第3報 8月20日15時時点》
国土交通省 東北地方整備局 河川部
- ・令和6年7月25日からの大雨による被害及び消防機関等の対応状況(第24報)(令和7年3月24日(月) 11時00分)
消防庁災害対策本部

【令和6年9月20日からの大雨(奥能登豪雨)】

- ・低気圧と前線による大雨 令和6年(2024年)9月20日～9月22日(令和6年10月29日)
気象庁
- ・奥能登豪雨災害被災地を支援しました(2024年12月3日)
静岡県 川根本町
- ・能登半島での地震・大雨を踏まえた水害・土砂災害対策検討会(第1回)資料2-1 検討の背景と論点(令和7年1月14日)
国土交通省
- ・令和6年9月20日からの豪雨による災害発生から1ヶ月の北陸地方整備局の取組
国土交通省 北陸地方整備局
- ・令和6年9月20日からの大雨による被害状況等について 被害状況位置図等 第23報(2024年10月10日現在)
国土交通省
- ・令和6年9月20日からの大雨による被害状況等について 被害状況位置図等 第25報(2024年11月26日現在)
国土交通省
- ・令和6年9月20日からの大雨による被害及び消防機関等の対応状況(第35報)(令和7年1月28日(火) 14時00分)
消防庁災害対策本部

【濃尾地震】

- ・今もいきる 濃尾地震 マグニチュード8.0、日本史上最大の直下地震
一般社団法人中部地域づくり協会
- ・歴史的災害に学び 南海トラフ巨大地震に備える
一般社団法人中部地域づくり協会

【昭和東南海地震・三河地震】

- ・災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 平成19年3月1944東南海地震・1945三河地震
内閣府 防災情報のページ
- ・歴史的災害に学び 南海トラフ巨大地震に備える
一般社団法人中部地域づくり協会

【阪神・淡路大震災】

- ・「阪神・淡路大震災」特設サイト
気象庁
- ・阪神・淡路大震災「1.17の記録」
神戸市

【チリ地震による津波】

- ・チリ中部沿岸を震源とする地震による津波について(第19報)(平成22年3月8日)
消防庁
- ・チリ中部沿岸を震源とする地震による津波について(平成22年3月26日)
内閣府

【3.11東日本大震災】

- ・東日本大震災支援活動
平成23年5月 社団法人東北建設協会
- ・平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の被害状況(第165報)
消防庁
- ・令和3年2月13日23時08分頃の福島県沖の地震について(令和3年2月14日)
気象庁

【御嶽山噴火】

- ・御嶽山の火山活動に係る被害状況等について(第40報)
消防庁
- ・御嶽山噴火への対応(速報 平成26年10月30日ver)
国土交通省 中部地方整備局
- ・気象庁 ホームページ(御嶽山 有史以降の火山活動)

【熊本地震】

- ・平成28年(2016年)熊本地震 ～The 2016 Kumamoto Earthquake～
気象庁
- ・熊本県熊本地方を震源とする地震について
国土交通省
- ・平成28年熊本地震による土砂災害の概要
国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部
- ・平成28年(2016年)熊本地震の評価
地震調査委員会

【大阪府北部地震】

- ・平成30年6月18日7時58分頃の大阪府北部の地震について
気象庁
- ・大阪北部地震被害状況等
国土交通省 近畿地方整備局
- ・大阪府北部を震源とする地震に係る被害状況等について
内閣府

【北海道胆振東部地震】

- ・平成30年北海道胆振東部地震に係る復旧・復興等の状況
国土交通省 北海道開発局
- ・平成30年北海道胆振東部地震に係る被害状況等について
内閣府
- ・平成30年北海道胆振東部地震
気象庁
- ・平成30年北海道胆振東部地震の評価
地震調査委員会

【令和6年能登半島地震】

- ・孤立集落の現状と課題(令和6年1月19日 知事記者会見記録)
石川県
- ・第四報 2024年能登半島地震の緊急調査報告(海岸の隆起調査)
産業技術総合研究所地質調査総合センター
- ・斉藤大臣会見要旨(2024年2月2日(金)9:31～9:39)
国土交通省
- ・令和6年能登半島地震に係る被害状況等について
(令和6年1月3日8時00分現在)
内閣府 非常災害対策本部
- ・令和6年能登半島地震に係る被害状況等について
(令和7年3月11日14時00分現在)
内閣府 非常災害対策本部
- ・「令和6年能登半島地震」について(第5報)(令和6年1月2日10時15分)
気象庁 地震火山部
- ・「令和6年能登半島地震」における気象庁起動調査班(JMA-MOT)
による津波に関する現地調査の結果について(令和6年1月26日)
気象庁 地震火山部
- ・岐阜県災害情報 令和6年能登半島地震による被害概要等
【1月2日(月)8時30分現在(第2報)】
岐阜県災害情報集約センター
- ・岐阜「高山陣屋」など岐阜県でも文化財に地震の被害確認
NHK 東海 NEWS WEB
- ・令和6年能登半島地震の影響による鉄道の状況について
(令和6年1月26日10:00時点)
国土交通省
- ・令和6年能登半島地震 国道470号能越自動車道 緊急復旧の状況
のと三井IC～のと里山空港IC(担当会社 株大林組 前田建設工業株)
国土交通省
- ・令和6年能登半島地震 TEC-FORCE災害対応状況
国土交通省 緊急災害対策派遣隊
- ・令和6年能登半島地震における被害と対応について(第52報)
(令和6年1月25日14:00現在)
国土交通省
- ・令和6年能登半島地震(最大震度7)による土砂災害発生状況
(令和6年7月1日13時00分時点)
国土交通省
- ・令和6年能登半島地震非常災害対策本部会議(第1回)
内閣府 防災情報のページ
- ・令和6年1月1日16時10分頃の石川県能登地方の地震について(第2報)
(令和6年1月1日)
気象庁 地震火山部
- ・顕著な災害を起こした自然現象の名称について(平成30年7月9日)
気象庁

【災とSeeing】

- ・CBC防災ステーション宣言 災とSeeing
CBCテレビ
- ・連載「災とSeeing」東海地方の災害の歴史、動画と文章でたどる
中日新聞

【中部地方を襲った昭和の主な豪雨災害】

- ・災害をもたらした気象事例(昭和20～63年)
気象庁ホームページ
- ・過去の災害情報
愛知県ホームページ
- ・バーチャル文書館 デジタル展示室
令和元年度企画展 写真で見るあいちの地震・台風ー伊勢湾台風60年ー
愛知県公文書館ホームページ
- ・昭和34・35・36年 連年災害復興誌
昭和40年12月発行 岐阜県
- ・岐阜市史 通史編 現代
昭和56年11月30日発行 岐阜市
- ・土砂災害の歴史
国土交通省 中部地方整備局 静岡河川事務所ホームページ
- ・10C 昭和36年(1961)36・6梅雨前線豪雨(岐阜市)
災害アーカイブスぎふ ホームページ
- ・10E 昭和43年(1968)8・17集中豪雨(白川町ノバス転落)
災害アーカイブスぎふ ホームページ

【平成以降に起きた大規模災害】

- ・災害をもたらした気象事例(平成元年～令和6年)、他
気象庁
- ・2024年(令和6年)世界の主な異常気象・気象災害
(発表日:2025年1月17日)
気象庁
- ・桜島の火山活動による被害及び消防機関等の対応状況(第4報)
(令和4年7月28日(木)17時00分)
消防庁災害対策室

【たいせつな命を守るために】

- ・国土交通省 中部地方整備局ホームページ
(流域治水協議会 ～「流域治水」への転換～)
- ・全国109の一級水系全てにおいて「流域治水プロジェクト」を
策定・公表します(令和3年3月30日)
国土交通省 水管理・国土保全局治水課
- ・「流域治水プロジェクト2.0」を策定します ～気候変動を踏まえた
河川及び流域での対策の方向性を公表～(令和5年8月22日)
国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課、治水課

白黒写真をカラー写真へ

彩色でよみがえる 災害の記録

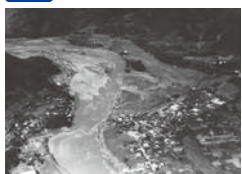


中部地域づくり協会では、多くの方に災害をより身近な現実として感じていただくため、災害当時の白黒写真をカラー化しています。本冊子には、このカラー化した写真が挿入されています。「彩色でよみがえる災害の記録」が、「迫りくる災害の備え」の一助になれば、幸いです。

P9 狩野川台風



P9 狩野川台風



P11 伊勢湾台風



P13 三六災害



P13 三六災害



P14 三六災害



P17 七夕豪雨・水害



P18 七夕豪雨・水害



P20 9.12豪雨災害(安八豪雨)



P57 濃尾地震



P58 昭和東南海地震



P58 昭和東南海地震



自然に学び、自然に備える

編集・発行



一般社団法人

中部地域づくり協会

〒467-0856 名古屋市瑞穂区新開町21番10号
TEL.(052)871-9380 FAX.(052)871-9382

令和7年5月 発行

印刷：水谷印刷株式会社

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



編集・発行



一般社団法人

中部地域づくり協会

〒467-0856 名古屋市瑞穂区新開町21番10号
TEL.(052)871-9380 FAX.(052)871-9382

一般社団法人 中部地域づくり協会は流域治水オフィシャルサポーターです

